



WinKeeper v7.5 / WinKeeper TB v1.5 管理者マニュアル

目次

1. はじめに	4
システム構成例	5
製品アイテム構成	5
1-1. システムの必要条件	6
WinKeeper Client	6
WinKeeper TB Client	6
WinKeeper Server / WinKeeper TB Server	7
WinKeeper Server と Client を同一の PC にインストールする	7
Windows OS の Service Pack 対応について	7
2. WinKeeper / WinKeeper TB の機能紹介	8
2-1. WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の機能	9
基本設定	9
制限機能	12
クラス制御	13
拡張設定 1	14
拡張設定 2	16
2-2. WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の機能	18
基本機能	18
拡張設定 1	21
拡張設定 2	23
その他	24
3. インストールとアンインストール	25
3-1. 導入前の確認事項	26
製品の確認	26
ライセンスについて	26
インストールする環境の確認	27
3-2. インストール	28
WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 基本機能のインストール	28
WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 拡張機能 1 のインストール	33
WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 拡張機能 2 のインストール	34
WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 基本機能のインストール	35
WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 拡張機能 1 のインストール	37
WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 拡張機能 2 のインストール	38
リモートコントロール機能のインストール	39
通信制御機能のインストール	40
3-3. 設定手順	41
WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定手順	41
WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の設定手順	41
3-4. アンインストール	42
WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のアンインストール	42
WinKeeper Server / WinKeeper TB Server のアンインストール	45

4. WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定	49
4-1. WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定	50
運用上の注意点	50
WinKeeper アイコンの状態	50
サーバ接続	51
コンソールの起動と終了	52
コンソール画面説明	54
4-2. WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の機能設定	57
使用する機能の選択	57
フォルダ保護の設定と解除	58
レジストリ復元の設定	65
自動ログオンの設定	67
問題解決の設定	69
付加機能の設定	73
自動ファイル削除の設定	75
システム制限の設定	78
通信制御の設定	79
Wi-Fi 接続制限	81
Windows チューニングの設定 ※WinKeeper Client のみ	83
ディスククリーナーの設定	85
タイマーのスケジュール設定 / 編集 / 削除	85
プログラム実行管理の追加と削除	89
インストール制限の設定	93
危険プログラム管理の設定	93
保護設定スケジュールの設定	94
4-3. 保護状態の選択	96
保護実行 / 保護停止 / 保護終了 / 保護再実行	96
4-4. その他の機能	97
設定情報の保存とコピー	97
環境保存	97
環境読込	98
パスワード変更	99
設定ウィザード	100
サーバ接続	100
再起動の待ち時間変更	101
ヘルプ	101
バージョン情報	102
5. WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の設定	103
5-1. WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の設定	104
運用上の注意点	104
コンソールの起動と終了	104
画面説明	105
5-2. WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の機能設定	108
WinKeeper グループリスト(グルーピング)	108

PC の保護設定	110
WinKeeper Client のコンソール起動	112
保護設定のコピーと適用	113
ジョブ予約の設定	116
自動ログオンの設定	117
通信制御の設定	121
管理者メッセージとコマンド実行の送信	122
PC のリモートコントロール	123
ファイル配布の設定	125
アップデートによるパッチファイルの配信	127
PC の電源管理	129
危険リスト配信	130
パスワードの変更	131
保護設定スケジュールの設定	132
機能制限	138
利用シーンの設定 ※WinKeeper TB Server, WinKeeper TB Client のみ	140
バッテリー管理の設定 ※WinKeeper TB Server のみ	149
WinKeeper TB (利用シーン)アクションの解除方法について	150



1.はじめに

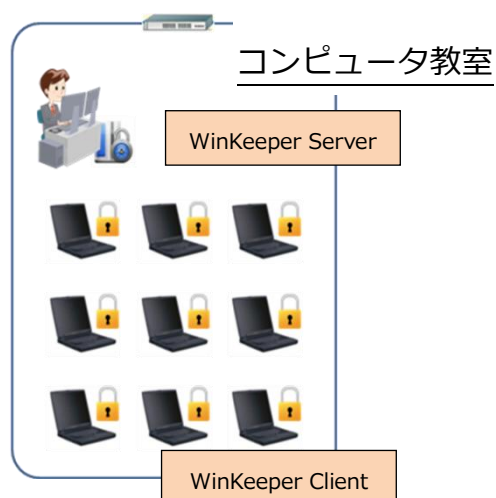
ここでは、WinKeeper / Winkeeper TB のシステムの概要とシステム必要条件について説明します。

システム構成例

■ WinKeeper

WinKeeper Client / WinKeeper Server の構成

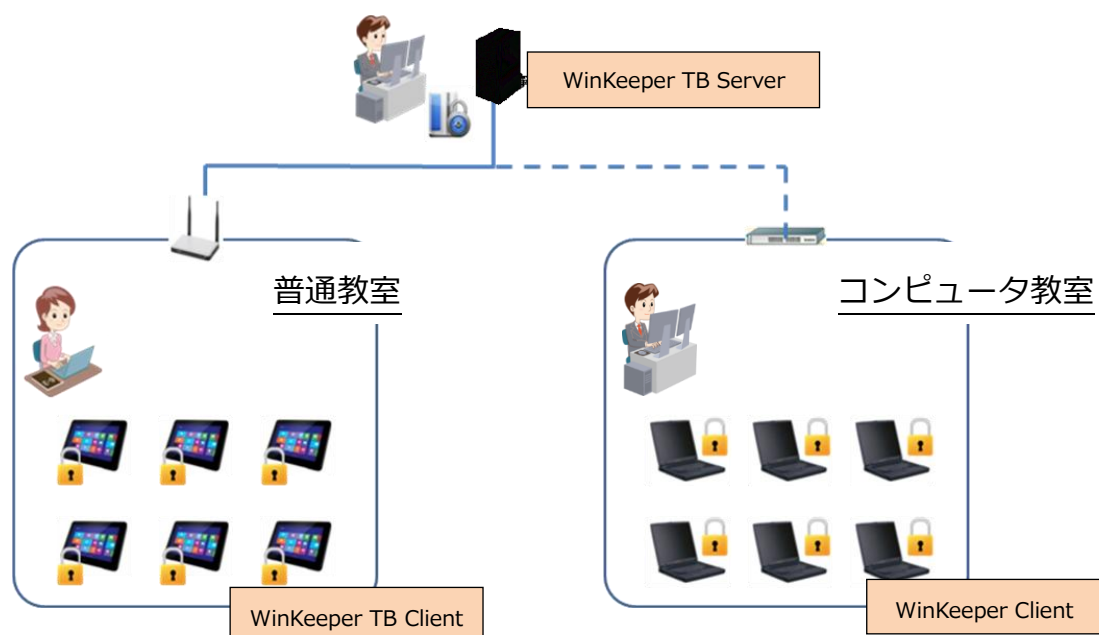
図 1-1



■ WinKeeper TB

WinKeeper TB Client / WinKeeper TB Server の構成

図 1-2



※ WinKeeper TB Server は WinKeeper Client を接続し、管理することが可能です。

- WinKeeper Server / WinKeeper TB Server は、各セグメントから名前解決ができる環境に配置する必要があります。

製品アイテム構成

	サーバーソフト	クライアントソフト
WinKeeper	WinKeeper Server	WinKeeper Client
WinKeeper TB	WinKeeper TB Server	WinKeeper Client WinKeeper TB Client

1-1. システムの必要条件

WinKeeper Client

OS	: Windows 10 Pro (32bit 版及び 64bit 版) Windows 8.1 Pro (32bit 版及び 64bit 版) Windows 7 Professional SP1 (32bit 版及び 64bit 版)
CPU	: Intel Core 2 Duo 2.1GHz 以上
メモリ	: 2GB 以上
HDD	: 200MB 以上の空き領域 (別途、保護データの一時保存領域がシステムドライブ上に必要になります)
アプリケーション	: Internet Explorer 11.0 / Edge Adobe Reader (ヘルプファイル用) Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable(インストール時に含まれる)

- ウイルス対策製品などの常駐監視型のアプリケーションと同居し、且つファイルサイズの大きいデータを頻繁に扱う環境では、WinKeeper の保護中に大きな負荷が生じる恐れがあります。快適に運用されるためには、運用環境に応じて推奨値以上のスペックの PC を準備して頂くことをお勧めします。
- WinKeeper RC_Client の動作環境は WinKeeper Client と同様です。
- WinKeeper NW_Control の動作環境は WinKeeper Client と同様です。

WinKeeper TB Client

OS	: Windows 10 Pro (32bit 版及び 64bit 版) Windows 8.1 Pro (32bit 版及び 64bit 版)
CPU	: Intel Atom Z2760 1.80GHz 以上 Intel Core 2 Duo 2.1GHz 以上
メモリ	: 2GB 以上
HDD	: 200MB 以上の空き領域 (別途、保護データの一時保存領域がシステムドライブ上に必要になります)
アプリケーション	: Internet Explorer 11.0 / Edge Adobe Reader (ヘルプファイル用) Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable(インストール時に含まれる) .NET Framework 4.0 以上

- ウイルス対策製品などの常駐監視型のアプリケーションと同居し、且つファイルサイズの大きいデータを頻繁に扱う環境では、WinKeeper の保護中に大きな負荷が生じる恐れがあります。快適に運用されるためには、運用環境に応じて推奨値以上のスペックの PC を準備して頂くことをお勧めします。
- WinKeeper RC_Client の動作環境は WinKeeper Client と同様です。
- WinKeeper Client Extension の動作環境は WinKeeper TB Client と同様です。
- データの自己消去機能は UEFI 起動のパソコンのみ利用可能です。また、使用する為には、WinKeeper Client Extension のインストールが必要です。

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server

OS	: Windows 10 Pro (32bit 版及び 64bit 版) Windows 8.1 Pro (32bit 版及び 64bit 版) Windows 7 Professional SP1 (32bit版及び64bit版) Windows Server 2016 Standard Windows Server 2012 R2 Standard Windows Server 2012 Standard Windows Server 2008 R2 Standard Edition (64bit) Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition (64bit) Windows Server 2008 Standard Edition SP2 Windows Server 2008 Enterprise Edition SP2
CPU	: Intel Core 2 Duo 2.1GHz 以上
メモリ	: 2GB 以上
HDD	: 350MB 以上の空き領域
アプリケーション	: Internet Explorer 11.0 / Edge Adobe Reader (ヘルプファイル用) Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable(インストール時に含まれる) .NET Framework 4.0 以上

- 規模の大きなネットワーク、負荷の高いアプリケーション環境、自動ログオンを実施する環境などでは、頻繁な読み取りや書き込みが発生します。運用状況に応じて推奨値以上のスペックを準備して頂くことをお勧めします。
- WinKeeper RC_Client の動作環境は WinKeeper Client と同様です。
- WinKeeper NW_Control の動作環境は WinKeeper Client と同様です。
- WinKeeper RC_Server の動作環境は WinKeeper Server と同様です。
- 異なるバージョン(例:v4.x と v6.x, v5.x と v6.x)の組み合わせによるネットワーク管理はサポートしていません。
- 通信制御機能における対応ブラウザは、以下を参照してください。
ブラウザ : Internet Explorer(iexplore.exe,iexplore.exe*32)
: Edge

WinKeeper Server と Client を同一の PC にインストールする

OS	: Windows 10 Pro (32bit 版及び 64bit 版) Windows 8.1 Pro (32bit 版及び 64bit 版) Windows 7 Professional SP1 (32bit 版及び 64bit 版)
CPU	: WinKeeper Client に準じる
メモリ	: WinKeeper Client に準じる

Windows OS の Service Pack 対応について

WinKeeper をインストールする Windows OS に Microsoft から最新の Service Pack(SP)が提供された場合、SP 導入による影響が発生することがあります。SP を適用した環境で運用する場合、設定変更などの必要な処置がある場合は、弊社のテクニカルサイトからアナウンスを致します。SP の適用を行う場合は弊社のテクニカルサイトで最新のサポート情報を確認してください。

2

2.WinKeeper / WinKeeper TB の機能紹介

ここでは、WinKeeper / WinKeeper TB の機能設定について説明します

ボタン	機能	概要	WinKeeper Client	WinKeeper TB Client
基本設定	フォルダ保護	保護指定したフォルダ内のファイルの復元設定を行うことができます。	○	○
	レジストリ復元	レジストリデータの復元設定を行うことができます。	○	○
	自動ログオン	自動ログオンの各種設定を行うことができます。	○	○
	問題解決	競合するモジュールに対する除外処理を行うことができます。	○	○
	付加機能	ロック画面の画像選択、WinKeeper アイコンの非表示設定、ライセンスキーの変更を行うことができます。	○	○
	自動ファイル削除	一定期間で自動削除を実施するファイルディレクトリの変更・設定を行うことができます。	○	○
制限機能	システム制限	設定変更に関わる項目の起動制限設定を行うことができます。	○	○
	通信制御	ブラウザやオンラインゲーム等を制限する設定を行うことができます。	○	—
クラス制御	Wi-Fi 制御	接続する SSID を固定させることができます。	○	○
拡張 1	Windows チューニング	デスクトップアイコン等を非表示にさせてアクセス制限の設定を行うことができます。	○	—
	ディスククリーナー	ごみ箱やインターネット一時ファイルの削除設定を行うことができます。	○	○
	タイマー	指定した時間に処理を実施するタイマー設定を行うことができます。	○	○
	プログラム実行管理	任意のプログラムの起動をホワイトリスト、ブラックリストにて制限します。	○	○
	インストール制限	特定のインストーラによるインストールを制限する設定を行うことができます。	○	○
拡張 2	危険プログラム管理	実行プログラムを制限する設定を INI ファイルで行うことができます。	○	○
	保護設定スケジュール	保護設定の内容を指定した時間により変更することができます。	○	○
その他の機能	設定保存	設定ファイルをエクスポートすることができます。	○	○
	設定読み込み	設定ファイルをインポートすることができます。	○	○
	パスワード変更	クライアントのパスワードを変更することができます。	○	○
	サーバ接続	サーバ接続を変更することができます。	○	○
	設定ウィザード	インストール時に設定したクライアント設定の変更が出来ます。	○	○
	再起動の待ち時間変更	再起動の待ち時間を変更することができます。	○	○
	バージョン情報	バージョン情報を確認することができます。	○	○
	ヘルプ	マニュアルを開くことができます。	○	○
利用シーン切り換え		利用シーンの設定、切り替えを行うことができます。	—	○

2-1.WinKeeper Client / WinKeeper TB Clientの機能

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client はネットワーク内の PC に常駐し、保護 / 制限を行います。

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の機能は[基本設定]、[環境設定]、[オプション]の各カテゴリに分けられています。

環境や運用目的に適した機能を選び、設定を施します。

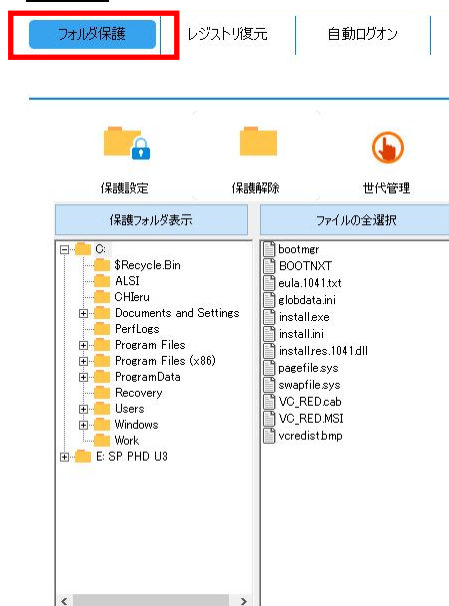
基本設定

■ フォルダ保護 ("P.58 フォルダ保護の設定と解除" 参照)

フォルダ保護機能は共用パソコン上の誤消去や、消し忘れたファイルからの情報漏洩といったトラブルを未然に防ぐ機能です。

保護対象のフォルダ内のデータに対する書き換えや削除、変更は再起動後に保護を開始した時点の状態に復元されます。

図 2-1-1

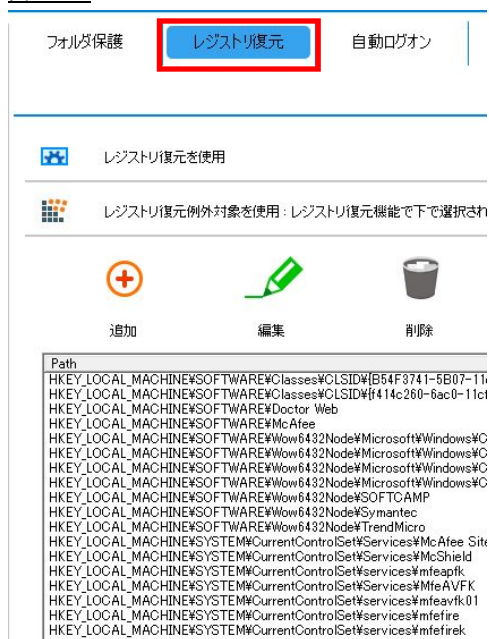


■ レジストリ復元 ("P.65 レジストリ復元の設定" 参照)

保護されている PC のレジストリ情報を取得し、再起動時に保護開始時点に復元する機能です。

プログラムのインストールやウイルス等によるレジストリデータの変更に對し、再起動だけで対処することができます。

図 2-1-2

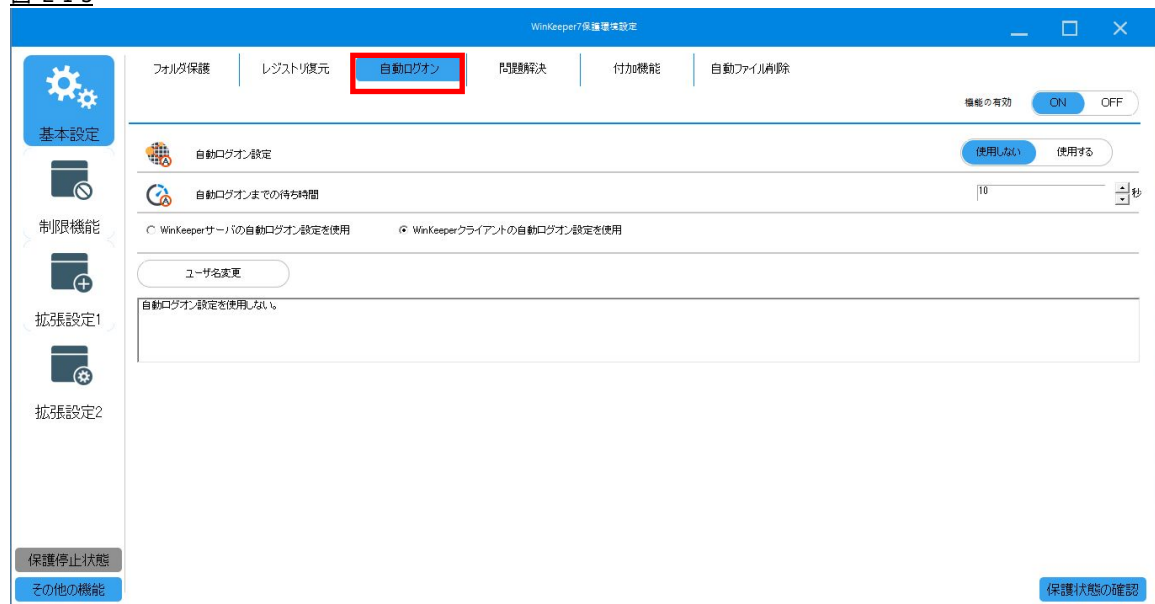


- フォルダ保護機能を使用する時は、必ずレジストリ復元機能と併用してください。
- 両機能を併用しない場合、Windows システムが起動しなくなるなどの深刻な事態が起きる可能性があります。

■ 自動ログオン ("P.67 自動ログオンの設定" 参照)

自動ログオン設定では、クライアント PC のアカウントとパスワードを自動入力し、クライアント PC 起動時にログインするアカウントを設定できます。

図 2-1-3



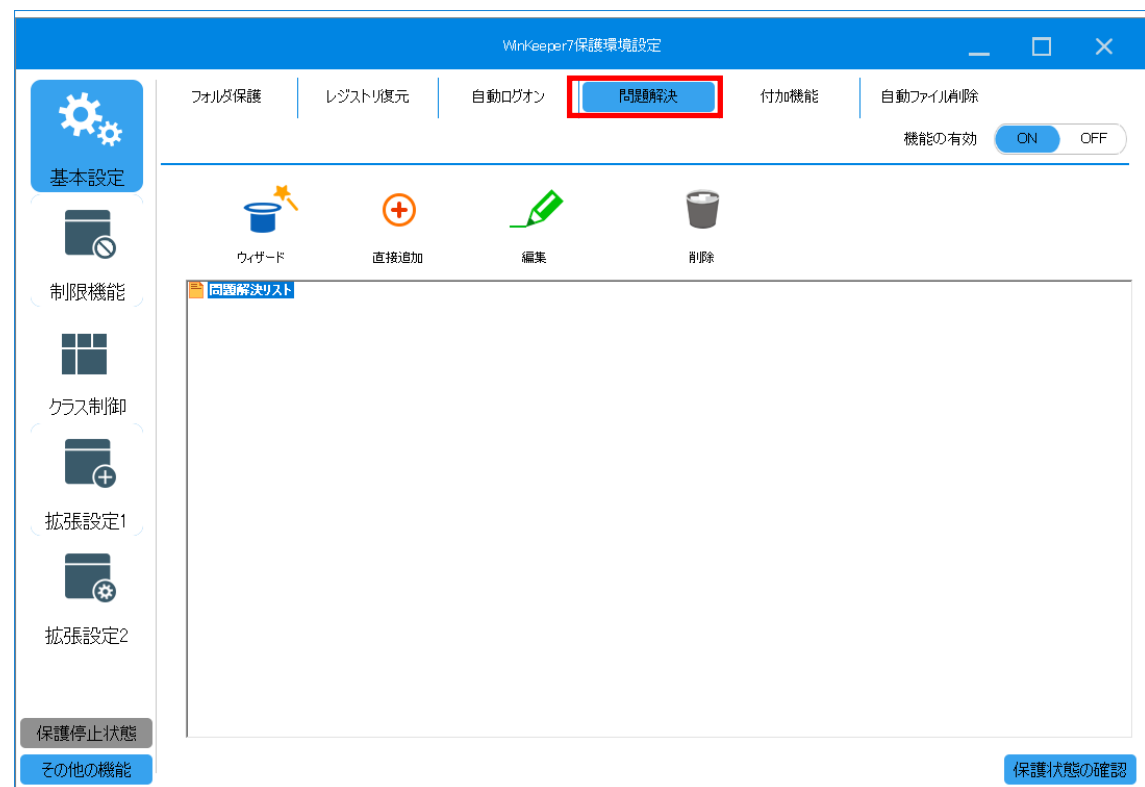
- 自動ログオンを設定する前に、クライアント PC へログオンするアカウントとパスワードを確認してください。

■ 問題解決 ("P.69 問題解決の設定" 参照)

保護実施中に発生する特定アプリケーションとの競合を回避する機能です。競合アプリケーションの動作を WinKeeper に登録し、その処理から派生するファイル生成やデータ変更などの影響を WinKeeper の保護対象から外すことができます。

- 問題解決機能ではレジストリの変更を伴う処理は回避することはできません。

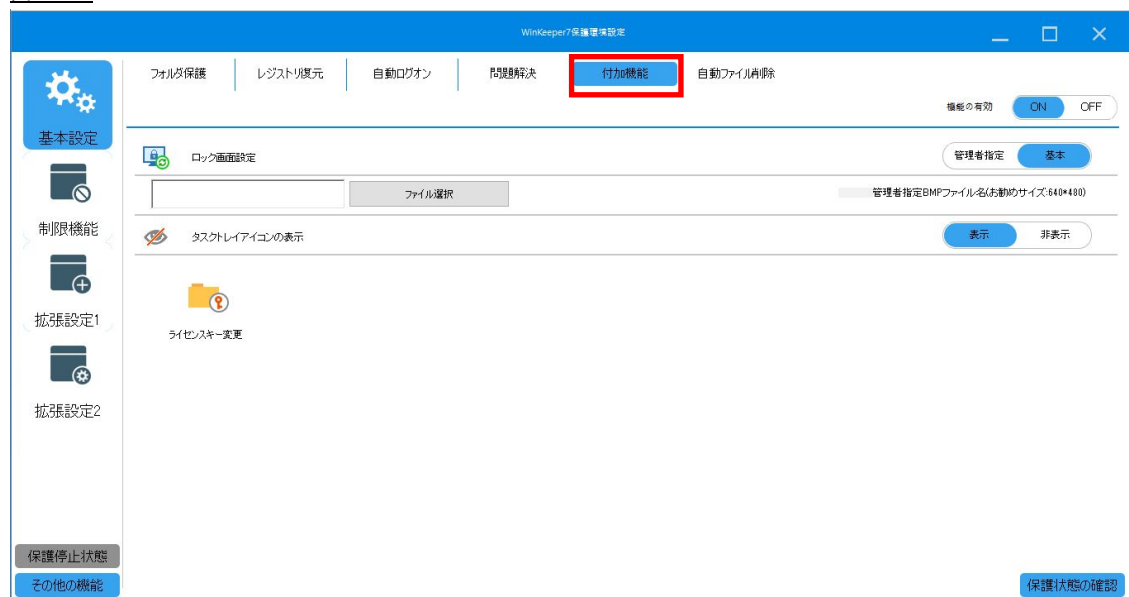
図 2-1-4



■ 付加機能 ("P.73 付加機能の設定" 参照)

タスクトレイアイコンの表示切り替えや、登録したライセンスキーの変更など運用に応じて環境設定を変更する機能です。

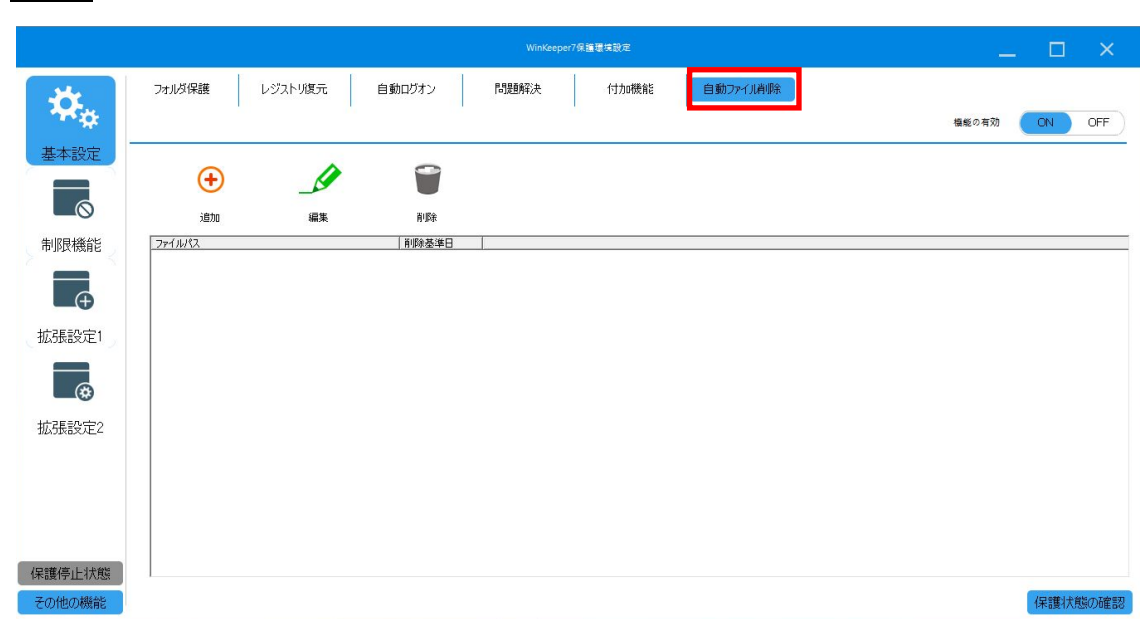
図 2-1-5



■ 自動ファイル削除 ("P.75 自動ファイル削除の設定" 参照)

一定期間が経過した時点でファイルを自動で削除する機能です。対象のフォルダを追加・変更・削除できます。

図 2-1-6

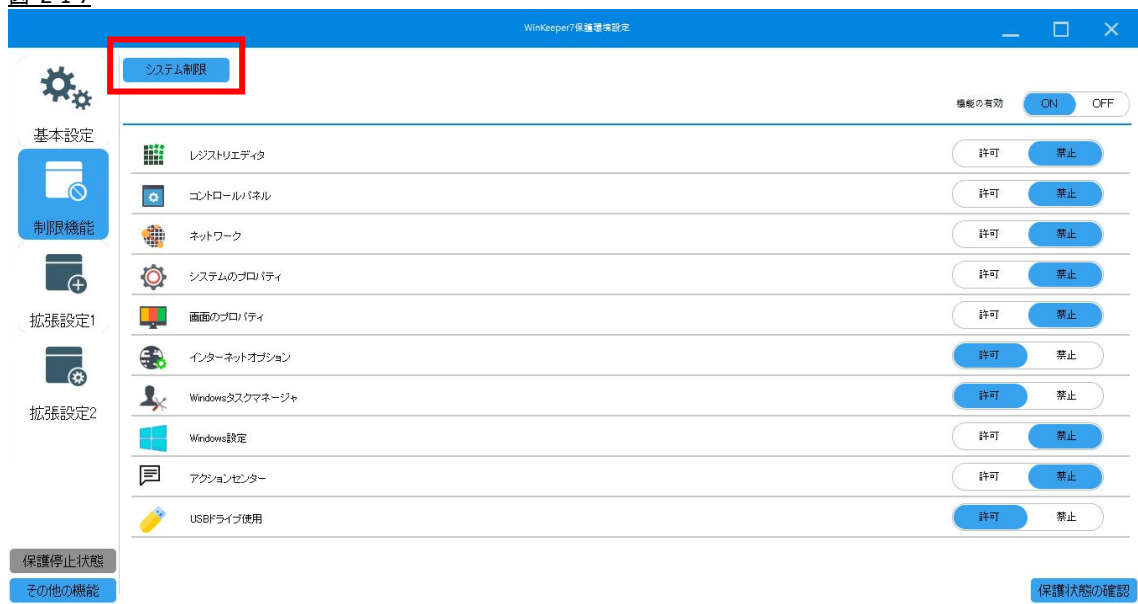


制限機能

■ システム制限 ("P78 システム制限の設定" 参照)

ユーザーによって勝手に変更されては困るレジストリデータやシステム設定画面を制限する機能です。
不特定多数のユーザーが触れる環境など、設定の維持が困難な環境でシステム関連の機能やネットワーク環境を変更できないように制限をかけます。

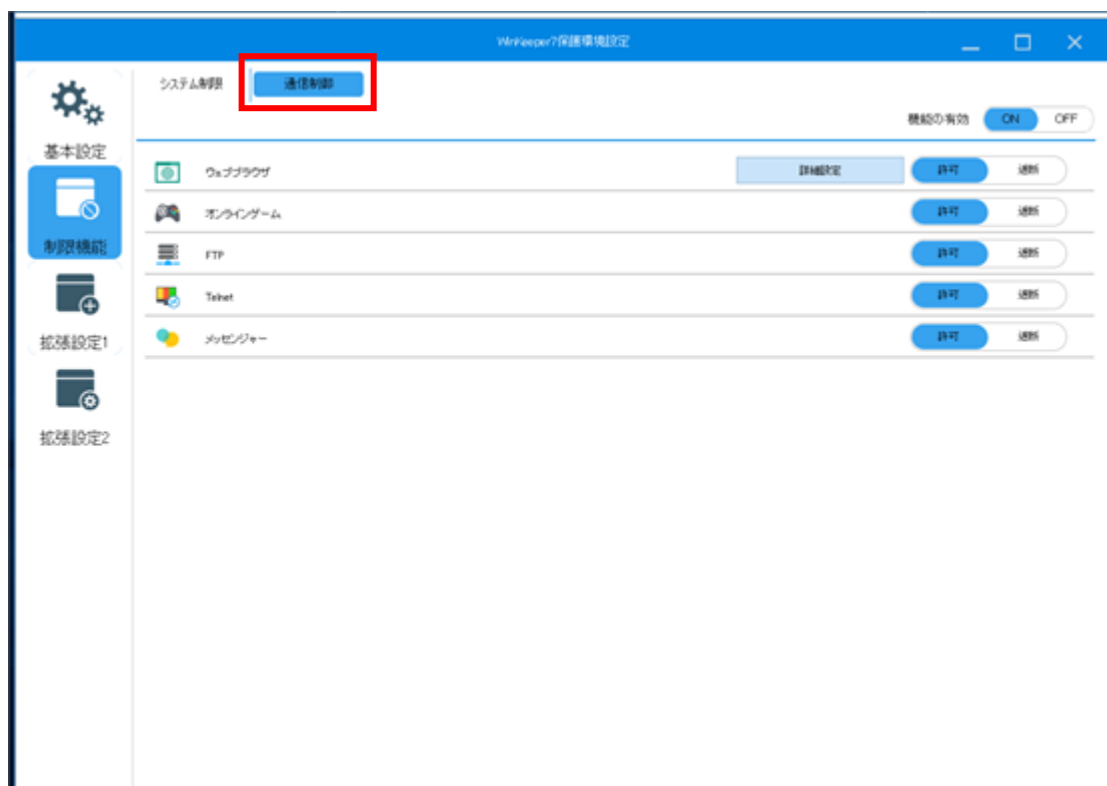
図 2-1-7



■ 通信制御 ("P.121 通信制御の設定" 参照)

ウェブブラウザやオンラインゲーム・FTP など、業務・授業に関係ない通信機能を制限する機能です。

図 2-1-8

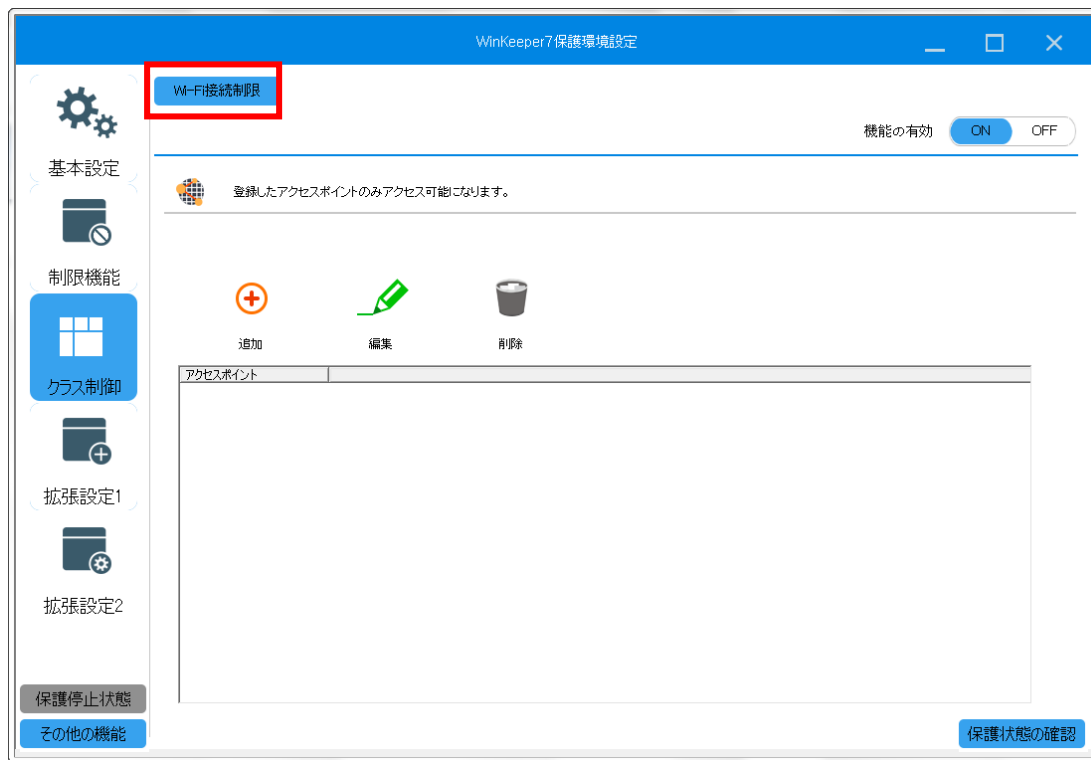


クラス制御

■ Wi-Fi 接続制限 ("P.81 Wi-Fi 接続制限" 参照)

接続可能な SSID を制限することで、利用するネットワークを限定できます。

図 2-1-9



拡張設定 1

■ Windows チューニング ("P.83 Windows チューニングの設定 ※WinKeeper Client のみ" 参照)

誤操作を避けるために不要なアイコンを非表示にするなど、Windows 環境を特定の用途に適した状態にチューニングします。
[デスクトップアイコン制御]、[スタートメニュー制御]の設定で、ユーザーからのアクセスを防ぐことができます。

- Windows チューニングはレジストリ値の変更を伴うので、設定を適用するには再起動が必要な場合があります。
- Windows 8.1 / 10 では、利用可能な項目に制限があります。
- [スタートメニュー制御]は Windows 7 のみの機能です。
- Windows 10 では、「1.デスクトップのプロパティを無効化」は使用できません。

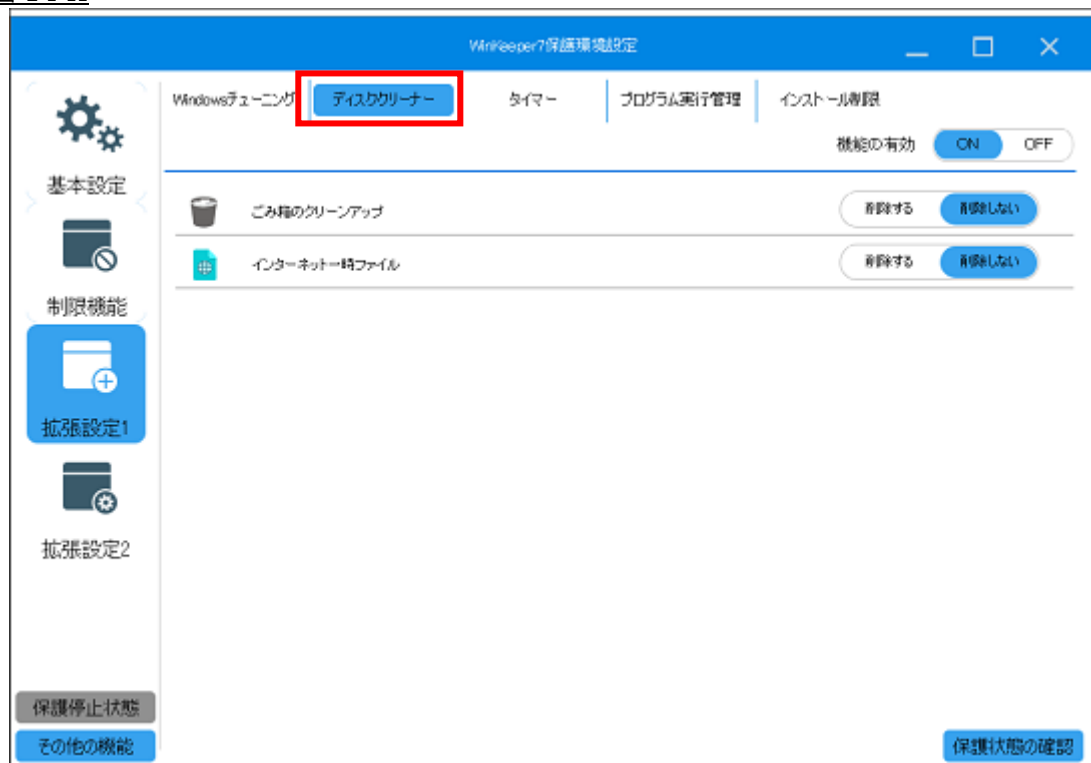
図 2-1-10



■ ディスククリーナー ("P.85 ディスククリーナーの設定" 参照)

再起動時にインターネット一時ファイル / ごみ箱の中身を削除します。

図 2-1-11



■ タイマー ("P.85 タイマーのスケジュール設定 / 編集 / 削除" 参照)

タイマーにより指定した時間に自動的に作業を行います。指定の日時や Windows 起動時間を基準にして、Windows の電源管理や保護機能の実行 / 停止、コマンドラインによるメンテナンス作業などを自動的に行うことができます。

図 2-1-12



■ プログラム実行管理 ("P.89 プログラム実行管理の追加と削除" 参照)

.exe や .com といった実行プログラムをローカルで起動できないように制限する機能です。ローカル上の実行プログラムを[許可][遮断]かのいずれかで制限を行い、制限に対する[例外処理]として対象アプリケーションを登録します。

- 全てのプログラムの実行禁止ではスタートメニューに登録されたプログラムのみ禁止対象となります。
- プログラムの実行を制限できるのは、デスクトッププログラムのみで、ストアアプリを制限することは出来ません。

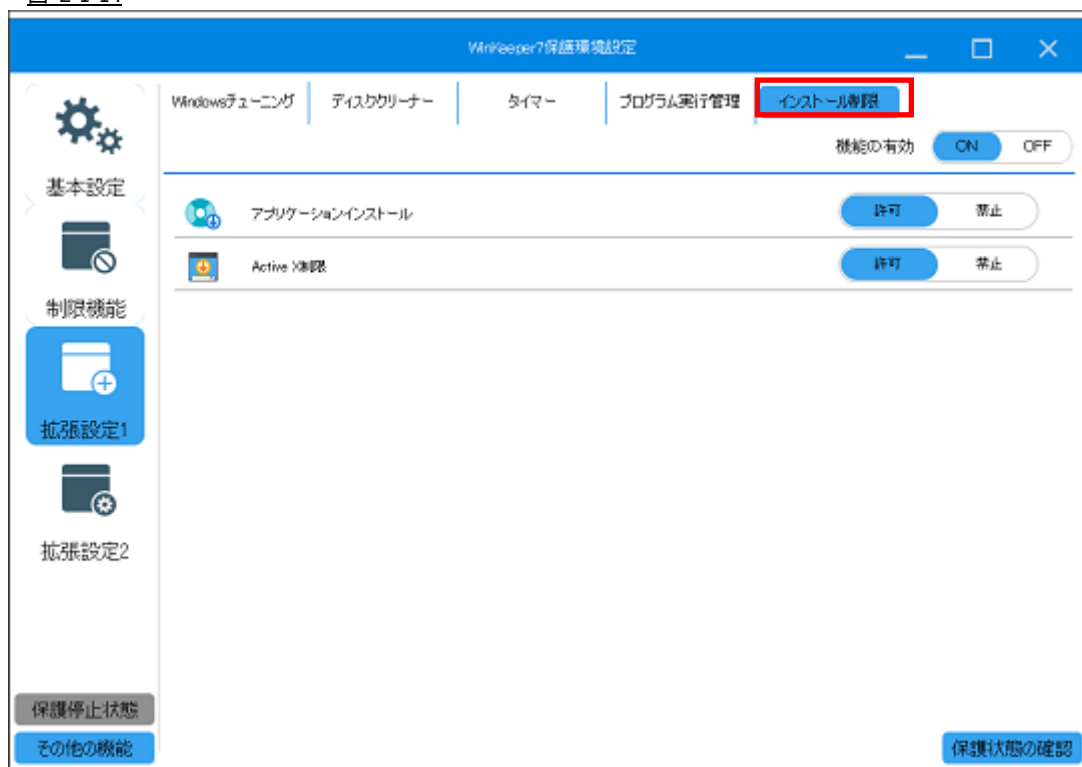
図 2-1-13



■ インストール制限 ("P.93 インストール制限の設定" 参照)

インストール制限機能は運用に不適切なアプリケーション / ActiveX モジュールの新規インストールを制限します。

図 2-1-14

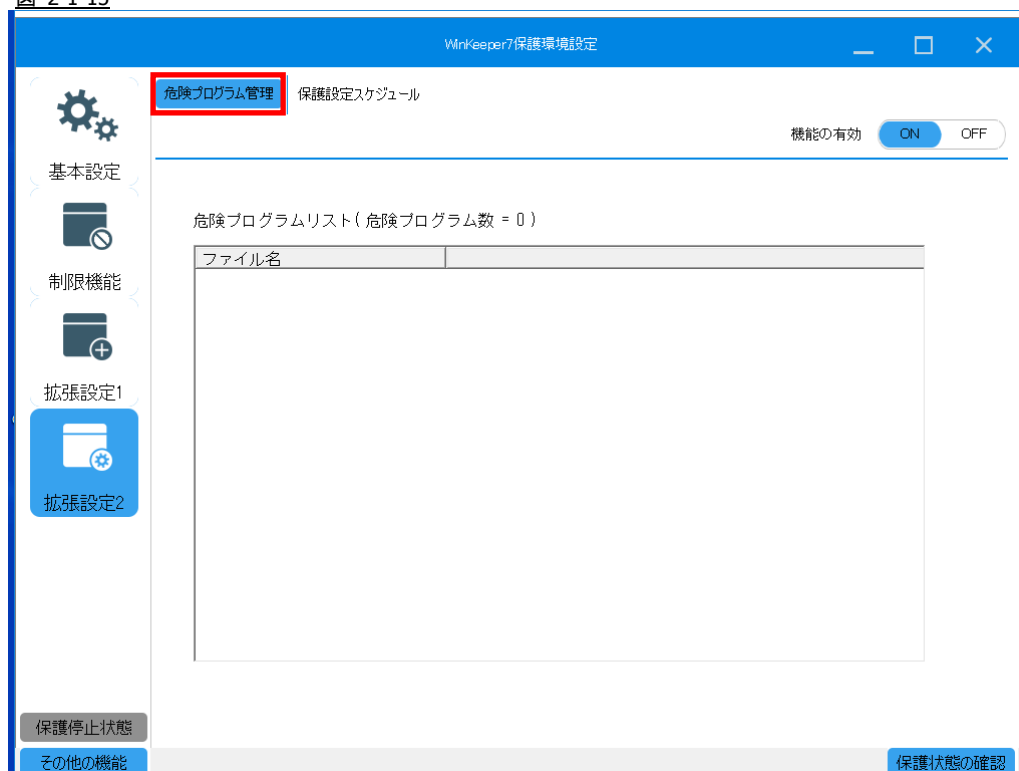


拡張設定 2

■ 危険プログラム管理 ("P.93 危険プログラム管理の設定" 参照)

プログラムを登録してユーザーの利用を制限することで、管理者が実行を望まないプログラムはクライアント PC で起動されません。情報流出などのトラブルを未然に防ぐことができます。

図 2-1-15



■ 保護設定スケジュール ("P94 保護設定スケジュールの設定" 参照)

保護設定の内容を指定した時間により変更する機能です。保護設定を複数持ち、時間にしたがって、保護の内容が自動で適用されます。

図 2-1-16

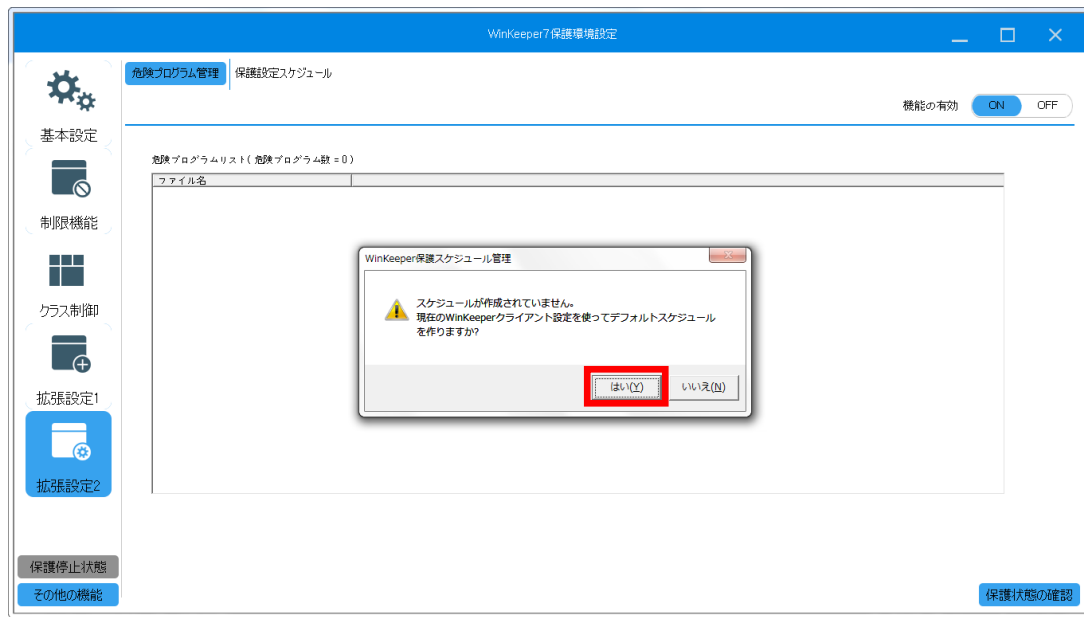


図 2-1-17



2-2. WinKeeper Server / WinKeeper TB Serverの機能

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server はネットワーク内の PC を統合管理し、保護状態やステータスの確認、管理方法の修正を行います。

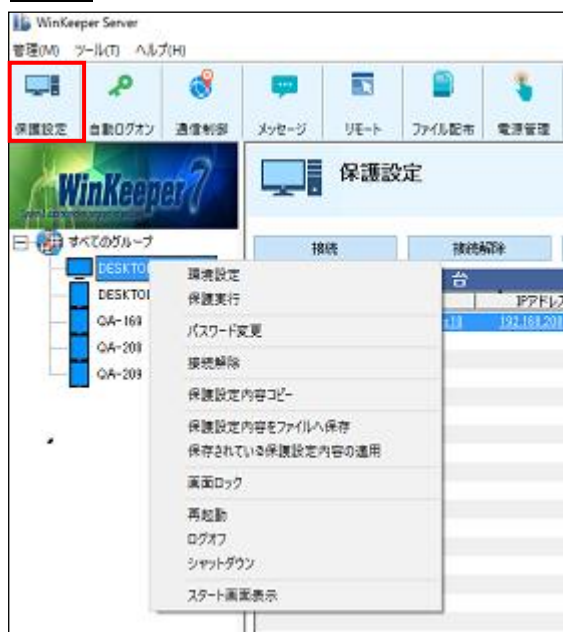
基本機能

■ 保護状態管理 ("P.113 保護設定のコピーと適用" 参照)

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している PC の保護状態をリモートで設定する機能です。

また、[保護設定内容コピー]により WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の保護設定情報を他の PC にコピーできます。

図 2-2-1



■ 自動ログオン ("P.117 自動ログオンの設定" 参照)

[自動ログオン]選択時、マネージメントエリア上部にある機能設定ボタンの[自動ログオン設定]を選択することで、PC の自動ログオンを設定できます。複数のユーザーを登録し、自動ログオンユーザーを切り替えて運用することもできます。

- WinKeeper Server / WinKeeper TB Server で設定した自動ログオンを使用する場合、WinKeeper Client / WinKeeper TB Client で、[WinKeeper サーバの自動ログオン設定を使用]と設定する必要があります。

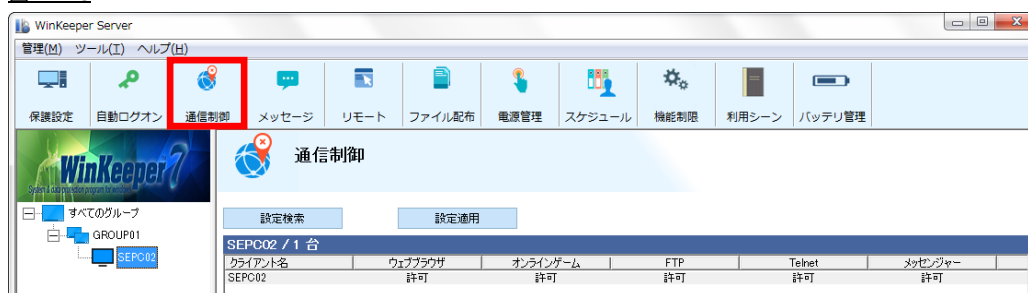
図 2-2-2



■ 通信制御 ("P. 121 通信制御の設定" 参照)

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している PC の通信制御状態を確認、変更する機能です。

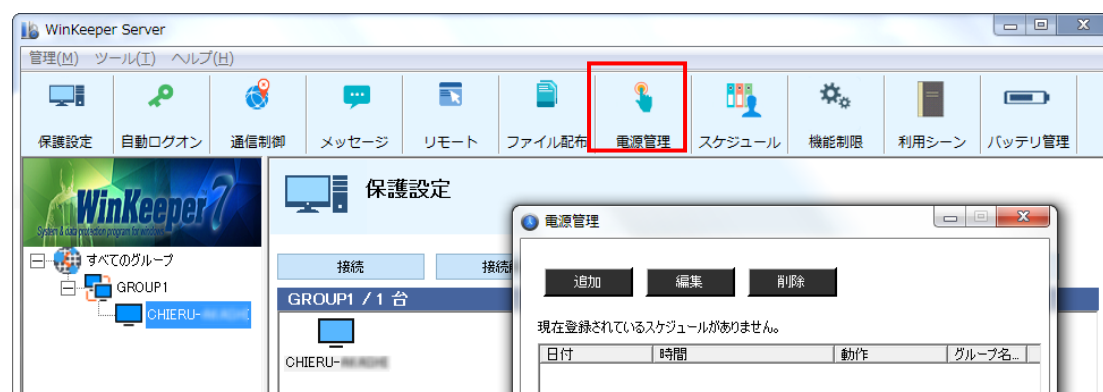
図 2-2-3



■ 電源管理 ("P.129 PC の電源管理" 参照)

電源管理では、毎日、日、曜日と時間で PC の Power ON / 再起動 / シャットダウンをスケジュール管理することができます。

図 2-2-4



■ 機能制限 ("P.138 機能制限" 参照)

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している PC のコントロールパネル、音量（サウンド）、ディスプレイの電源を切る（画面の電源管理）、スリープ（スリープモード）の管理ができます。

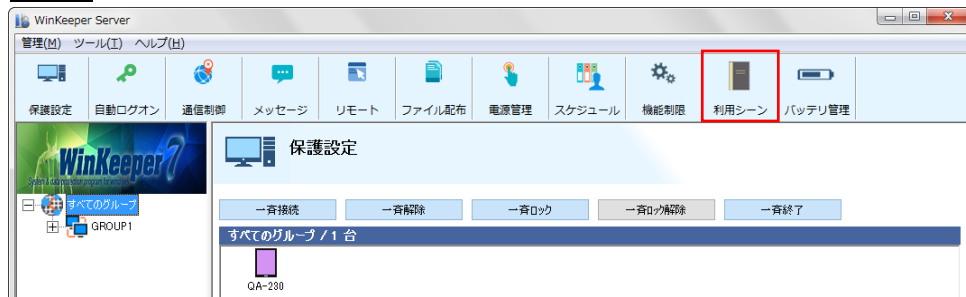
図 2-2-5



■ **利用シーン** ("P.140 利用シーンの設定 ※WinKeeper TB Server, WinKeeper TB Client のみ" 参照)

タブレット向けの環境を利用シーンに応じて一斉に切り替えます。様々な用途に最適な環境を用意することで、それぞれの学習に集中させることができます。

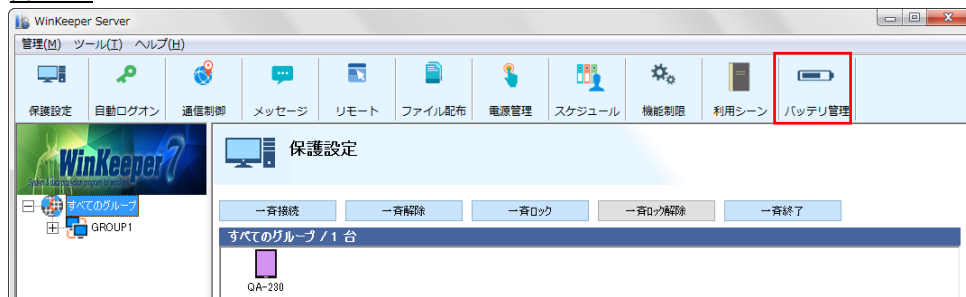
図 2-2-6



■ **バッテリー管理** ("P.149 バッテリー管理の設定 ※WinKeeper TB Server のみ" 参照)

WinKeeper TB Client のバッテリー残量の把握やバッテリー残量に応じたメッセージの表示ができます。

図 2-2-7



拡張設定 1

■ メッセージ / コマンド配信 ("P.122 管理者メッセージとコマンド実行の送信")

メッセージ / コマンド配信機能では送信対象の PC を選択し、[管理者メッセージ]または[コマンド実行]を選択することで選択した PC に対して入力したメッセージを表示させたり、コマンドを実行させることができます。

図 2-2-8



■ ファイル配布 ("P.125 ファイル配布の設定" 参照)

[ファイル配布]では WinKeeper Client / WinKeeper TB Client に対して、指定したファイルパス上に単一もしくは複数のファイルを配信できます。転送したファイルを転送完了後に起動させることもできます。

図 2-2-9



■ 画面ロック ("P.73 ロック画面の設定" 参照)

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している PC をリモートで画面ロックする機能です。

画面ロックは WinKeeper Server コンソールから解除するか、[ESC]キーをクリックし、パスワードを入力することで解除できます。

図 2-2-10

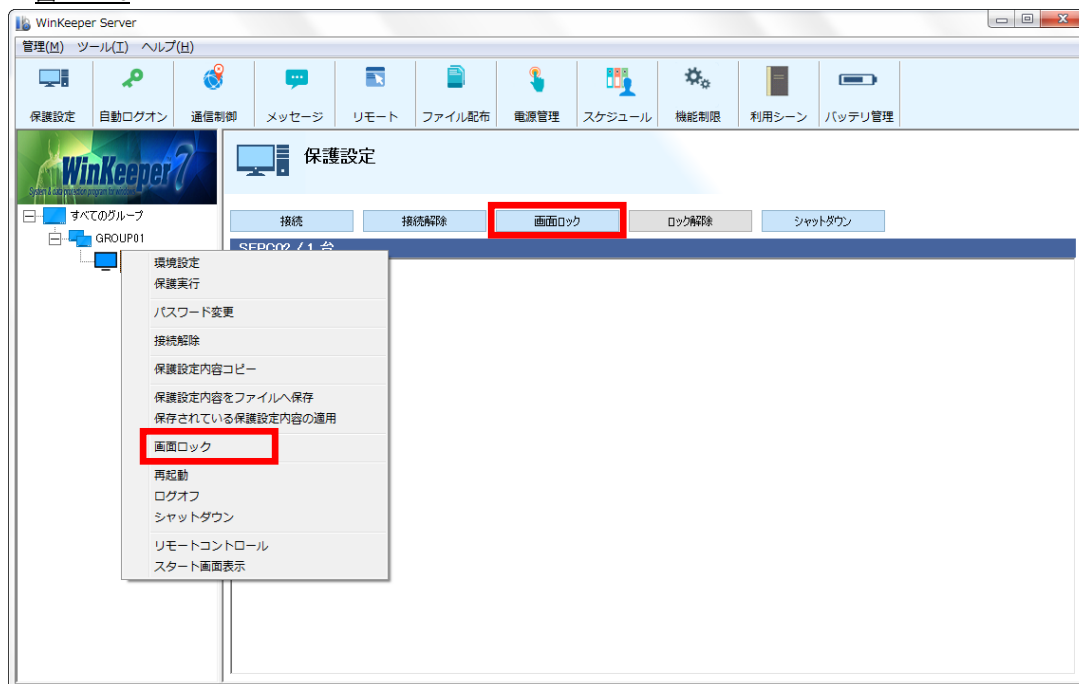
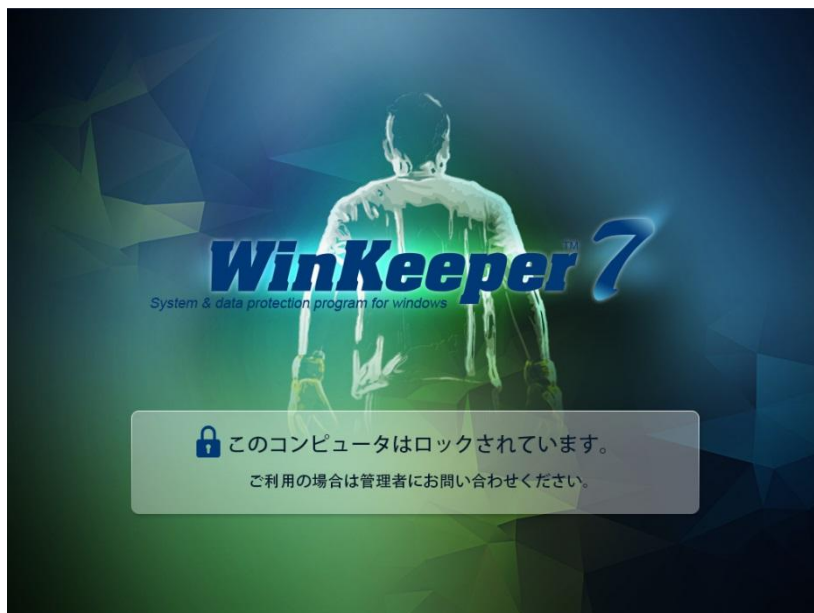


図 2-2-11



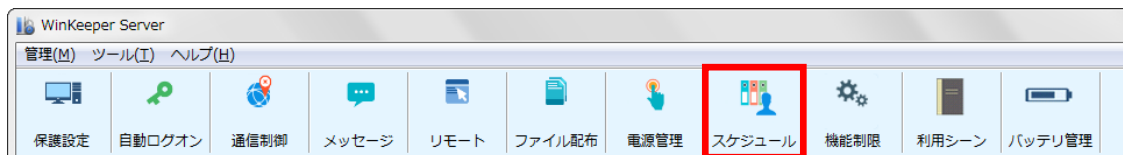
- 選択している PC 全台に対して画面ロックが実施されます。PC 未選択時には、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している PC 全台に対して、画面ロックが実施されます。

拡張設定 2

■ スケジュール ("P. 132 保護設定スケジュールの設定" 参照)

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している PC の保護設定スケジュールを設定する機能です。

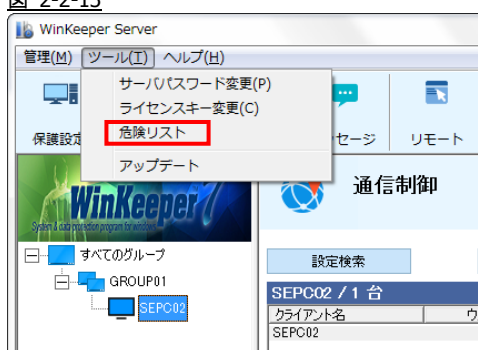
図 2-2-12



■ 危険リスト ("P. 130 危険リスト配信" 参照)

プログラムの実行を制限するための実行ファイル名のリストを配信する機能です。

図 2-2-13



その他

■ アップデート ("P. 127 アップデートによるパッチファイルの配信" 参照)

[アップデート]機能の選択時、マネージメントエリア上の[最新版のダウンロード]を選択するとアップデートウィザードが表示されます。ウィザードの内容に従ってアップデートファイルを PC に配信することができます。

図 2-2-14

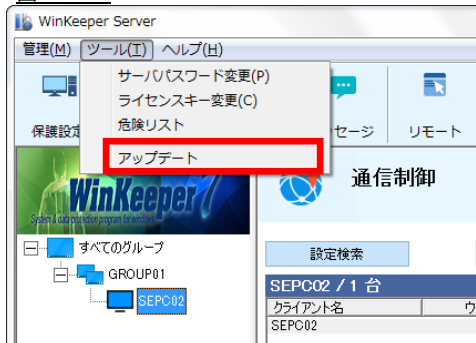
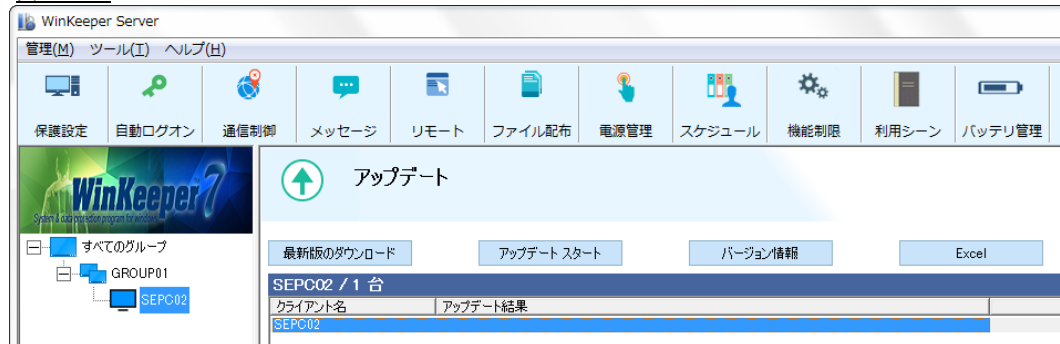


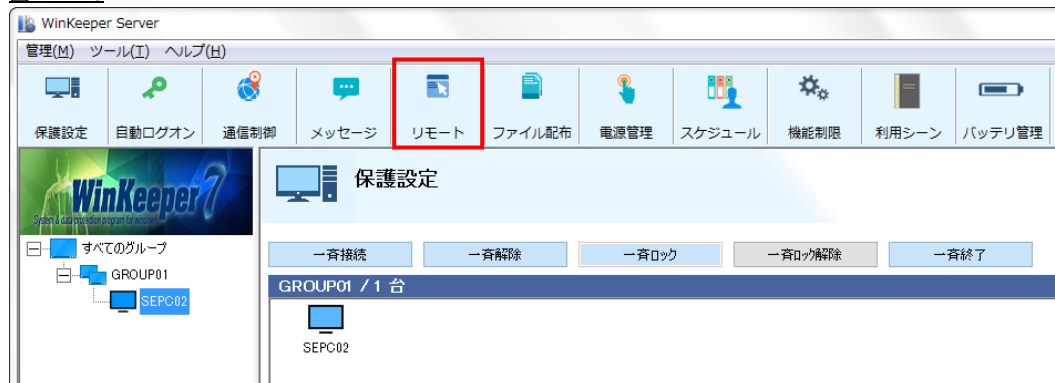
図 2-2-15



■ リモート ("P. 123 リモート操作" 参照)

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している PC の遠隔操作する機能です。

図 2-2-16



3

3. インストールとアンインストール

ここでは、WinKeeper / WinKeeper TB のインストールと設定手順、アンインストールについて説明します。

3-1.導入前の確認事項

製品の確認

始めに、購入したパッケージに入っているライセンス証書を確認してください。

ライセンス証書に記載されている、製品名を確認してください。

■ WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のライセンスキーのみが記入されている場合

WinKeeper をスタンドアロン版としてご利用いただけます。

■ WinKeeper Server のライセンスキーと WinKeeper Client ライセンスキーが記入されている場合

WinKeeper をネットワーク版としてご利用いただけます。

■ WinKeeper TB Server のライセンスキーと WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のライセンスキーが記入されている場合

WinKeeper を TB 版としてご利用いただけます。

ライセンスについて

■ 試用版について

WinKeeper / WinKeeper TB のライセンスを購入していない場合、試用版として 15 日間ご利用いただけます。試用期間経過後は自動的に保護が実行できなくなりますので、ライセンスキーを登録していただくか、製品をアンインストールしてください。

■ 管理対象台数分のライセンス取得

WinKeeper / WinKeeper TB はご購入頂いたライセンス数の上限を超えてお使い頂くことはできません。

展開する台数がライセンス数を超過した台数分は、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server が通信を受け付けなくなります。

■ 試用版の制限

試用版の WinKeeper Client / WinKeeper TB Client は、試用版の WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に対して 3 台まで同時接続することができます。

接続台数が制限数を超えた場合、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server が通信を受け付けなくなります。

■ ライセンスキーの登録

試用期間中のライセンスキーを登録するにはタスクトレイアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[製品登録]を選択します。WinKeeper[ライセンスキー入力]画面で、ライセンス証書上のユーザー名とライセンスキーを登録します。

■ ライセンスキーの変更

WinKeeper / WinKeeper TB では登録したライセンスキーを変更することができます。

管理台数を追加したい場合や異なるライセンスのグループを統合したい場合は、弊社にお問い合わせの上、ユーザー名とライセンスキーを[ライセンスキー変更]機能で変更してください。

インストールする環境の確認

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server および WinKeeper Client / WinKeeper TB Client をインストールする前に現在の運用環境 / ネットワーク環境について確認します。

以下の項目について確認してください。

■ WinKeeper Client / WinKeeper TB Client

I. 管理者権限(Administrator)を持つユーザーによる運用は推奨しない

WinKeeper によって保護された PC を、管理者権限を持つユーザーで利用することは推奨していません。

管理者権限を持つユーザーは、Windows フォルダや System フォルダなどのシステムファイルが置かれているフォルダにアクセスできるため、障害が発生する可能性が高まります。セキュリティを考慮し、適切なユーザー権限でご利用ください。

II. 通信制御機能について

通信制御機能は、通信カード(NIC)上に仮想デバイスを搭載して通信をフィルタリングする簡易的なファイアウォール機能です。Windows のファイアウォール機能や、他のパーソナルファイアウォール製品を併用する場合は、機能的な競合が発生したり、システムに深刻な影響を及ぼす恐れがありますので、いずれかの機能を OFF にしてご利用ください。

III. ヘルプファイルについて

WinKeeper のヘルプファイルは、PDF 形式で提供しています。WinKeeper のコンソールからヘルプファイルを起動する場合、PDF ファイルを開くことができるアプリケーションをインストールして頂く必要があります。

IV. 保護中の Windows Update 行為の制限について

WinKeeper の保護実行中は、Windows Update によるシステムファイルへの影響を防ぐため、Windows Update は実行できません。メンテナンスの際は必ず保護を停止してから行ってください。

■ WinKeeper Server / WinKeeper TB Server

V. WinKeeper Server と管理対象 PC の名前解決

複数のセグメントに跨った PC 群を 1 台の WinKeeper Server / WinKeeper TB Server で一元管理する場合、管理する PC と WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 間で名前解決ができる必要があります。

通信が取れないまたは、Ping が通らない等の環境では運用できません。

VI. 複数セグメント VPN 環境での運用

複数セグメントを跨った環境や、他拠点の環境を VPN で繋いだ環境下では機能の一部をお使い頂けないことがあります。拠点間の通信速度やマルチキャストパケットの設定等をご確認の上、導入前の運用試験を行ってください。

VII. 無線 LAN 環境下での運用について

無線 LAN 環境下での運用は可能ですが、通信状態が不安定で十分なデータ通信が行えない状況では、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server と WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 間の通信が途絶えてしまうことがあります。

また、リモートコントロールや Wake On LAN などの機能は、通信速度や LAN カードの仕様によってお使い頂けないことがあります。

3-2.インストール

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 基本機能のインストール

以下、Winkeeper Client の 64bit 版を例に記載します。

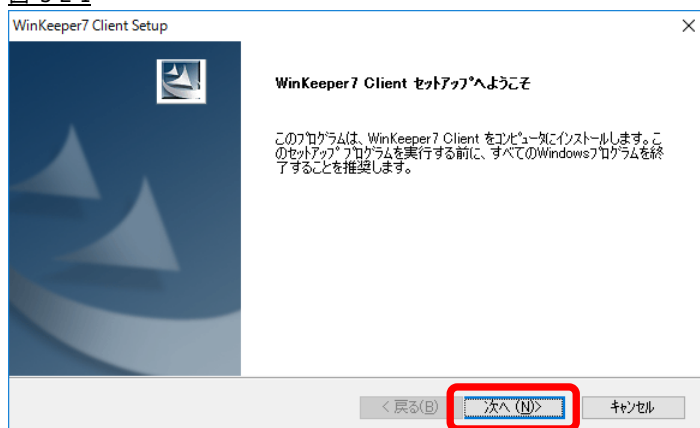
- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>%WinKeeper\Client%Main%64%setup.exe]をダブルクリックします。

- 2) クライアントセットアップが表示されます。

[次へ]をクリックします。

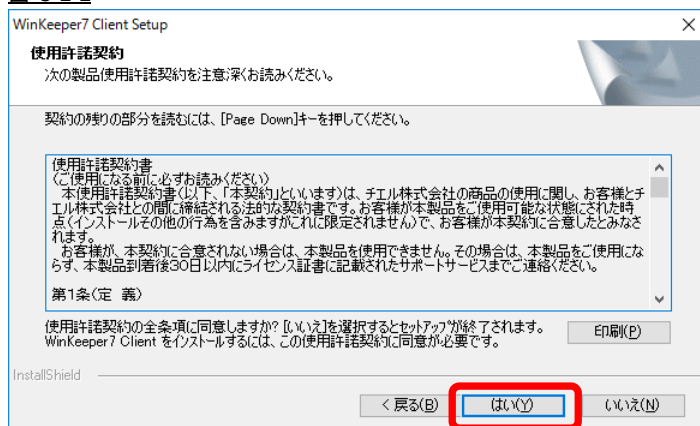
図 3-2-1



- 3) 使用許諾契約書が表示されます。

内容を確認後、[はい]をクリックします。

図 3-2-2

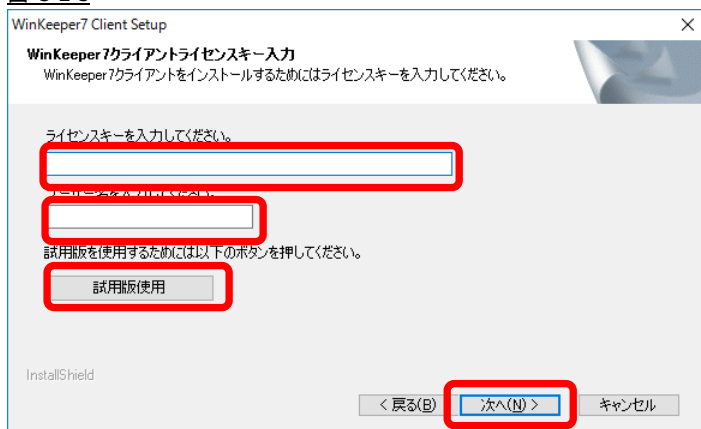


4) ライセンスキーの入力を行います。

ライセンス証書に記載されている WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 用のライセンスキーとユーザー名をボックスに入力し、[次へ]をクリックします。

試用版としてご利用頂く場合は、[試用版使用]をクリックします。

図 3-2-3

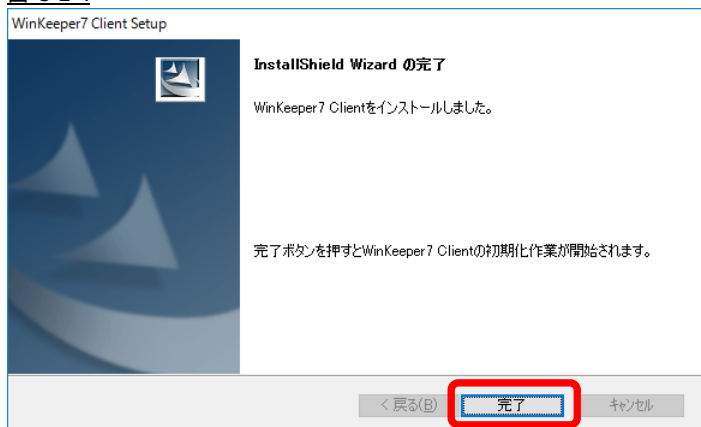


- 試用版は、WinKeeper Client を 15 日間ご利用いただけます。
Winkeeper TB Client をご利用の際には、Winkeeper TB Client 用のインストーラをご利用下さい。
- 試用期間を経過した場合、自動的に保護が実行できなくなりますので、ライセンスキーを登録、または、製品をアンインストールしてください。
- WinKeeper Client の場合は、WinKeeper Client のライセンスキーを、入力してください。
- WinKeeper TB Client の場合は、WinKeeper TB Client のライセンスキーを入力してください。

5) セットアップが完了します。

[完了]をクリックします。

図 3-2-4



■ 設定ウィザード

6) 設定ウィザードが開始されます。

[確認]をクリックします。

図 3-2-5



- 7) 設定ウィザードのスタート画面が表示されます。

[次へ]をクリックします。

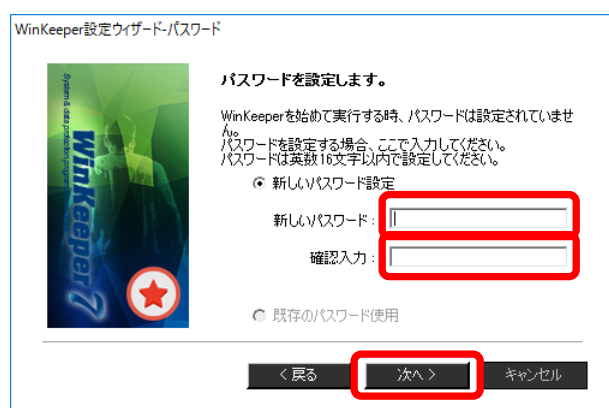
図 3-2-6



- 8) パスワードの設定画面が表示されます。

WinKeeper Client コンソールにログインするための管理用パスワードを設定し、[次へ]をクリックします。

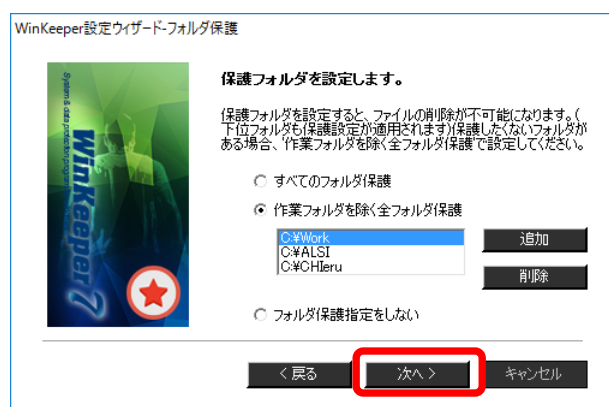
図 3-2-7



- WinKeeper Server / WinKeeper TB Server から管理する場合は、WinKeeper Server コンソールからリモートでパスワードを変更できます。

- 9) フォルダ保護機能の基本設定画面が表示されます。

図 3-2-8



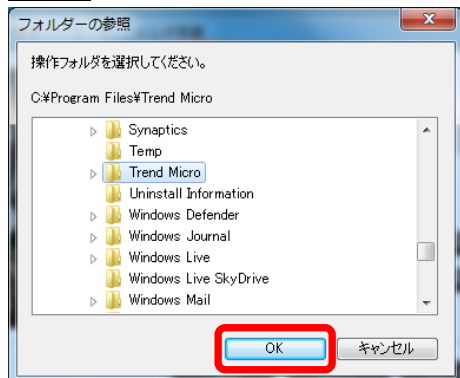
I. ローカルの全てのフォルダを保護対象にする場合

[すべてのフォルダ保護]をチェックし、[次へ]をクリックします。

II. 特定のフォルダを保護対象外にする場合

- ① [作業フォルダを除く全フォルダ保護]にチェックをし、[追加]をクリックすると、[フォルダの参照]画面が開きます。

図 3-2-9



- ② 復元したくないフォルダ(作業用フォルダやウイルス対策製品などの定期的なファイル更新環境のフォルダ)を選択して、[OK]をクリックして対象外リストに登録します。

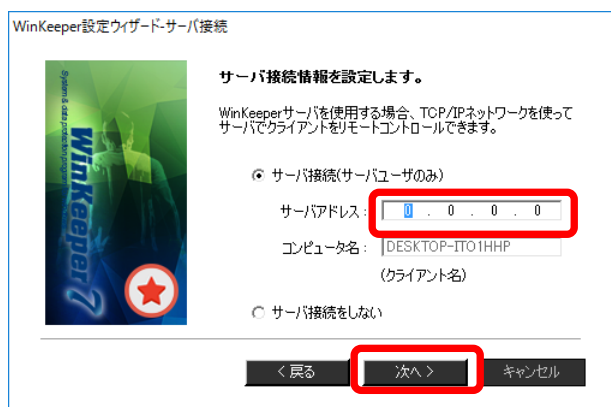
III. フォルダ保護機能を使わない場合や、後で設定する場合

[フォルダ保護指定をしない]を選択し、[次へ]をクリックします。

10) サーバ接続の設定をします。

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server から管理する場合、[サーバ接続]を選択し、サーバアドレスの欄に WinKeeper Server / WinKeeper TB Server がインストールされているコンピュータの IP アドレスを入力して、[次へ]をクリックします。

図 3-2-10

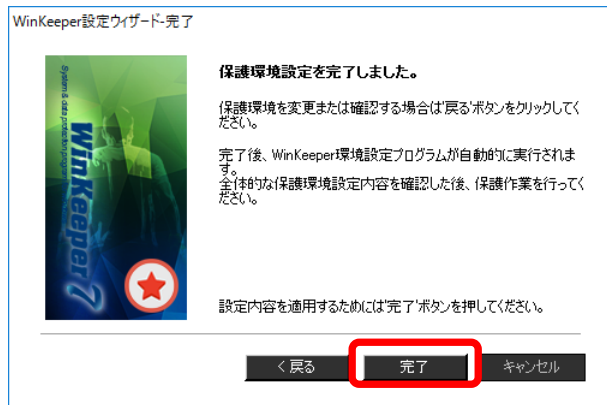


- WinKeeper Server / WinKeeper TB Server から管理する場合は、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の IP アドレスを入力してください。インストール完了後、自動的に WinKeeper Server コンソール上に登録されます。
- スタンドアロンで利用する場合や、後で設定する場合は、[サーバ接続をしない]をチェックします。

11) 保護設定ウィザードが完了します。

[完了]をクリックしてください。

図 3-2-11



12) インストールを完了するための再起動確認画面が表示されます。

[再起動]をクリックして再起動します。

作業中の場合は、タイマーのチェックボックスを外し、作業を終了してから再起動してください。

図 3-2-12



以上で、WinKeeper Client のインストールは完了です。

- 再起動直後は保護解除状態で起動します。("P.50 WinKeeper アイコンの状態" 参照)

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 拡張機能 1 のインストール

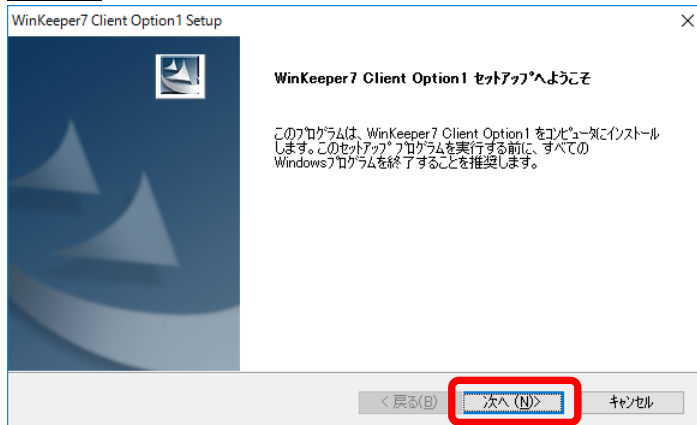
- WinKeeper Client 拡張機能 1 を使用しない場合、インストールの必要はありません。
- 拡張機能 1 の機能は以下になります。
WinKeeper Client : Windows チューニング、ディスククリーナー、タイマー、プログラム実行管理、インストール制限
WinKeeper TB Client : ディスククリーナー、タイマー、プログラム実行管理、インストール制限

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>%WinKeeper\Client\ClientOption1\setup.exe]をダブルクリックします。

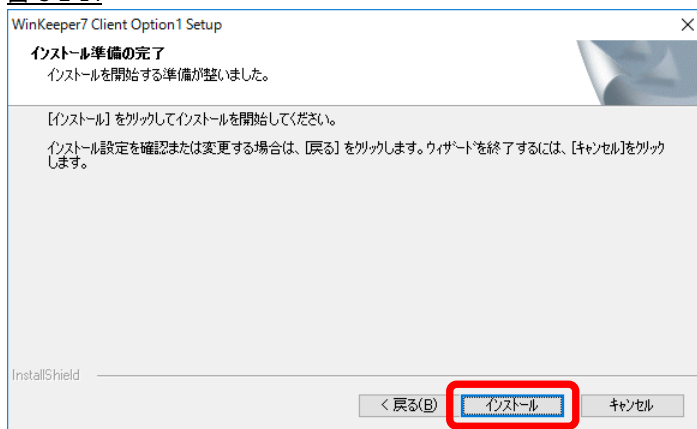
クライアント拡張機能 1 のセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-13



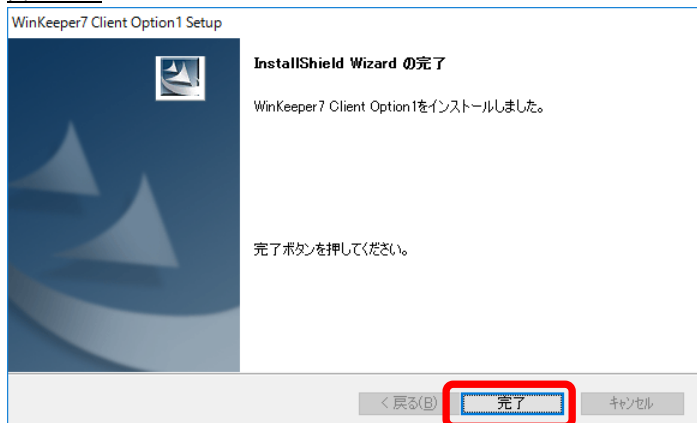
- 2) インストール準備の完了が表示されます。[インストール]をクリックします。

図 3-2-14



- 3) インストール完了が表示されます。[完了]をクリックします。

図 3-2-15



WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 拡張機能 2 のインストール

- WinKeeper Client 拡張機能 2 を使用しない場合、インストールの必要はありません。
- 拡張機能 2 の機能は以下になります。

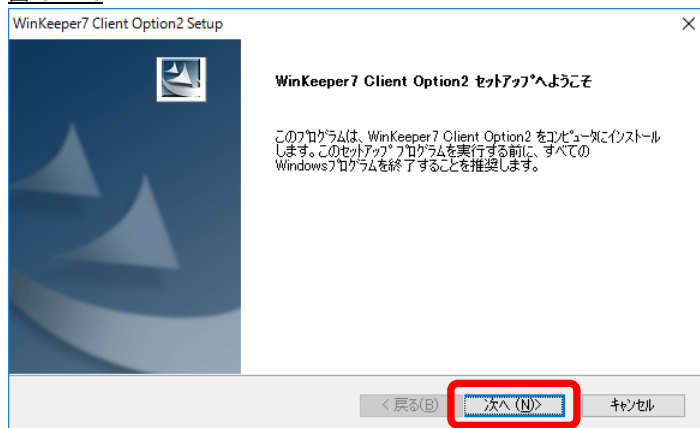
WinKeeper Client / WinKeeper TB Client : 危険リスト、保護設定スケジュール

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>%WinKeeper%Client%ClientOption2%setup.exe]をダブルクリックします。

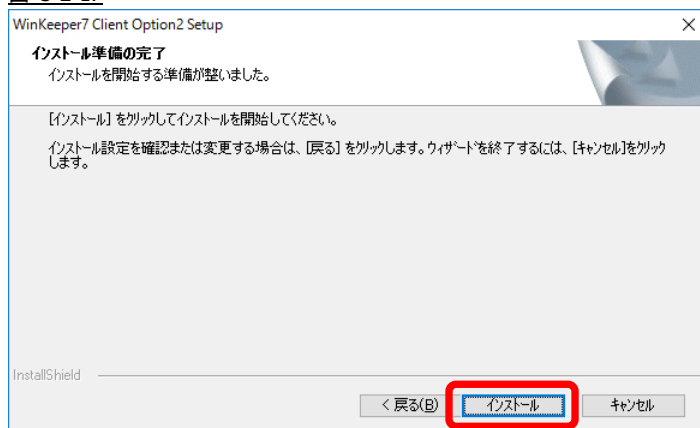
クライアント拡張機能 2 のセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-16



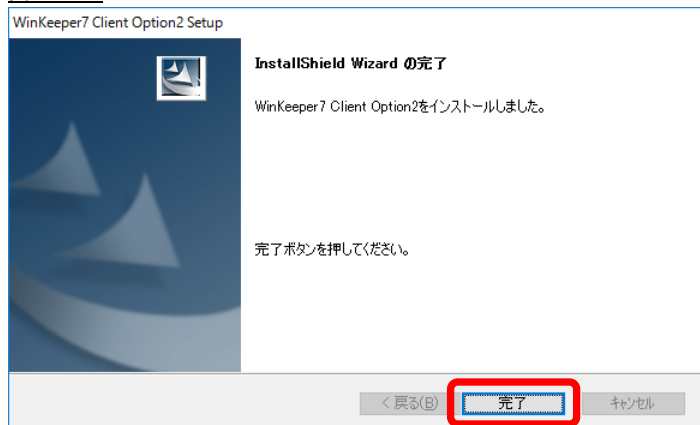
- 2) インストール準備の完了が表示されます。[インストール]をクリックします。

図 3-2-17



- 3) インストール完了が表示されます。[完了]をクリックします。

図 3-2-18



WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 基本機能のインストール

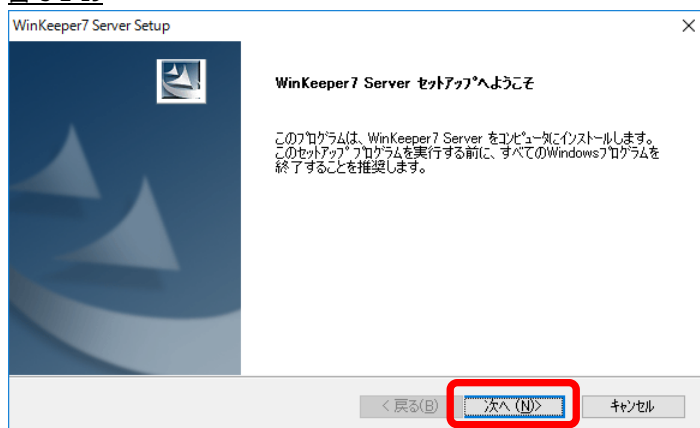
以下、WinKeeper Server を例に記載致します。

- WinKeeper Server / WinKeeper TB Server のインストールを実行する場合、ご利用いただく機能のみインストールを行ってください。

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。
[<CD-ROM ドライブ>¥WinKeeper¥Server¥Main¥setup.exe]をダブルクリックします。

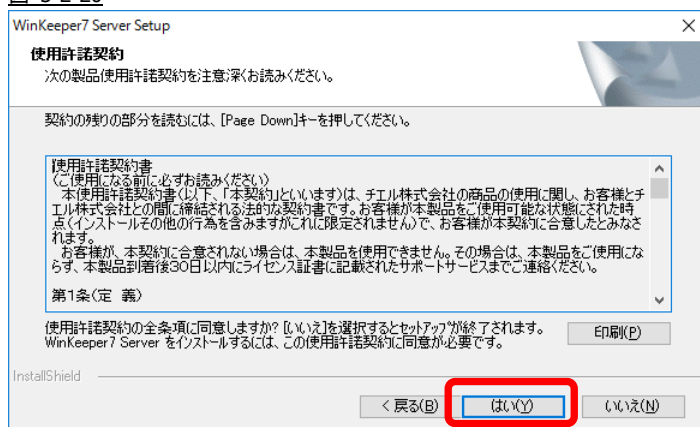
- 2) サーバーセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-19



- 3) 使用許諾契約書が表示されます。内容を確認後、[はい]をクリックします。

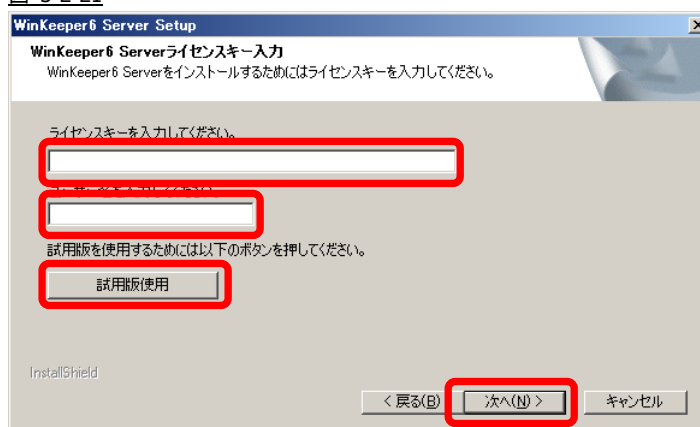
図 3-2-20



- 4) ライセンスキーの入力画面が表示されます。

ライセンス証書に記載されている WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 用のライセンスキーとユーザー名を入力し、[次へ]をクリックします。試用版としてご利用頂く場合は、[試用版使用]をクリックします。

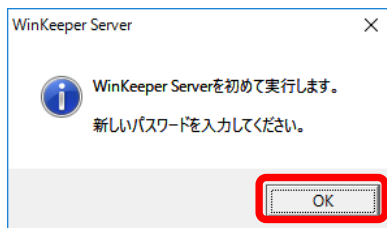
図 3-2-21



- 試用版は、15 日間ご利用いただけます。試用期間を経過した場合、接続済み端末に対する操作が実行できなくなりますので、ライセンスキーを登録または、製品をアンインストールしてください。

- 5) WinKeeper Server インストール後の実行画面が表示されます。[OK]をクリックします。

図 3-2-22



- 6) WinKeeper のパスワード設定画面が表示されます。

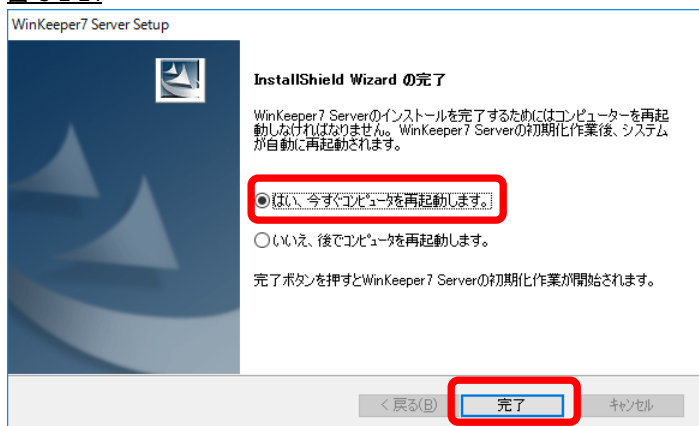
コンソールにログインするための管理用パスワードを入力し、[確認]をクリックします

図 3-2-23



- 7) セットアップが完了します。「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、[完了]をクリックします。

図 3-2-24



- 正常に WinKeeper を使用するためには、必ず再起動を行ってください。

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 拡張機能 1 のインストール

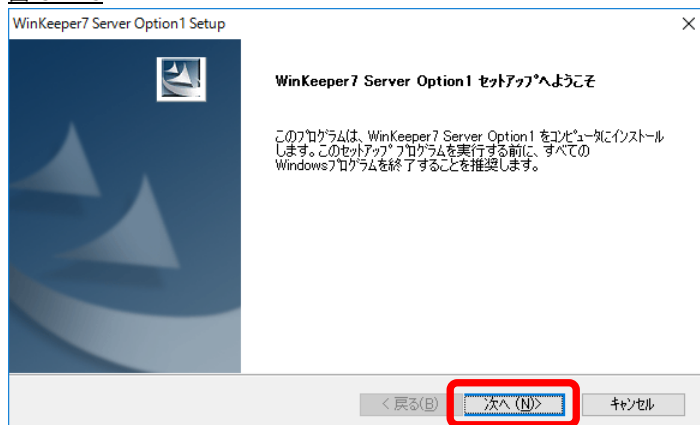
- WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 拡張機能 1 を使用しない場合、インストールの必要はありません。
- 拡張機能 1 の機能は以下になります。

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server : 画面ロック、メッセージ、ファイル配布

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。
[<CD-ROM ドライブ>%WinKeeper%Server%ServerOption1%setup.exe]をダブルクリックします。

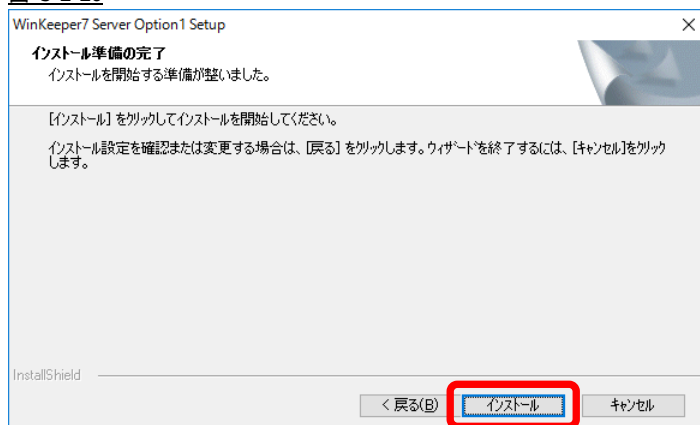
サーバ拡張機能 1 のセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-25



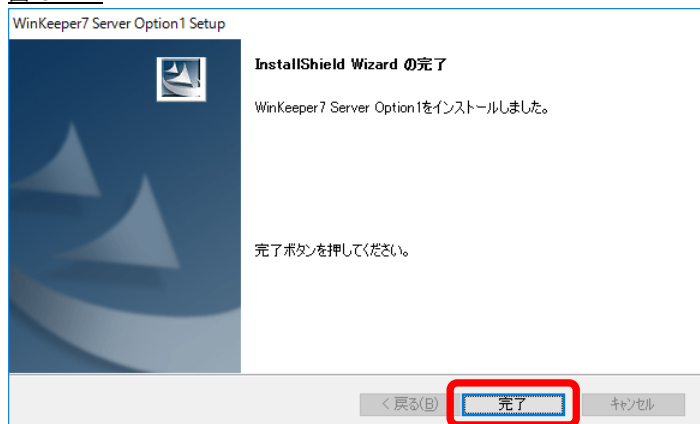
- 2) インストール準備の完了が表示されます。[インストール]をクリックします。

図 3-2-26



- 3) インストール完了が表示されます。[完了]をクリックします。

図 3-2-27



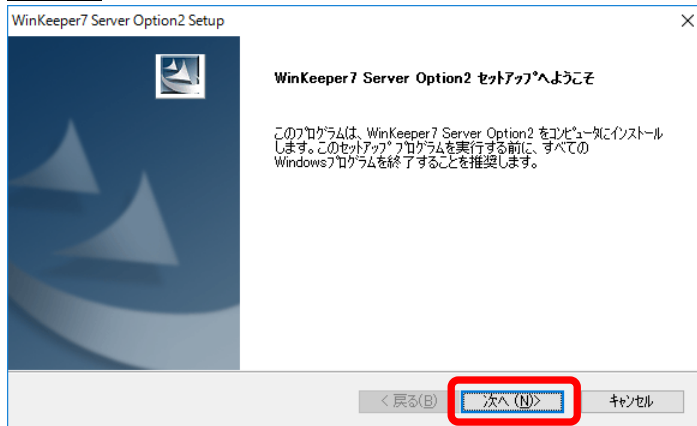
WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 拡張機能 2 のインストール

- WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 拡張機能 2 を使用しない場合、インストールの必要はありません。
- 拡張機能 2 の機能は以下になります。

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server : 保護設定スケジュール、危険リスト

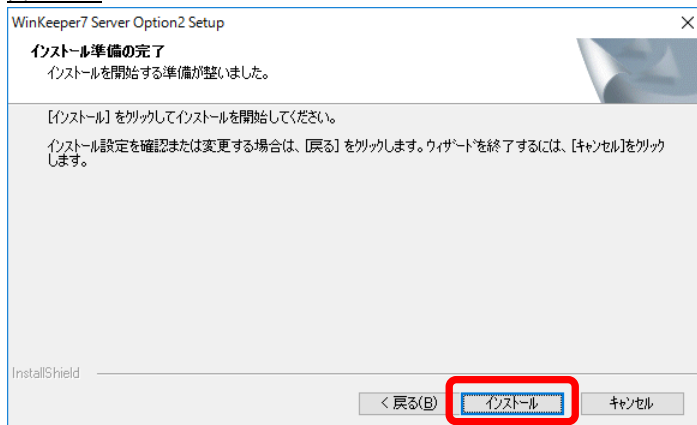
- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。
- 2) [<CD-ROM ドライブ>¥WinKeeper¥Server¥ServerOption2¥setup.exe] をダブルクリックします。
- 3) サーバ拡張機能 2 のセットアップが表示されます。[次へ] をクリックします。

図 3-2-28



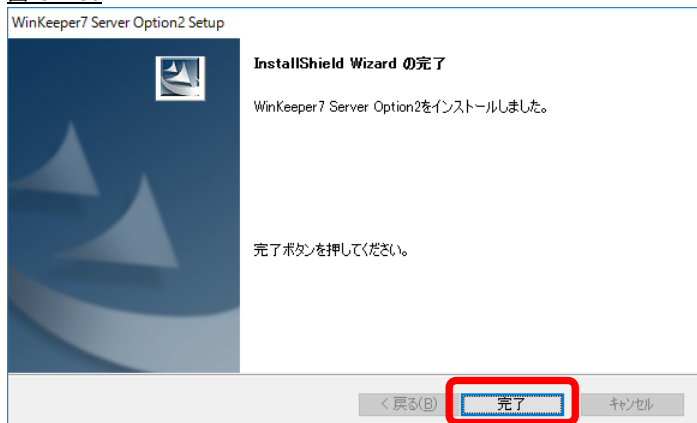
- 4) インストール準備の完了が表示されます。[インストール] をクリックします。

図 3-2-29



- 5) インストール完了が表示されます。[完了] をクリックします。

図 3-2-30



リモートコントロール機能のインストール

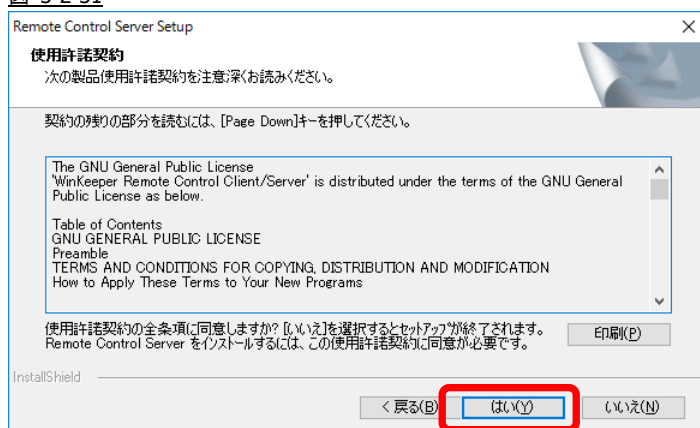
インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

- 1) WinKeeper Server / WinKeeper TB Server をインストールしているコンピュータでセットアップを行うには、[<CD-ROM ドライブ>¥RCServer¥setup.exe]をダブルクリックします。
- 2) WinKeeper Client / WinKeeper TB Client をインストールしているコンピュータでセットアップを行うには、[<CD-ROM ドライブ>¥RCClient¥setup.exe]をダブルクリックします。

- 弊社製品の InterCLASS、ExtraConsole、InterMANAGER、CaLabo EX、CaLabo LX をご利用の環境では、リモートコントロール機能はインストールしないでください。これらの製品はリモートコントロール機能に相当する「画面転送機能」「リモート操作機能」を備えているため、両方をインストールして利用することはできません。

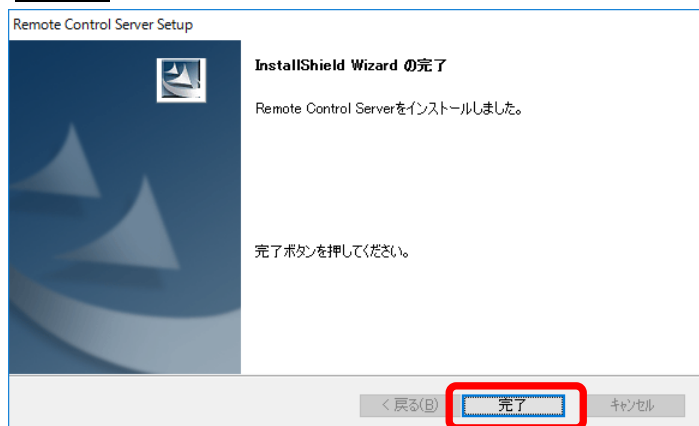
- 3) 使用許諾契約が表示されますので、内容を確認後[はい]をクリックし、使用しない場合は[いいえ]をクリックします。

図 3-2-31



- 4) セットアップが完了します。

図 3-2-32



- 上記の手順 3)、はリモートコントロール Server のインストール時に表示される画面を元に説明しています。リモートコントロール Client をインストールする場合は、表示されるメッセージ中の Remote Control Server の表記が、それぞれ Remote Control Client となります。

以上で、リモートコントロール機能のインストールは完了です。

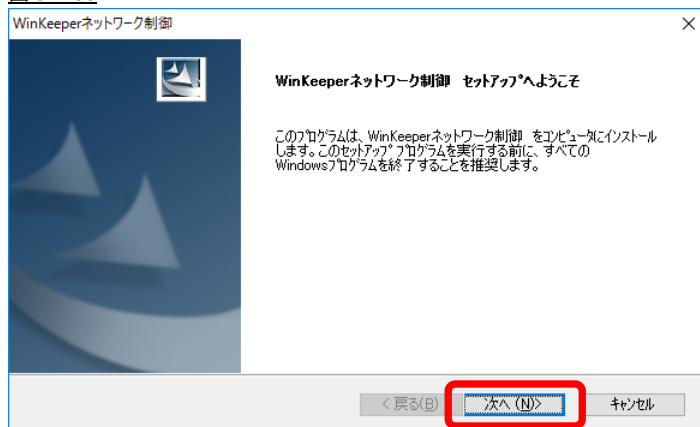
通信制御機能のインストール

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。
- 2) [<CD-ROM ドライブ>%NW_Control¥setup.exe]をダブルクリックします。

- WinKeeper Client のみの機能になります。WinKeeper TB Client は対象外になります。
- 通信制御モジュールは、WinKeeper Client をインストールしている PC にインストールが可能です。
- 本機能を使用しない場合、インストールは必要ありません。

- 3) インストール画面が表示されますので、[次へ]をクリックします。

図 3-2-33



- 4) 通信制御モジュールがインストールされます。

以上で、通信制御機能のインストールは完了です。

3-3.設定手順

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定手順

ライセンスによる該当項目を確認しながら作業を進めてください。

■ 1. WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定は以下の 2 つの方法があります。

1. ローカルコンソールから WinKeeper Client / WinKeeper TB Client を設定する
2. WinKeeper Server / WinKeeper TB Server から、リモートコンソールを起動して WinKeeper Client / WinKeeper TB Client を設定する

WinKeeper Client コンソールの起動 ("P.52 コンソールの起動と終了" 参照)

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の機能設定 ("P.57 4-2. WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の機能設定" 参照)

■ 2. 設定の保存とコピー(ファイル)

設定情報の保存とコピー ("P.97 設定情報の保存とコピー" 参照)

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の設定手順

該当項目を確認しながら、作業を進めてください。

■ 1. WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の設定

WinKeeper Server コンソールの起動 ("P.104 コンソールの起動と終了" 参照)

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の機能設定 ("P.108 5-2. WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の機能設定" 参照)

■ 2. 設定のコピー(ネットワーク)

設定情報のコピー ("P.113 保護設定のコピーと適用" 参照)

3-4. アンインストール

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のアンインストール

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のアンインストールは WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の保護が終了している状態でいきます。

"P.50 WinKeeper アイコンの状態" を参照し、WinKeeper Client / WinKeeper TB Client が保護実行の状態または、保護停止の状態の場合は保護を終了します。保護の終了は WinKeeper Client / WinKeeper TB Client アイコンを右クリックし、表示されるメニューから[終了]をクリックします。

- 保護の終了は、以下からも行うことができます。

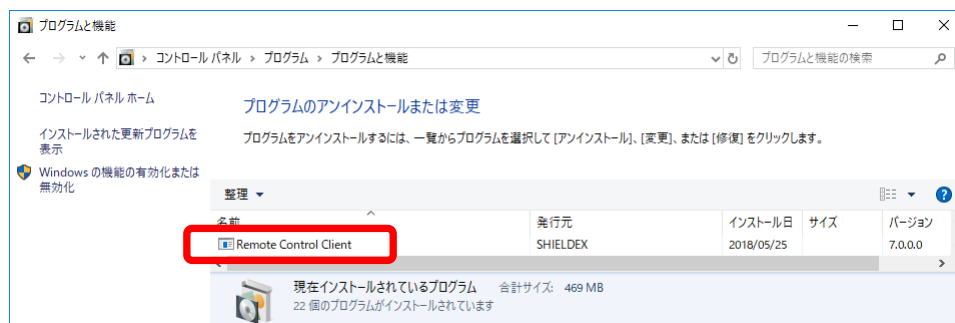
WinKeeper Client コンソールからの保護終了("P.96 保護実行 / 保護停止 / 保護終了 / 保護再実行" 参照)

■ Remote Control Client のアンインストール

リモートコントロール機能をご利用の場合は、まず Remote Control Client をアンインストールします。

コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[Remote Control Client]を選択し、[7 / 8.1 / 10 : アンインストール] をクリックします。

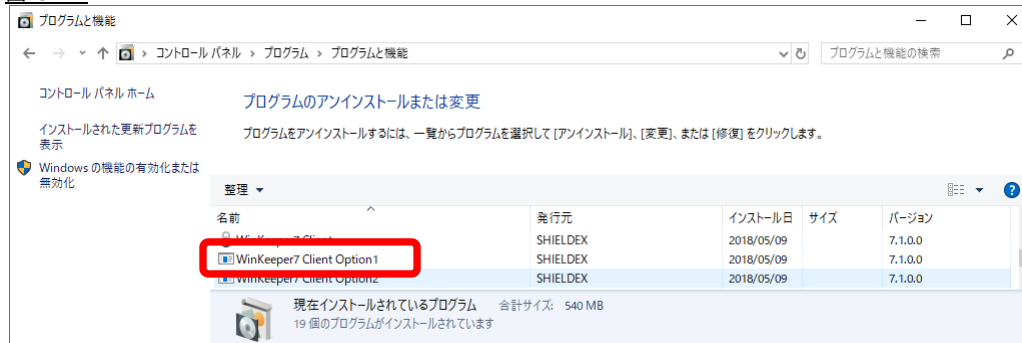
図 3-4-1



■ WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 拡張機能 1 のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper7 Client Option1]を選択し、[7 / 8.1 / 10 : アンインストール] をクリックします。

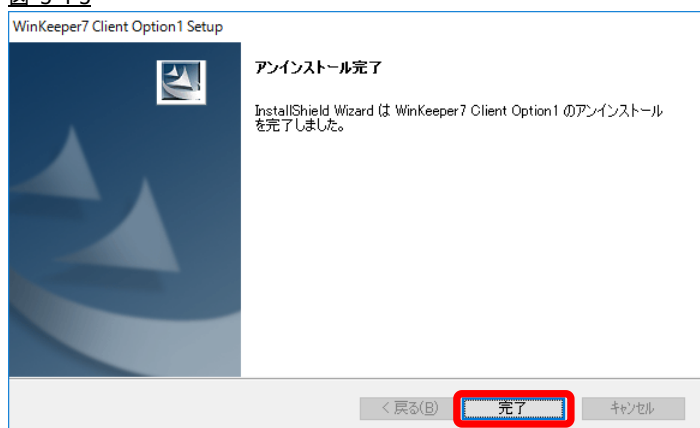
図 3-4-2



- 2) アンインストール完了画面が表示されます。

[完了]をクリックします。

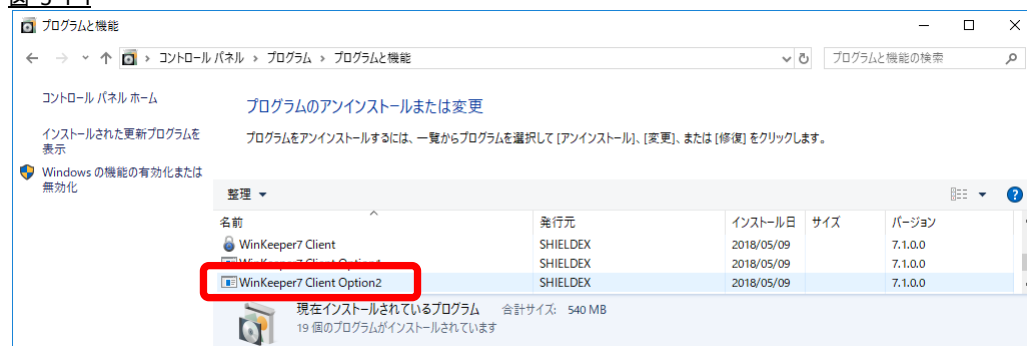
図 3-4-3



■ WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 拡張機能 2 のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper7 Client Option2]を選択し、[7 / 8.1 / 10 : アンインストール] をクリックします。

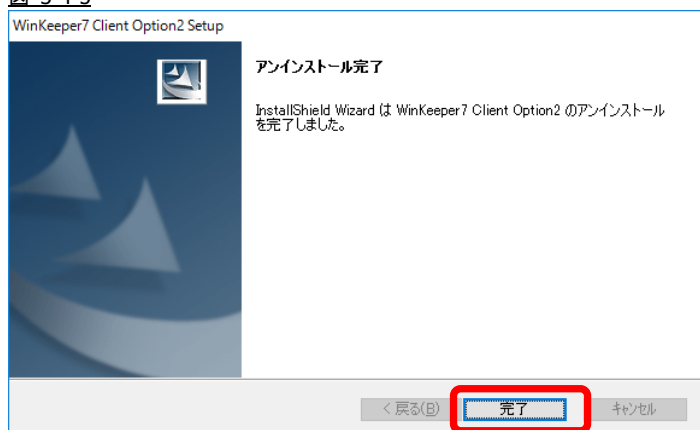
図 3-4-4



- 2) アンインストール完了画面が表示されます。

[完了]をクリックします。

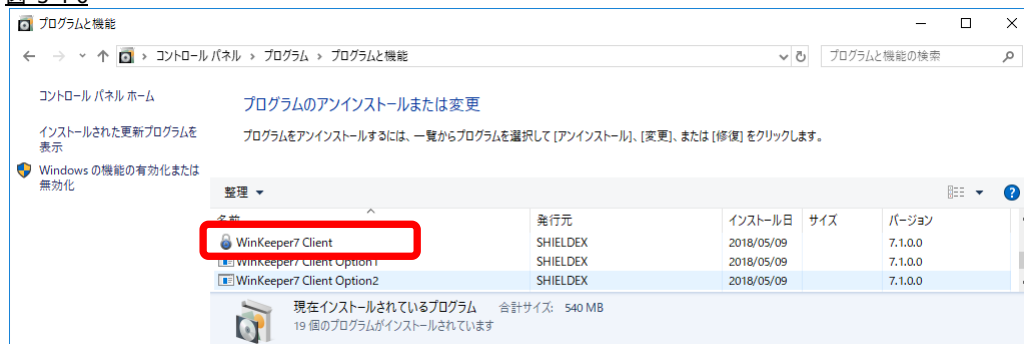
図 3-4-5



■ WinKeeper Client / WinKeeper TB Client 基本機能のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper 7 Client]を選択し、[7 / 8.1 / 10 : アンインストール] をクリックします。

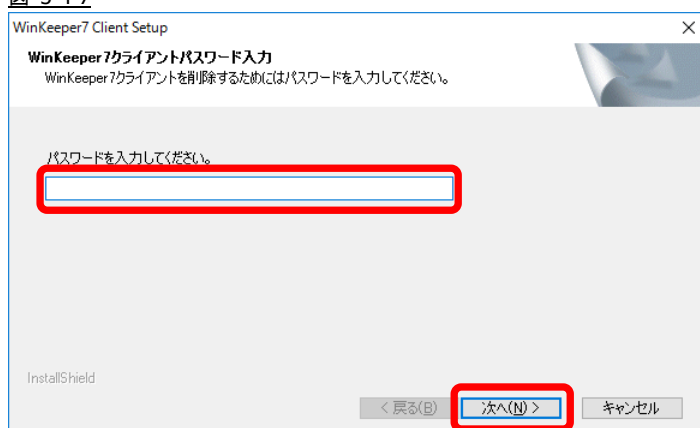
図 3-4-6



- 2) パスワードの確認画面が表示されます。

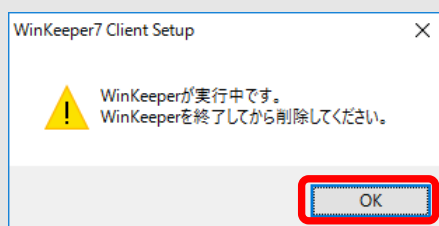
パスワードの欄に、WinKeeper Client コンソールにログインするための管理用パスワードを入力し[次へ]をクリックします。

図 3-4-7



- 保護を終了していない場合、警告画面が表示されます。[OK]をクリックし、WinKeeper の保護終了を行ってからアンインストールを行います。("P.96 保護実行 / 保護停止 / 保護終了 / 保護再実行" 参照)

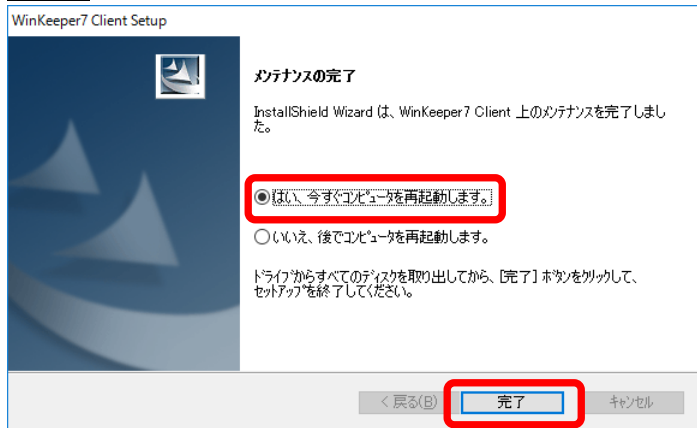
図 3-4-8



- 3) アンインストールの完了画面が表示されます。

「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、[完了]をクリックします。

図 3-4-9



- 4) 再起動後、Windows にログオンし、以下のフォルダが残っている場合は削除します。

C:\¥Windows¥KP

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server のアンインストール

■ WinKeeper Server / WinKeeper TB Server のアンインストールの順番について

・ WinKeeper Server / WinKeeper TB Server のアンインストールは以下の順番で行っていただけますようお願いいたします。

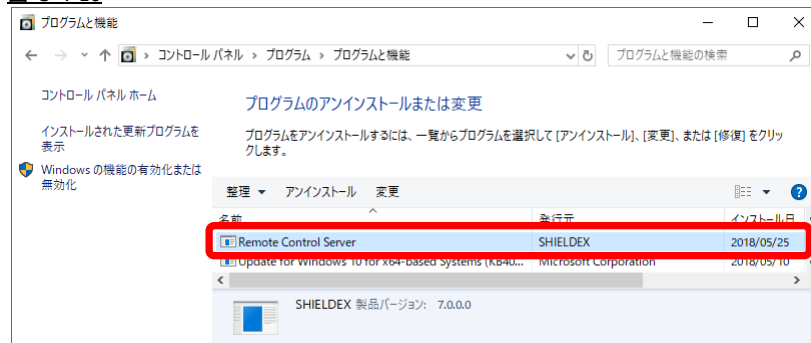
1. リモートコントロール機能をインストールしている場合は、Remote Control Server をアンインストールします。
2. 拡張機能をインストールしている場合は、WinKeeper7 Server Option1, WinKeeper7 Server Option2 の順でアンインストールします。
3. システムを再起動します。
4. WinKeeper7 Server をアンインストールします。
5. システムを再起動します。

■ Remote Control Server のアンインストール

リモートコントロール機能をご利用の場合は、まず Remote Control Server をアンインストールします。

コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[Remote Control Server]を選択し、[7 / 8.1 / 10 / 2008 / 2012 / 2016 : アンインストール] をクリックします。

図 3-4-10



■ WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 拡張機能 1 のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper7 Server Option1]を選択し、
[7 / 8.1 / 10 / 2008 / 2012 / 2016 : アンインストール] をクリックします。

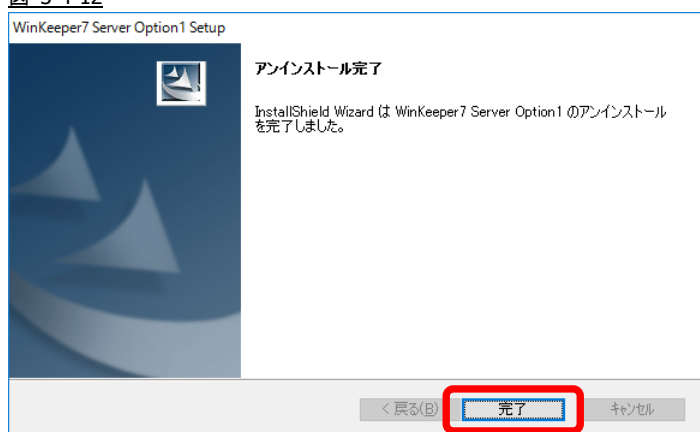
図 3-4-11



- 2) アンインストール完了画面が表示されます。

[完了]をクリックします。

図 3-4-12



■ WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 拡張機能 2 のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper7 Server Option2]を選択し、
[7 / 8.1 / 10 / 2008 / 2012 / 2016 : アンインストール] をクリックします。

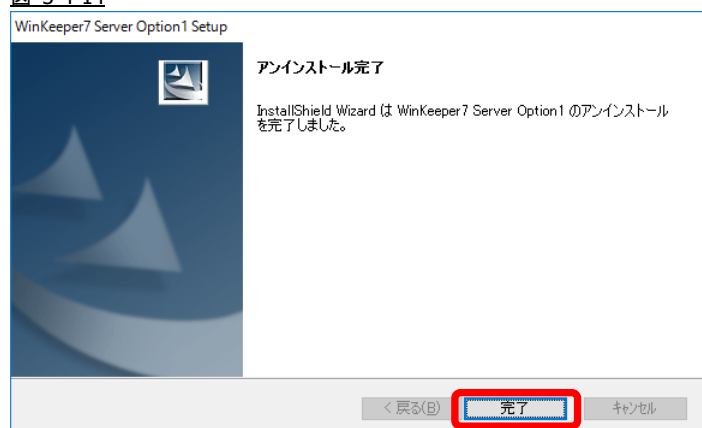
図 3-4-13



- 2) アンインストール完了画面が表示されます。

[完了]をクリックします。

図 3-4-14



■ WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 基本機能のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper7 Server]を選択し、[7 / 8.1 / 10 / 2008 / 2012 / 2016 : アンインストール] をクリックします。

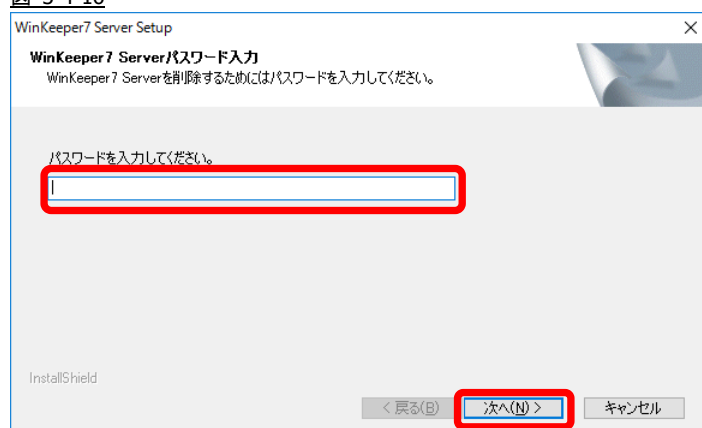
図 3-4-15



- 2) パスワードの入力画面が表示されます。

パスワードの欄に、コンソールにログインするための管理用パスワードを入力し[次へ]をクリックします。

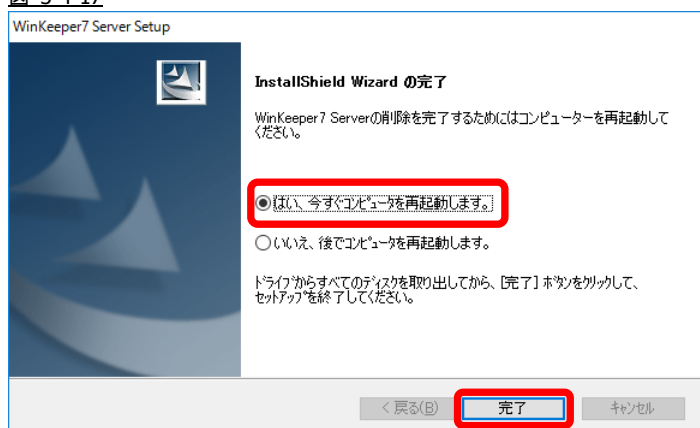
図 3-4-16



- 3) アンインストールの完了画面が表示されます。

「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、[完了]をクリックします。

図 3-4-17



- 4) 再起動後、Windows にログオンし、以下のフォルダが残っている場合は削除します。

C:\PKS

4

4.WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定

ここでは、ネットワーク内に展開された WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定方法について説明します。

4-1.WinKeeper Client / WinKeeper TB Clientの設定



運用上の注意点

- WinKeeper Client / WinKeeper TB Client は再起動時に保護開始時点の環境に復元する機能を持っています。ファイルやレジストリデータなど、他のプログラムの運用に影響を及ぼす恐れがあるため、同居する他のプログラムの動作について必ず把握しておいてください。
- 頻繁なアップデートを発生させるソフトウェアなどは、WinKeeper Client / WinKeeper TB Client によって保護をされた環境下での運用に支障がある場合があります。その際はインストールフォルダを保護対象から除外するなどの設定変更が必要になります。
- アプリケーションの動作がレジストリの変更を伴う場合、WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の[レジストリ復元機能]によって毎回復元されますので定期的な更新作業(保護停止をして、レジストリを改変してから保護再開)を行うか、例外対象として設定していただく必要があります。また、レジストリを変更しないと正常に動作しなくなるプログラムもありますので、プログラムの仕様を製造元に確認してください。
- 同じ機能や同じ処理方法を有するプログラムと同居している場合、プログラムの処理同士で干渉して運用障害を発生させることがあります。その環境下では、重複する機能を使用不可に設定して状況を確認してください。
- 保護設定を行い、ウィンドウ右上の「×」を押下すると保存確認が行われます。
保存を行う場合は「はい」を、保存しない場合は「いいえ」を選択してください。
なお「いいえ」を選択した場合、設定した内容は無効になりますのでご注意ください。

WinKeeper アイコンの状態

■ WinKeeper アイコン

表 4-1-1

状 態	アイコン	説 明
保護実行	 (青い鍵マーク)	保護設定にて、保護対象にしたフォルダを保護している状態です。
保護停止	 (赤い鍵マーク)	保護設定にて、保護対象にしたフォルダの保護を停止(解除)している状態です。 ※WinKeeper Client / WinKeeper TB Client インストール直後のアイコンの状態です。

●保護を終了、タスクトレイアイコンを非表示にしている場合、タスクトレイアイコンは表示されません。

■ WinKeeper アイコンメニュー

タスクトレイに表示されている WinKeeper アイコンを右クリックすると、メニューが表示されます。

・ WinKeeper Client

図 4-1-1

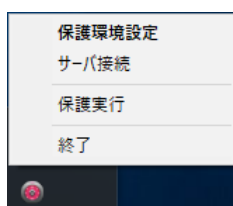


図 4-1-2



・ WinKeeper TB Client

図 4-1-3



図 4-1-4

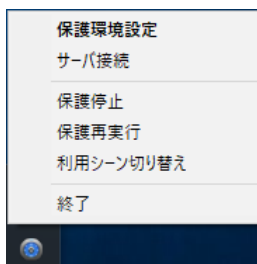


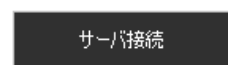
表 4-1-2

項 目	説 明
製品登録	WinKeeper Client / WinKeeper TB Client インストール時、[試用版使用]をクリックしてインストールを行った場合に表示されます。試用版から製品登録を行う場合に選択し、製品登録を行うことができます。 ("P.75 ライセンスキーの変更設定 " 参照) ※WinKeeper Client / WinKeeper TB Client インストール時に、ライセンスキーを入力してインストールを行った場合、[製品登録]は表示されません。
保護環境設定	WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の保護環境の設定を行う場合に選択します。 ("P.57 4-2. WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の機能設定" 参照)
サーバ接続	WinKeeper Server / WinKeeper TB Server と接続する場合に設定します。("P.51 サーバ接続" 参照)
保護実行 / 保護停止 / 保護再実行	保護停止中の場合は保護実行が表示され、保護実行中の場合は保護停止および保護再実行が表示されます。選択するとパスワードの入力画面が表示され、保護を実行、停止または再実行します。 ※保護停止後は再起動が行われます ※保護再実行後は2回の再起動が行われます。
利用シーン切り換え	WinKeeper TB Client のみ表示されます。利用シーンの設定を行う場合に選択します。 ("P.140 利用シーンの設定 " 参照)
終了	WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の機能を終了して再起動を行います。 ※再起動後タスクトレイに WinKeeper Client アイコンが表示されません。再度 WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の機能を開始する場合は、"P.52 コントロールパネルから起動する方法"を参照

サーバ接続

- 1) サーバ接続を行う場合は、コンソールのその他の機能ボタンから[サーバ接続]をクリックします。

図 4-1-5



- サーバ接続の設定は、上記の手順以外にタスクバーの WinKeeper アイコンを右クリックし、表示されるメニューから[サーバ接続]を選択して設定を行うこともできます。

- 2) サーバ接続の設定画面が表示されます。

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の IP アドレスを入力し、[サーバ接続]をクリックします。

図 4-1-6

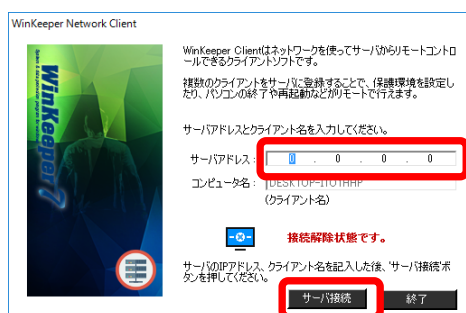


表 4-1-3

画 像	状 態
	サーバ接続が解除されている状態
	サーバに接続中の状態
	サーバと接続している状態

コンソールの起動と終了

■ 起動

- 1) 以下のいずれかの方法で、コンソールを起動します。

I. WinKeeper アイコンから起動する方法

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client で、タスクトレイ上の WinKeeper アイコンをクリックまたは WinKeeper アイコンを右クリックし、表示されるメニューから[保護環境設定]を選択します。

図 4-1-7



II. コントロールパネルから起動する方法

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の PC でコントロールパネルを開き、[WinKeeper 7]アイコンをクリックします。

図 4-1-8



- 保護が終了している、または WinKeeper アイコンを非表示にしている場合、タスクトレイアイコンは表示されません。その場合は、[コントロールパネルからの起動]でコンソールを起動してください。

- 2) パスワード入力画面が表示されます。

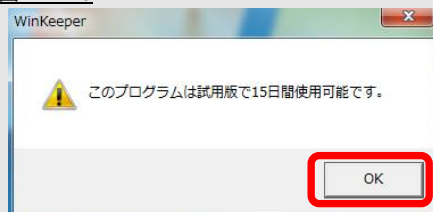
パスワードを入力し、[確認]をクリックします。

図 4-1-9



- WinKeeper を試用版でインストールした場合は、パスワード入力画面が表示される前に確認画面が表示されます [OK]をクリックするとパスワード画面が表示されます。

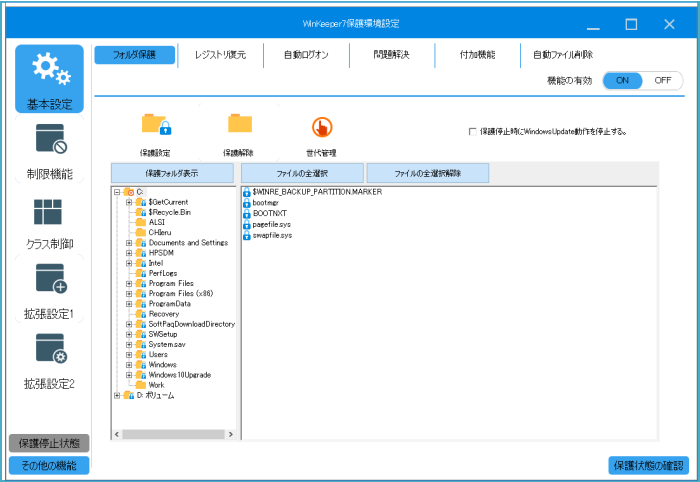
図 4-1-10



- パスワードは WinKeeper Client / WinKeeper TB Client をインストールした時に設定したパスワードです。("P. 30 パスワードの設定画面が表示されます。" 参照)
- 試用版の利用期間は 15 日間になります。

3) コンソール画面が起動します。

図 4-1-11



■ 終了

1) コンソールの終了は、画面右上の[×]をクリックします。

2) 保護設定内容の保存を確認する画面が表示されます。

[はい]、[いいえ]、[キャンセル]のいずれかをクリックします。

図 4-1-12

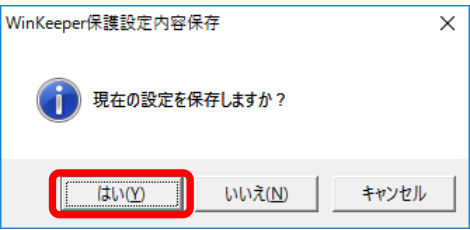


表 4-1-4

項 目	説 明
はい	設定を保存してコンソールを終了します。
いいえ	設定を保存しないでコンソールを終了します。
キャンセル	コンソール画面に戻ります。

3) [WinKeeper 保護スケジュール管理]画面で[WinKeeper クライアント保護設定のスケジュール設定をシステムに適用する]が選択されている場合のみ、デフォルトスケジュール設定を確認する画面が表示されます。

[はい]、[いいえ]のいずれかをクリックします。

図 4-1-13

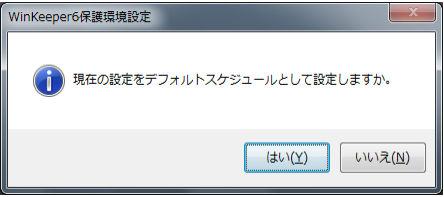


表 4-1-5

項 目	説 明
はい	現在の設定をデフォルトスケジュールとして保存してコンソールを終了します。
いいえ	設定を保存しないでコンソールを終了します。

コンソール画面説明

図 4-1-14

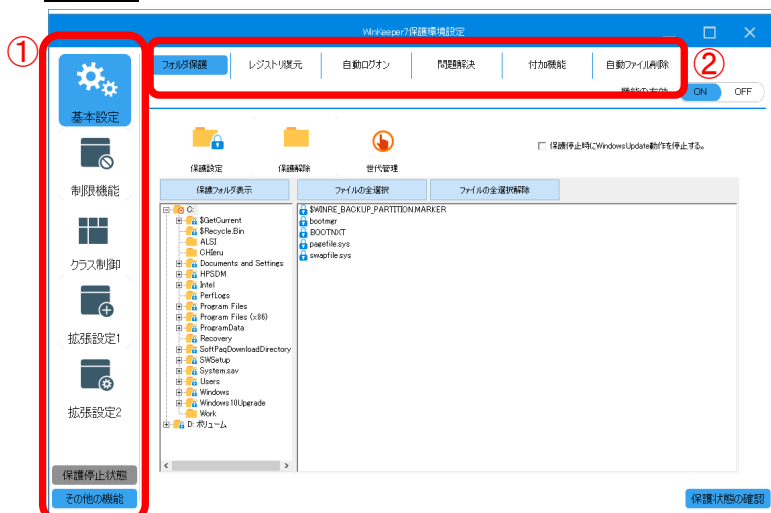
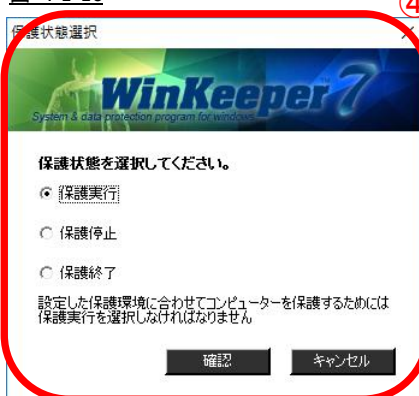


図 4-1-15



図 4-1-16



■ ① 機能一覧タグ

機能を種類別に分けて表示します。

表 4-1-6

項 目	説 明
基本設定	フォルダ保護、レジストリ復元、自動ログオン、問題解決、付加機能、自動ファイル削除
制限機能	システム制限、通信制御
クラス制御	Wi-Fi 接続制限
拡張設定 1	Windows チューニング、ディスククリーナー、タイマー、プログラム実行管理、インストール制限
拡張機能 2	危険プログラム管理、保護設定スケジュール
状態表示	保護状態を表示します。保護実行状態、保護停止状態
その他の機能	設定読み込み、設定保存、パスワード変更、設定ウィザード、サーバ接続、再起動の待ち時間変更、ヘルプ、バージョン情報のボタンが集約されています。

- 通信制御、Windows チューニングは、WinKeeper Client でのみ利用可能です。

■ ② WinKeeper メニュー

ファンクションビューを切り替えるための各機能の呼出しボタンが配置されています。

各機能を選択すると、ファンクションビューが切り替わります。

表 4-1-7

機 能	説 明	
基本 設定	保護を開始した時点のコンピュータ環境を維持する機能の設定を行うことができ、ユーザーが書き換えたファイルやレジストリの変更部分を、再起動後には保護開始時点の状態に復元することができます。	
	フォルダ保護	保護指定したフォルダ内のファイルの復元設定を行うことができます。 ※フォルダ復元機能とレジストリ復元機能は必ず同時に使用してください。 いずれか片方のみを使用するとシステムに深刻な障害を引き起こす恐れがあります。 (“P.58 フォルダ保護の設定と解除” 参照)
	レジストリ復元	レジストリデータの復元設定を行うことができます。 (“P.65 レジストリ復元の設定” 参照)
	自動ログオン	自動ログオンの各種設定を行うことができます。(“P.67 自動ログオン” 参照)
	問題解決	競合するモジュールに対する除外処理を行うことができます。 (“P.69 問題解決の設定” 参照)
	付加機能	ロック画面の画像選択、WinKeeper アイコンの非表示設定、ライセンスキーの変更設定を行うことができます。(“P.73 付加機能の設定” 参照)
	自動ファイル削除	一定期間で自動削除を実施するファイルディレクトリの変更・設定をすることができます。(“P.75 自動ファイル削除の設定” 参照)
制限 機能	OS の設定変更を行う機能を制限することができます。	
	システム制限	設定変更に関わるダイアログの起動制限設定を行うことができます。(“P.78 システム制限の設定” 参照)
	通信制御	PC の通信制御機能の設定状況を確認し、状況に応じて通信の許可と禁止を変更することができます。(“P.79 通信制御の設定” 参照)
クラス制御	アクセス可能なアクセスポイントを制限する設定を行うことができます。	
	Wi-Fi 接続制限	登録したアクセスポイントのみアクセス可能になります。(“P.81 Wi-Fi 接続制限” 参照)
拡張 設定 1	OS チューニングや、ユーザーの利用を制限する設定を行うことができます。	
	Windows チューニング	デスクトップアイコン、スタートメニューアイコンの表示/非表示を設定できます。 (“P.83 Windows チューニングの設定 ※WinKeeper Client のみ” 参照)
	ディスククリーナー	ごみ箱やインターネット一時ファイルの削除設定を行うことができます。 (“P.85 ディスククリーナーの設定” 参照)
	タイマー	タイマー設定で指定した時間に処理を実施する設定を行うことができます。 (“P.85 タイマーのスケジュール設定 / 編集 / 削除” 参照)
	プログラム実行管理	保護中の指定プログラム起動の制限設定を行うことができます。 (“P.89 プログラム実行管理の追加と削除” 参照)
	インストール制限	特定インストーラによるインストールを制限する設定を行うことができます。 (“P.93 インストール制限の設定” 参照)
拡張 設定 2	OS 管理設定を行うことができます。	
	危険プログラム管理	実行プログラムを制限する設定を INI ファイルで行うことができます。 (“P.93 危険プログラム管理の設定” 参照)
	保護設定 スケジュール	保護設定の内容を指定した時間により変更することができます。 (“P.94 保護設定スケジュールの設定” 参照)

■ ③ その他の機能

保護設定のデータ保存機能に加え、各種設定機能の変更ボタンが集約されています。

表 4-1-8

項 目	説 明
設定読み込み	保存した設定環境情報ファイルの読み込みを行います。 ("P.98 環境読込" 参照)
設定保存	現在の設定環境情報をファイルに保存します。("P. 97 環境保存" 参照)
パスワード変更	WinKeeper Client コンソールのパスワード変更を行います。 ("P.99 パスワード変更" 参照)
設定ウィザード	WinKeeper 設定ウィザード画面が起動され、ウィザード形式で保護環境の設定を行うことができます。("P.100 設定ウィザード" 参照)
サーバ接続	WinKeeper Server / WinKeeper TB Server と接続するための設定を行うことができます。("P.100 サーバ接続" 参照)
再起動の待ち時間変更	再起動ダイアログの秒数を変更することができます。 ("P.101 再起動の待ち時間変更" 参照)
ヘルプ	ヘルプファイル(本マニュアル PDF)が表示されます。("P.101 ヘルプ" 参照)
バージョン情報	バージョン情報が表示されます。 ("P.102 バージョン情報" 参照)

■ ④ 保護状態選択

保護状態の確認ボタンを押すと保護状態選択の画面が表示されます。

表 4-1-9

項 目	説 明
保護実行	WinKeeper の保護を開始します。
保護停止	WinKeeper の保護を停止します。
保護終了	WinKeeper の保護を終了します。

4-2. WinKeeper Client / WinKeeper TB Clientの機能設定

使用する機能の選択

WinKeeper メニューから機能の使用 / 不使用を選択します。

- 状態を設定し、次項からの各機能の設定を行ってください。

■ 設定手順

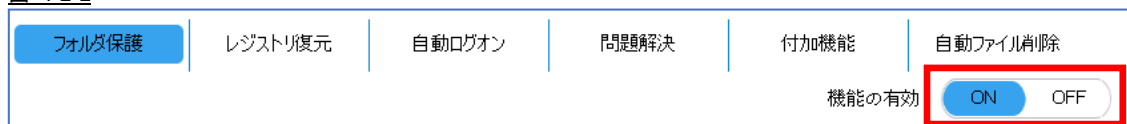
- 1) WinKeeper メニューから、[基本設定]、[制限設定]、[クラス制御]、[拡張設定 1]、[拡張設定 2]のいずれかを選択します。
ここでは[基本設定]を選択します。

図 4-2-1 メニューから[基本設定]を選択



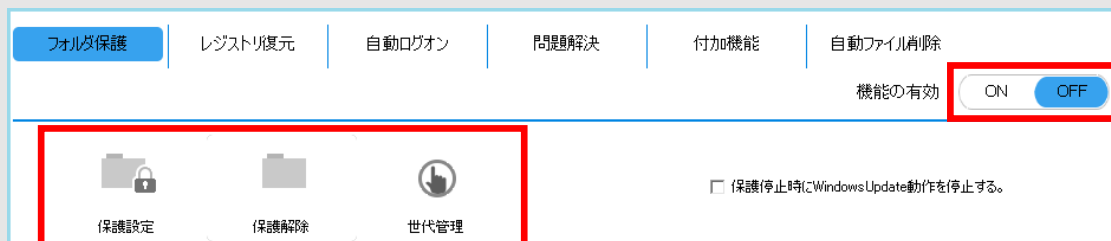
- 2) 機能を使用する場合は[機能の有効]を[ON]、使用しない場合は[OFF]を選択します。

図 4-2-2



- [OFF]を選択した場合、無効にした機能の設定アイコンがグレイアウトします。

図 4-2-3 フォルダ保護を機能無効にした場合



フォルダ保護の設定と解除

■ 設定前の注意事項

I. 保護対象フォルダの判断

フォルダ保護機能は、運用目的を確認して適切に利用する必要があります。

PC 環境と運用方針を確認し、ウイルス対策製品のようにファイルを定期的にアップデートするソフトウェアや変換データを記憶させる文字変換ソフト等がある場合、[初期状態を維持する]か[アップデート結果を復元しない]か、ユーザー環境によって運用方針が異なりますので、保護をすべきか除外フォルダにすべきかを事前に確認しておく必要があります。

II. アカウントフォルダの保護

ユーザアカウントのデータが保存される[Users]フォルダは、保護開始時点に存在したアカウントフォルダ以外は自動的に削除されます。保護をする / しない設定はできますが、その設定は保護開始時点に存在したアカウントフォルダに対してのみ適用されますのでご注意ください。

III. 常駐型アプリケーションと負荷について

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client は、Windows に常駐してローカルの動きを監視するリアルタイム常駐型アプリケーションです。同じリアルタイム型の監視アプリケーションがインストールされている環境では、動作の相互干渉が発生し、PC に負荷がかかることがあります。

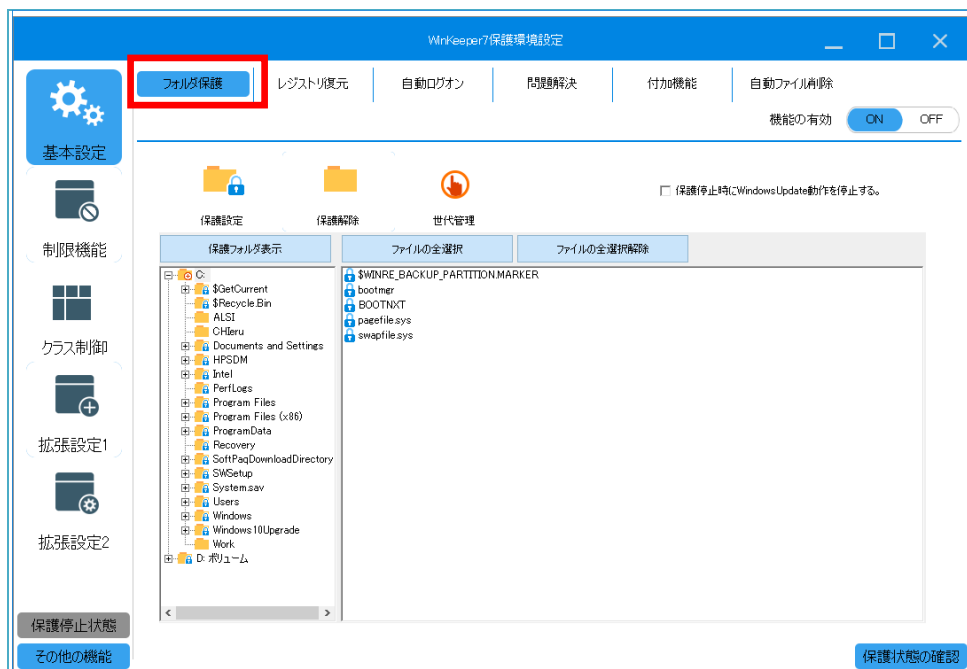
リアルタイム保護をするウイルス対策製品やログを定期的にレポートするログ監視製品など、WinKeeper Client / WinKeeper TB Client によるフォルダ保護の動作と相互干渉する恐れがあるソフトウェアがありますので、PC への動作負荷が大きいと感じた場合は、ウイルス対策製品のプログラムフォルダをフォルダ保護の対象から除外、C:\¥Windows¥KP フォルダをウイルス対策製品のリアルタイムスキャン対象から外すなどの負荷回避方法を行ってください。

■ フォルダ保護の設定

- ここでは、例として"C ドライブ全体を保護する" 設定を行います。

- 1) WinKeeper メニューから[フォルダ保護]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-4

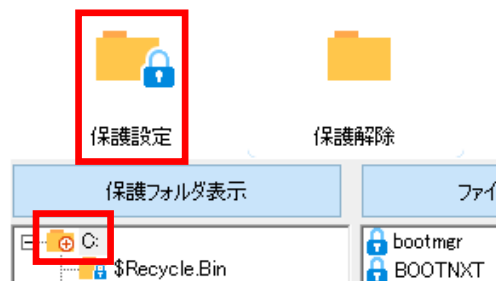


- 2) フォルダ保護のファンクションビューには、ローカルのエクスプローラが表示されます。
エクスプローラ上から対象フォルダを選択し、以下のいずれかの方法で保護設定を行います。

I. ファンクションビュー上部にある[保護設定]をクリックして保護設定を行う方法

ドライブのルートである[C:]のフォルダアイコンを選択し、[保護設定]をクリックします。

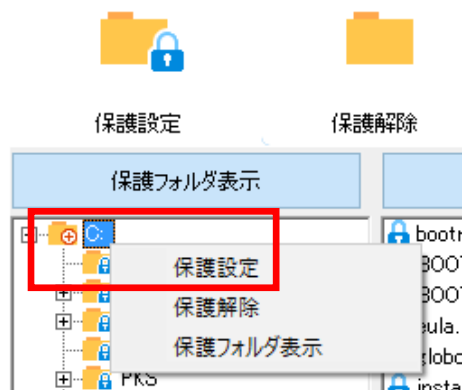
図 4-2-5



II. 右クリックメニューから保護設定を行う方法

ドライブのルートである[C:]のフォルダアイコンを選択し、右クリックで表示されるメニューから[保護設定]を選択します。

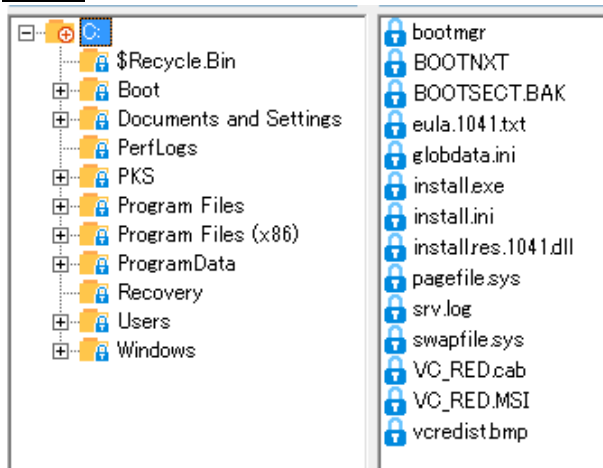
図 4-2-6



- 3) 保護設定を行ったフォルダ及びサブフォルダには鍵のアイコンが表示されます。

Cドライブ内の全てのフォルダ / サブフォルダが保護され、ファイル / フォルダに対する変更は再起動後に復元されることになります。

図 4-2-7



- ドライブのルートや上位フォルダに対して設定した場合、そのサブフォルダは全て同一の設定状態が継承されます。

■ フォルダ保護の設定解除

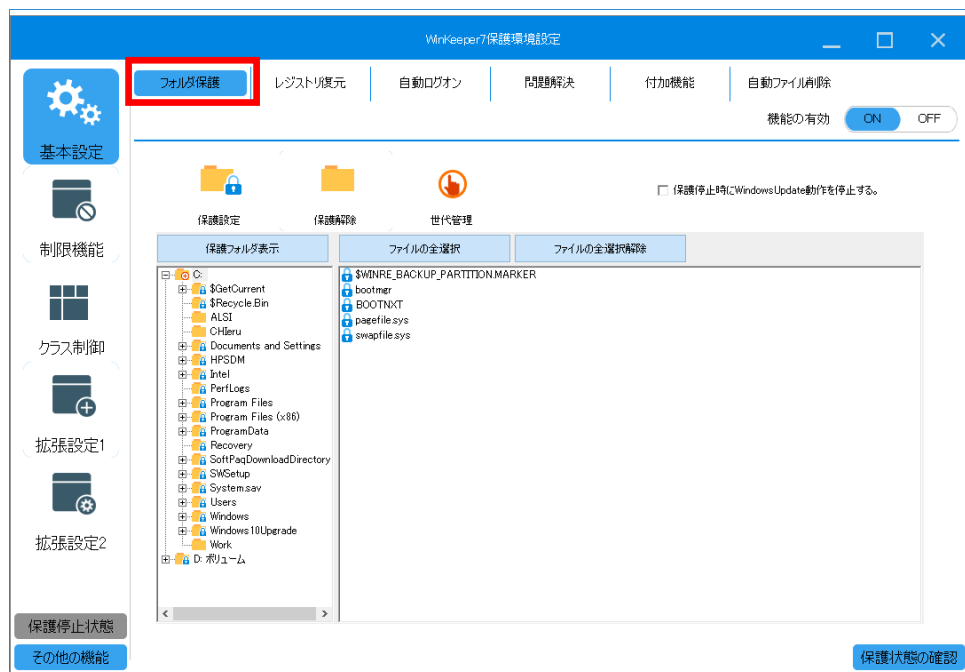
- ここでは、例として以下の設定解除を行います。

あるフォルダ内のデータを残しておきたいので、その特定フォルダのみ保護設定を解除する。

[データの保存場所] C:\Users\CHieru\Documents

- 1) WinKeeper メニューから[フォルダ保護]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-8



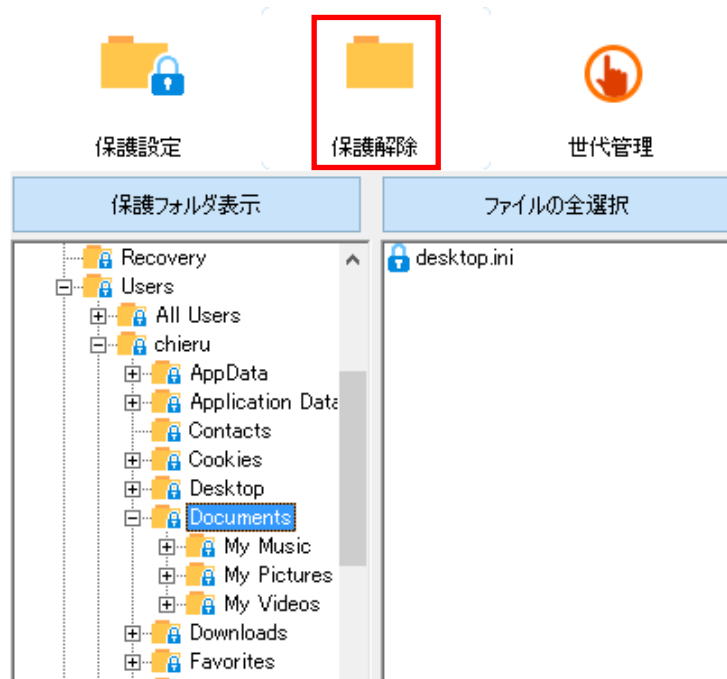
- 2) フォルダ保護のファンクションビューにはローカルのエクスプローラが表示されます。

エクスプローラ上から対象のフォルダを選択して、保護解除を行います。

- I. ファンクションビュー上部にある[保護解除]をクリックして保護解除を行う。

[Documents] フォルダを選択し、[保護解除]をクリックします。

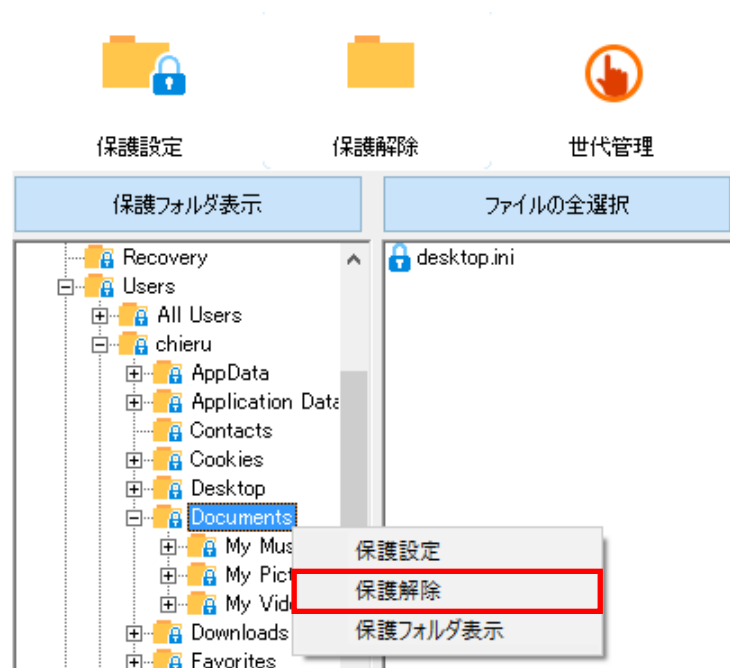
図 4-2-9



II. 右クリックメニューから保護解除を行う。

[Documents]フォルダを選択し、右クリックで表示されるメニューから[保護解除]を選択します。

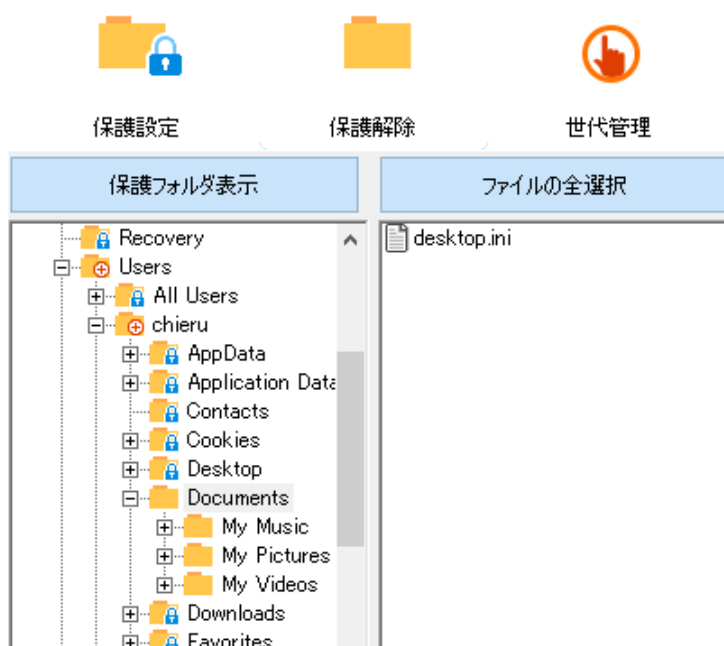
図 4-2-10



- 3) 保護を解除されたフォルダ及びサブフォルダから鍵のマークが消えます。

保護対象となっている C ドライブの中から[Documents]フォルダだけが保護解除され、再起動してもフォルダ内のデータを残すことができます。

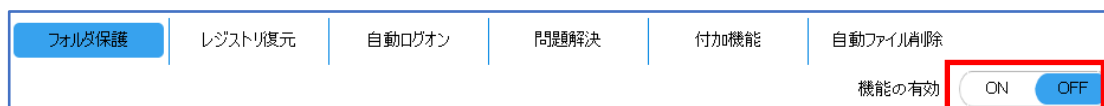
図 4-2-11



■ フォルダ保護機能の無効について

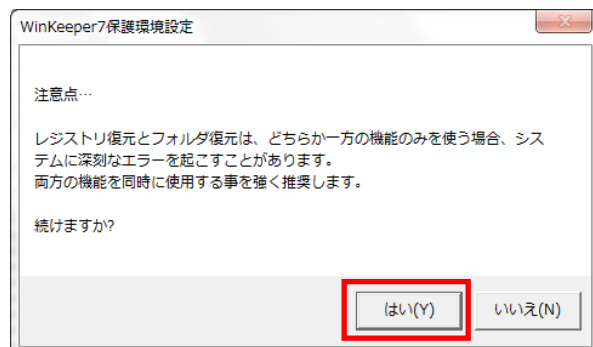
フォルダ機能を[OFF]にした場合、警告ダイアログが表示されます。

図 4-2-12



[はい]をクリックすると変更できます。

図 4-2-13



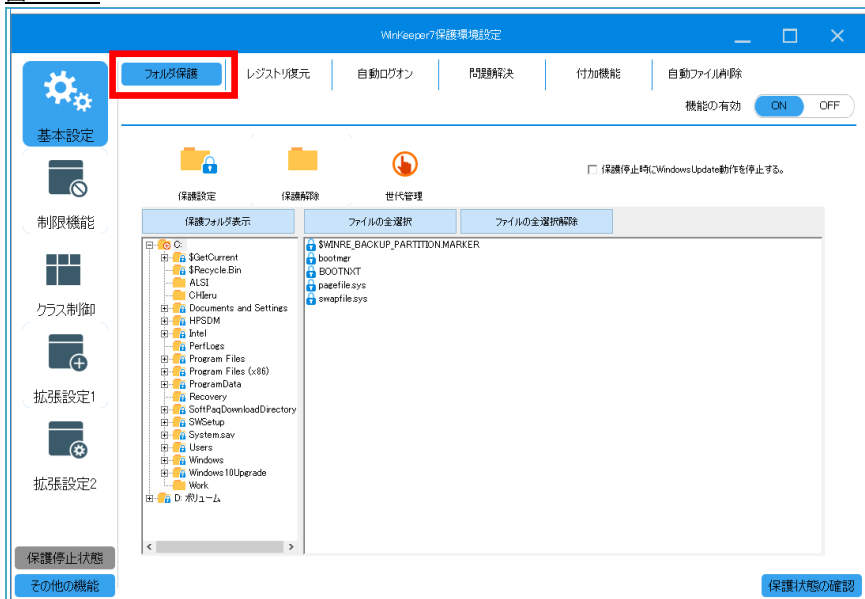
- メッセージの内容にある通り、フォルダ復元機能とレジストリ復元機能は必ず同時に使用してください。いずれか片方のみを使用すると、システムに深刻な障害を引き起こす恐れがあります。

■ 世代管理

保護実行中に変更があった場合、OS 起動時に差分ファイルのバックアップを行う機能です。

- 1) WinKeeper メニューから[フォルダ保護]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-14



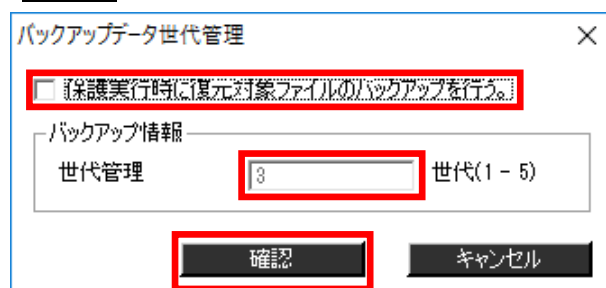
- 2) ファンクションビュー上部にある[世代管理]をクリックします。

図 4-2-15



- 3) 機能を利用する場合は、[保護実行時に復元対象ファイルのバックアップを行う。]にチェックを入れます。バックアップデータを保存する世代数（1 から 5 まで）を指定し、[確認]をクリックします。

図 4-2-16

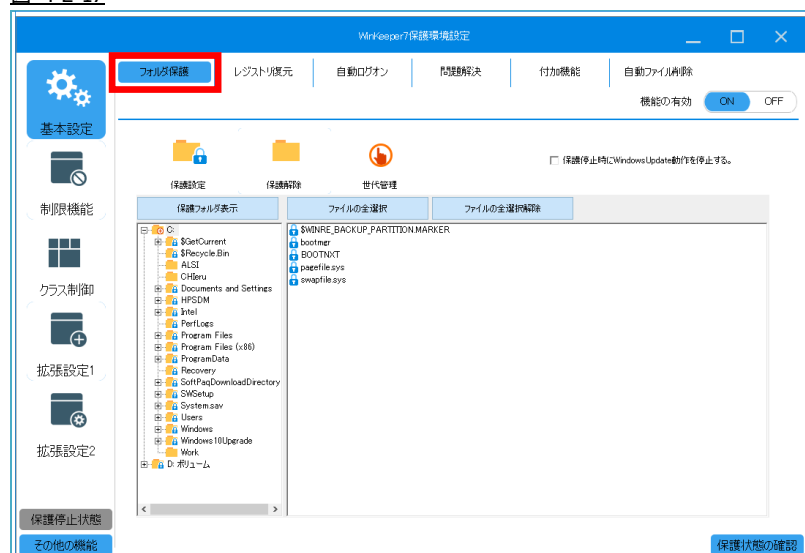


■ 保護フォルダ表示

[保護フォルダ表示]をクリックすると、フォルダツリー上でドライブ直下のフォルダが全て展開されます。

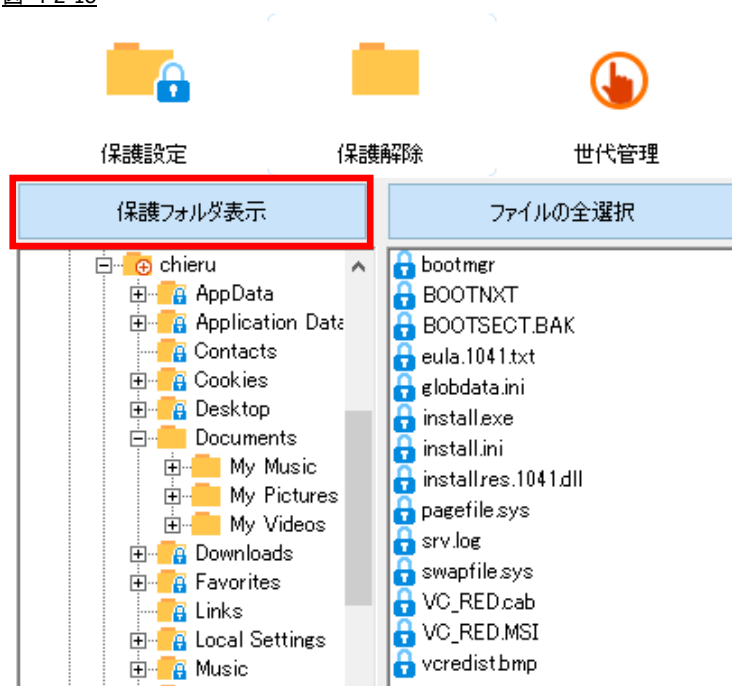
- 1) WinKeeper メニューから[フォルダ保護]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-17



- 2) [保護フォルダ表示]をクリックします。

図 4-2-18



■ 保護停止時の WindowsUpdate を制限

[保護停止時に WindowsUpdate 動作を停止する]にチェックを入れると、WinKeeper 保護停止中に WindowsUpdate を制限することができます。

図 4-2-19



- 機能切り換え時、端末を再起動してください。
- WindowsUpdate をスケジュール等でご利用の場合は、ご注意ください。

レジストリ復元の設定

■ 設定前の注意事項

レジストリ復元機能は、再起動毎に全てのレジストリデータを復元する機能です。

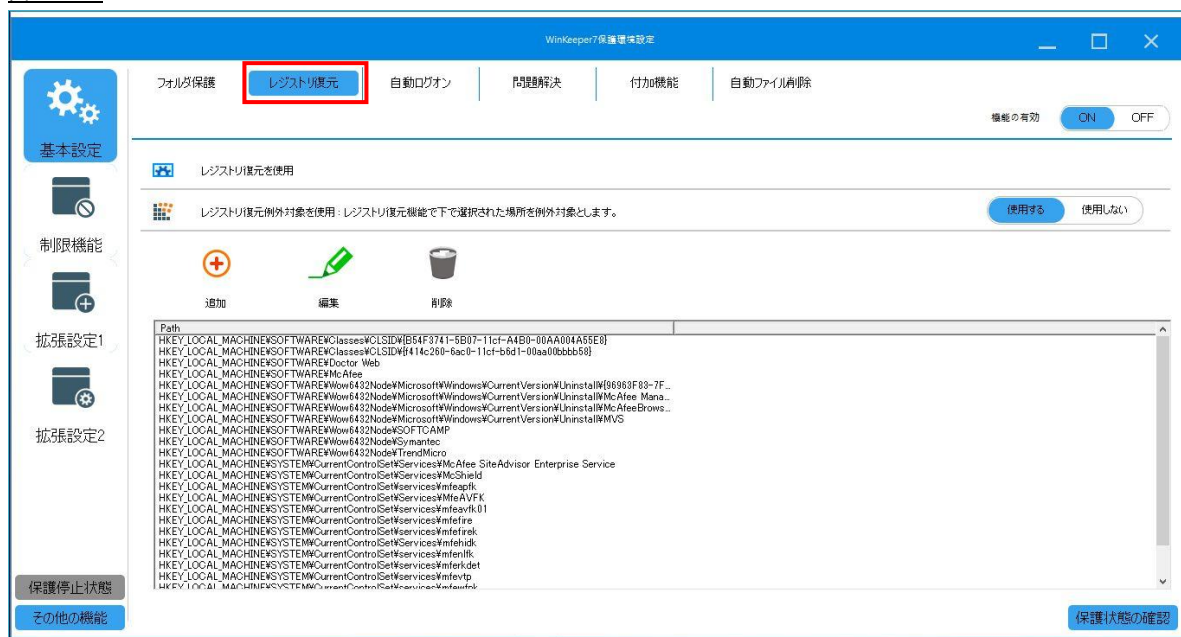
フォルダ保護機能と併用することで、アプリケーションのインストールによって発生する[ファイルの書き込み]と[レジストリの変更]を保護し、再起動後にインストールされたアプリケーションを全て削除した状態に戻すことができます。

なお、フォルダ保護機能とレジストリ復元機能のどちらかだけを使用する場合、システムが不安定になる恐れがありますので両方の機能を併用してお使いください。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[レジストリ復元]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-20



- 2) 機能の有効の[ON]を選択すると、再起動時に保護開始時点のレジストリ情報に復元されます。

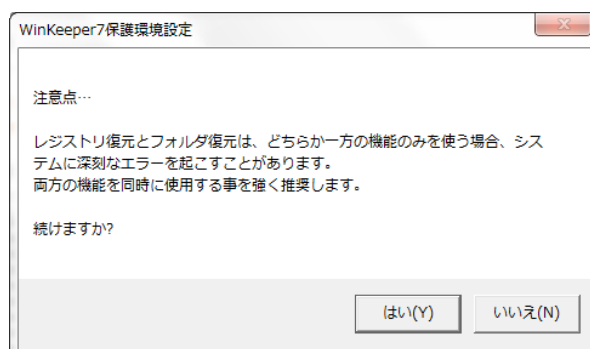
図 4-2-21



- 3) [OFF]を選択した場合、警告ダイアログが表示されます。

[はい]をクリックすると変更できます。

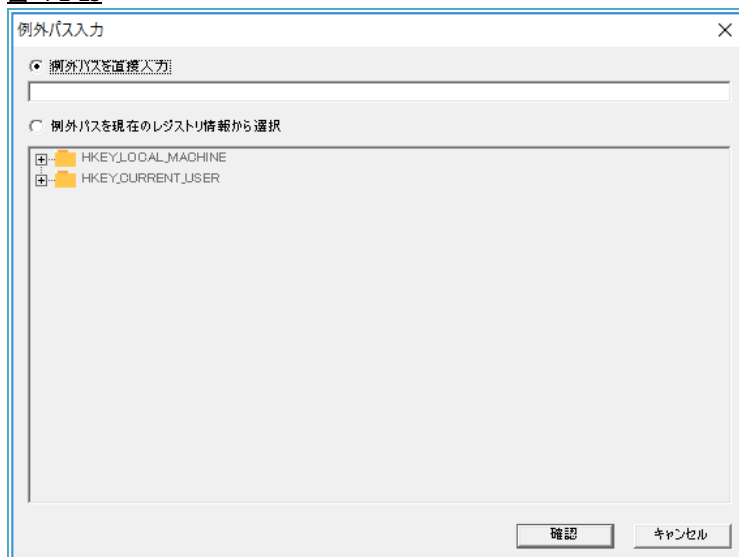
図 4-2-22



- メッセージの内容にある通り、フォルダ復元機能とレジストリ復元機能は必ず同時に使用してください。いずれか片方のみを使用すると、システムに深刻な障害を引き起こす恐れがあります。

- 4) 例外処理対象を追加する場合、[追加]を選択すると、[例外パス入力]画面が表示されます。

図 4-2-23



- 5) [例外パスを直接入力]か[例外パスを現在のレジストリ情報から選択]で例外対象を追加し、[確認]をクリックします。
例外パス一覧に追加されます。

■ 登録されている例外パスを編集する場合

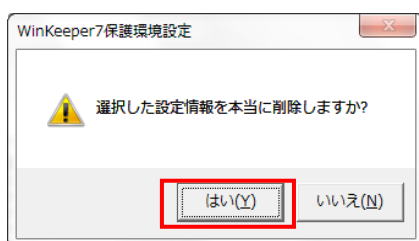
- 1) 編集を行う例外パスを選択し、画面上部の[編集]をクリックします。
- 2) [例外パス入力]画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

■ 登録されている例外パスを削除する場合

- 1) 削除を行う例外パスを選択し、画面上部の[削除]をクリックします。
- 2) 削除の確認画面が表示されます。

既存の例外パスを削除する場合は、[はい]をクリックします。

図 4-2-24



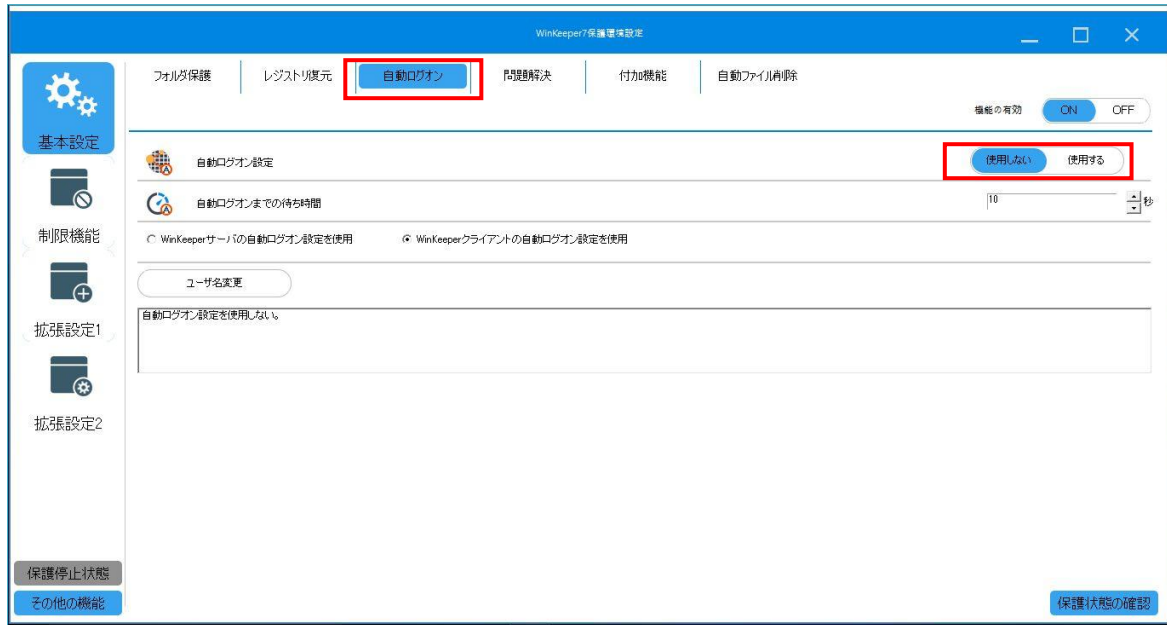
自動ログオンの設定

自動ログオンは、OS 起動時に、利用者の操作を必要とせず、任意のアカウントでログオンを行うことができます。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[自動ログオン]をクリックするとファンクションビューが切替わります。自動ログオンを使用する場合は、下のパネルに表示される[自動ログオン設定]の、[使用する]を選択してください。

図 4-2-25



- 2) [自動ログオン設定]でユーザ名、パスワード、およびドメイン名を入力してください。

図 4-2-26



- 3) [確認]をクリックすると、入力したユーザ名、パスワードおよびドメイン名が表示されます。

図 4-2-27



- 4) 設定を保存した時点で、設定した内容が有効となります。

■ 自動ログオンまでの待機時間

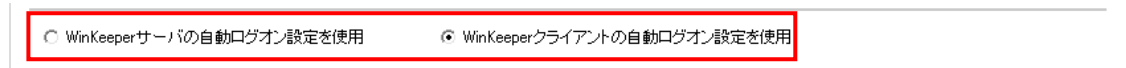
- 1) 本項目を設定することにより、ログオン画面を表示してから自動ログインを行うまでの待機時間を設定することができます。
図 4-2-28



■ 自動ログオン方式の決定

- 1) 自動ログオンは、WinKeeper サーバか WinKeeper クライアントかどちらか一方の設定を使用することができます。
- 2) 以下の選択肢より、使用する設定を選択します。

図 4-2-29



WinKeeper サーバの自動ログオン設定を使用：

WinKeeper サーバ側に設定された自動ログオン設定を実行します。

WinKeeper クライアントの自動ログオン設定を使用：

WinKeeper クライアント側に設定された自動ログオン設定を実行します。

問題解決の設定

■ 設定前の注意事項

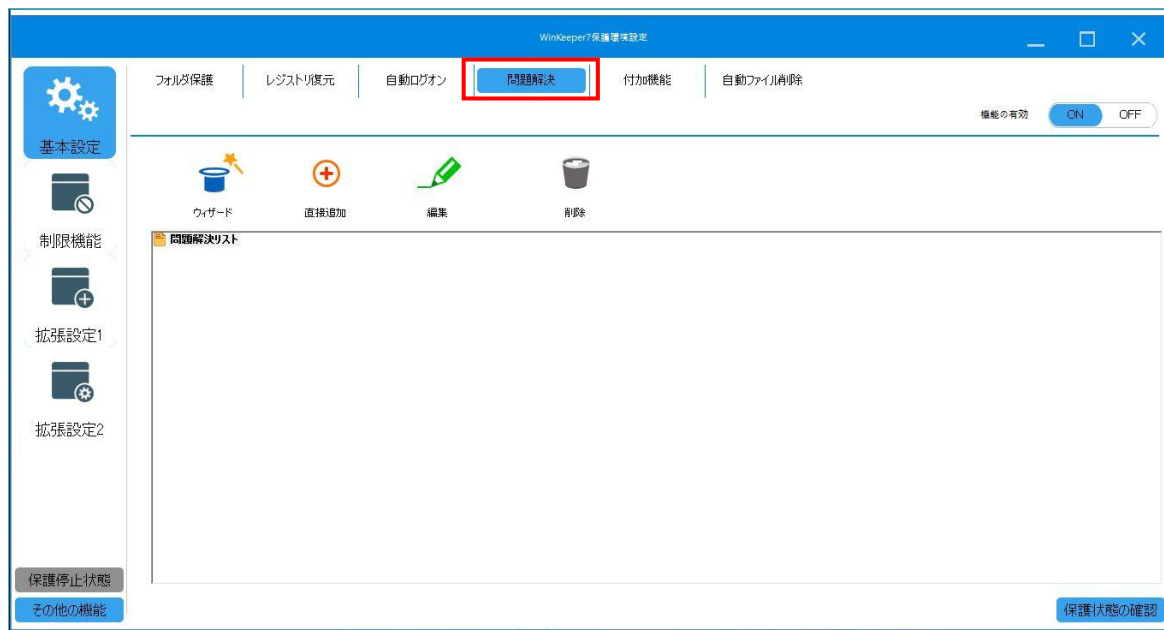
問題解決機能は、WinKeeper の保護中に動作競合するプログラムなどの処理を記憶させ、そのプログラムから発生する動きと動作競合しないように調整する機能です。フォルダ保護を実施しているフォルダに対し、特定のプログラムからファイルを書き込む動作のみを保護対象外にしたい場合などに有効です。

- レジストリ変更を伴う動きや、システムファイルへのアクセスと変更が発生する場合は、解決できないことがあります。
- 問題解決機能は、保護実行中に実行してください。保護停止中に設定すると、競合部分が解析できないことがあります。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[問題解決]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-30



- 2) [ウィザード]をクリックして[問題解決ウィザード]画面を起動します。

図 4-2-31



図 4-2-32



- 問題解決の実行時は、不要なプログラムは全て終了してください。複数の処理を実施すると登録できないことがあります。

3) 以下のいずれかの方法で、競合するプログラムを登録します。

I. [プログラム問題解決]をクリックし、[開く]画面から対象プログラムを選択する方法

図 4-2-33

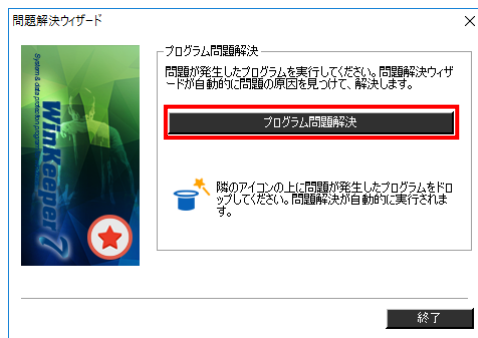
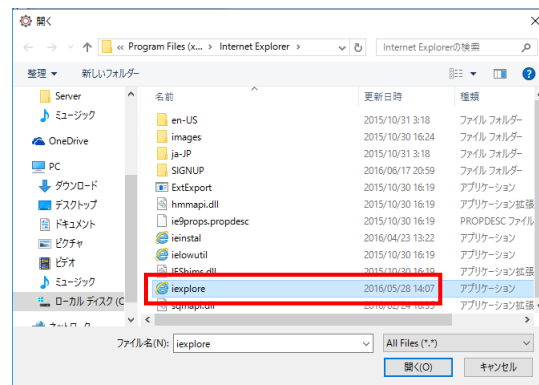
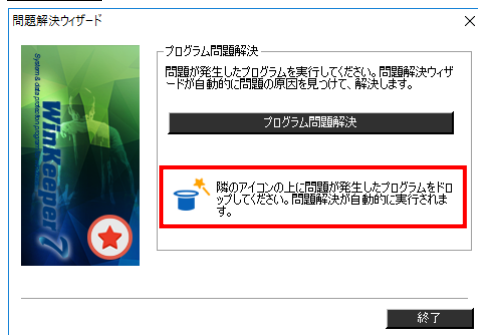


図 4-2-34



II. [問題解決ウィザード]画面上に、競合プログラムのアイコンをドラッグアンドドロップする方法

図 4-2-35



III. [直接追加]をクリックしてプロセスを直接追加する方法

図 4-2-36



直接追加

図 4-2-37



図 4-2-38



4) 選択ボタンを押して、問題解決に登録したいプログラムをダイアログから指定します。

- CSV ファイルを使用して、一括登録から複数プログラムを登録することができます。

5) プログラムパスには、登録したいプログラム以外にも追加したい子プロセス名を指定して追加ボタンを押すことでプロセスを追加することができます。

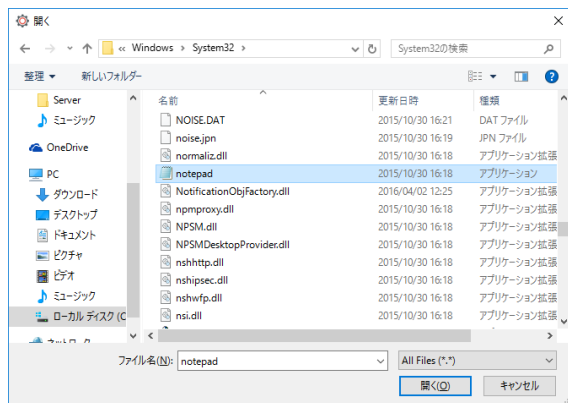
- 通常は I もしくは II の方法で登録を行ってください。
- I II とともに正常に登録が行えない場合に、III の方法で登録を行ってください。

■ 問題解決機能の使用例

フォルダ保護実行中のフォルダに対してメモ帳(notepad.exe)での書き込みを例外処理として登録します。

- 1) [問題解決ウィザード]画面から[プログラム問題解決]をクリックすると、[開く]画面が表示されます。
メモ帳のプログラム(C:\WINDOWS\System32\Notepad.exe)を選択します。

図 4-2-39



- プログラムの登録については、"P69 設定手順" 参照

- 2) 問題解決ウィザードに[問題解決中です。]と表示され、メモ帳(notepad.exe)が自動的に起動します。
文章を作成して保護実行中のフォルダ上にデータを保存してからメモ帳(notepad.exe)を終了します。

図 4-2-40

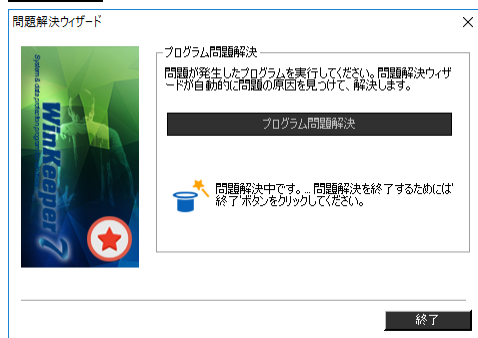
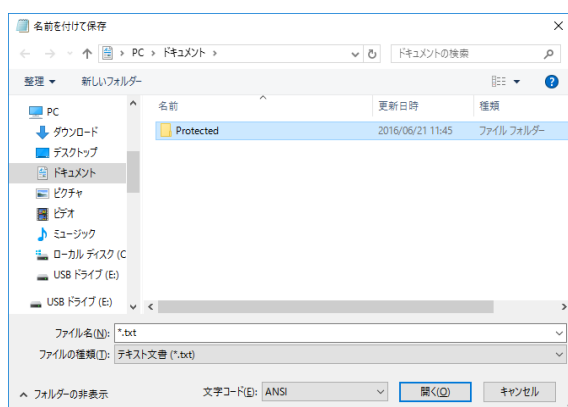


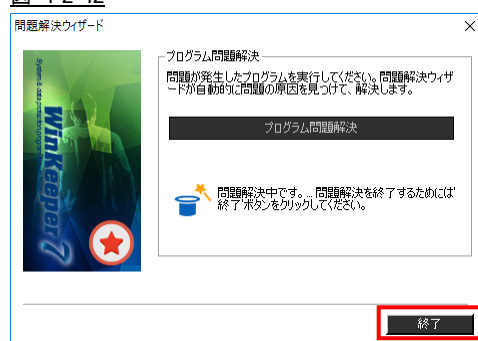
図 4-2-41



- ここでは例として保護対象のフォルダ "Protected"に保存しています。

- 3) 問題解決ウィザードの[終了]をクリックします。

図 4-2-42



- 4) メインコンソールの問題解決リストに[Notepad]が登録されたことを確認します。

図 4-2-43



Protected フォルダは保護した状態であっても、メモ帳(notepad.exe)による Protected フォルダへのファイル書込みや変更の作業だけは保護されなくなります。

- ウィザード画面の終了時に[問題解決された内容がありません]と表示される場合は、保護停止中の作業や他のプログラムが並行起動中のままであるなどの理由により動作が登録できないケースが想定されます。再度環境を確認の上、作業を実施しなおしてください。
- 解決したい作業がレジストリ変更を伴う場合は登録できません。登録がうまくいかない場合、登録プログラムの製造元にお問い合わせください。

付加機能の設定

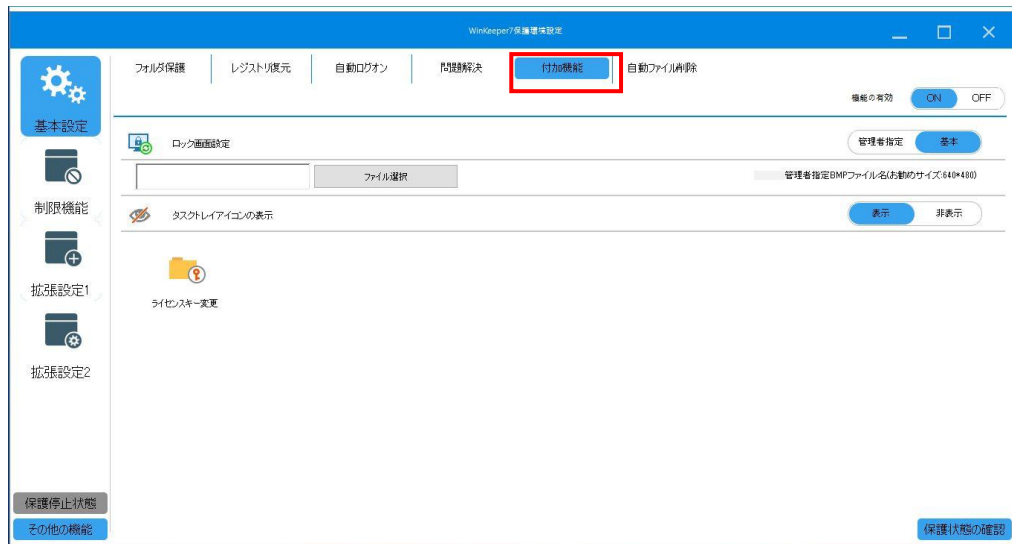
■ 設定前の注意事項

付加機能は、操作ロック中の表示画面やタスクトレイアイコン表示、ライセンスキー変更といった運用サポート機能です。

■ ロック画面の設定

- 1) WinKeeper メニューから[付加機能]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-44



- 2) 操作ロック実施中の表示画面を変更したい場合は、[ロック画面設定]にて[管理者指定]を選択します。

図 4-2-45

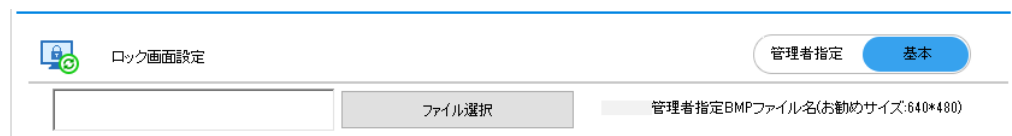
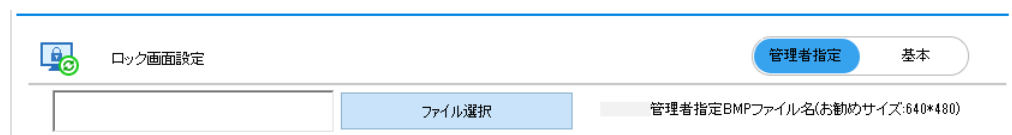
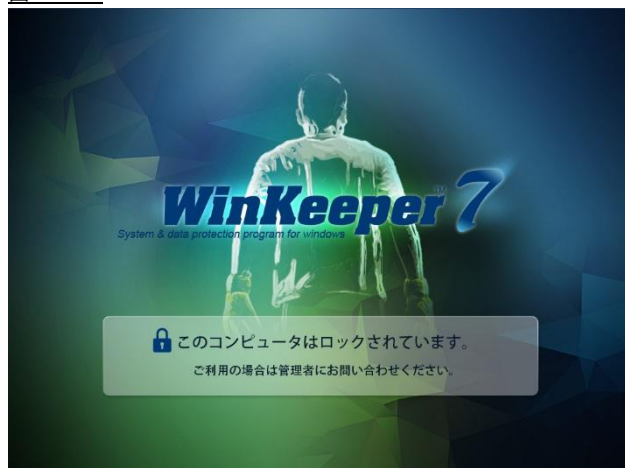


図 4-2-46



I. 基本 BMP を選択した場合

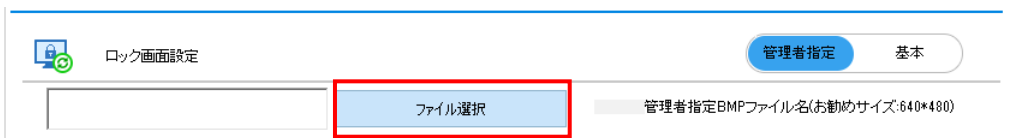
図 4-2-47



II. 管理者指定を選択した場合

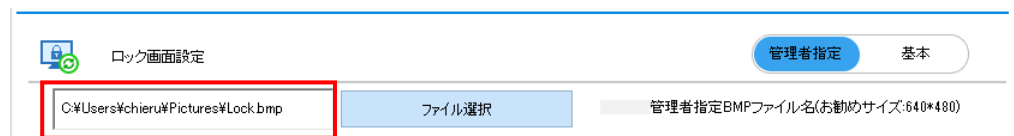
- ① [ファイル選択]をクリックして[開く]画面から表示したいビットマップファイルを選択します。

図 4-2-48



- ② 選択したファイル名が表示され、画面ロック時に PC の全画面に指定したビットマップファイルが表示されます。

図 4-2-49



■ WinKeeper アイコンの表示設定

[タスクトレイアイコンの表示]にて、[表示] / [非表示]を選択します。

図 4-2-50



図 4-2-51



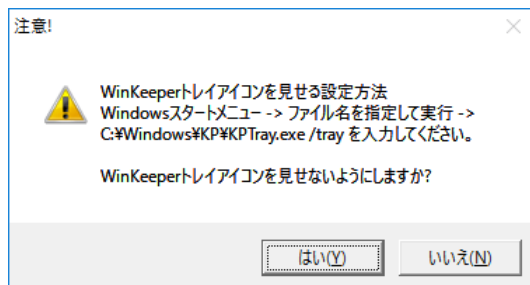
I. [表示]を選択した場合

タスクトレイに WinKeeper アイコンが表示されます。("P.50 WinKeeper アイコンの状態" 参照)

II. [非表示]を選択した場合

アラートが表示されます。[はい]をクリックするとタスクトレイアイコンが表示されなくなります。

図 4-2-52



- WinKeeper アイコンを表示させる場合は、[スタート] → [ファイル名を指定して実行]の名前欄に下記を入力して実行します。C:\Windows\KP\KPTray.exe /tray
- システム制限機能や Windows チューニング機能でコントロールパネルにアクセスできない環境の場合、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 以外からは一切設定が変更できなくなります。設定にはご注意ください。

■ ライセンスキーの変更設定

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client をインストールする PC の追加が発生した場合や、試用版から製品登録を行う場合、[ライセンスキー変更]をクリックすると、[WinKeeper ライセンスキー入力]画面が表示されます。ユーザー名とライセンスキーを入力して、[確認]をクリックします。

図 4-2-53



図 4-2-54

- WinKeeper Client / WinKeeper TB Client をインストールする PC を増やしたり、別々に購入した WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のライセンスを統合したりする場合に使用します。
- ライセンスキーの統合・追加発行は、別途手続きが必要ですので、弊社の問い合わせ窓口までお問い合わせください。

自動ファイル削除の設定

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[基本設定]- [自動ファイル削除]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-55



- 2) 削除対象領域を登録する場合、[追加]ボタンをクリックします。

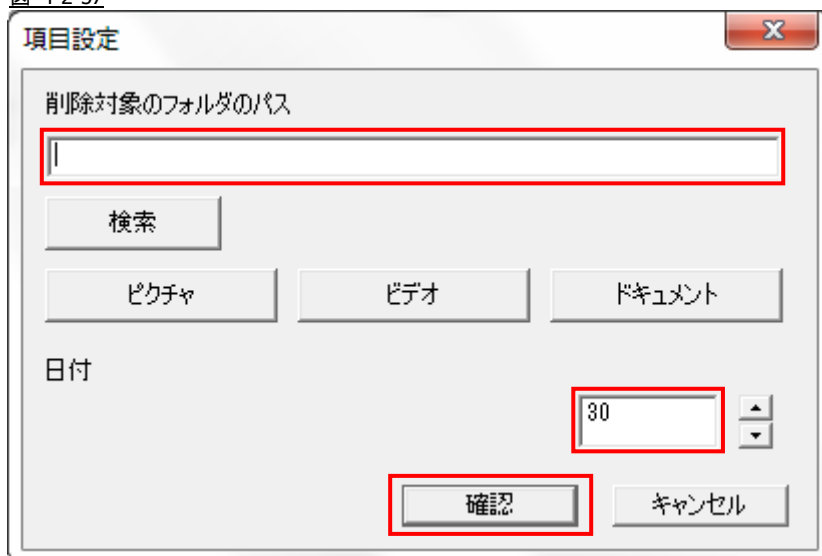
図 4-2-56



- 3) 項目設定画面が表示されます。削除対象のフォルダパスと削除を実施する経過日数を入力し、[確定]ボタンをクリックします。

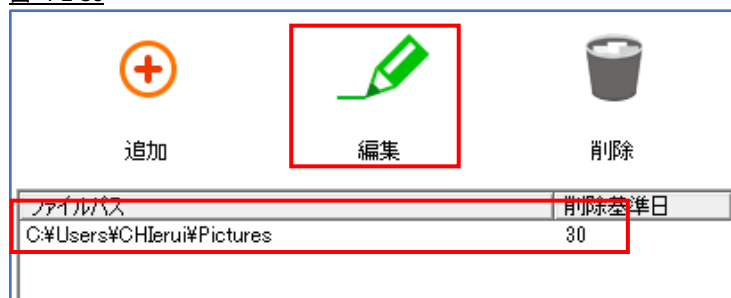
- 経過日数は、ファイルの更新日が基準となります。

図 4-2-57



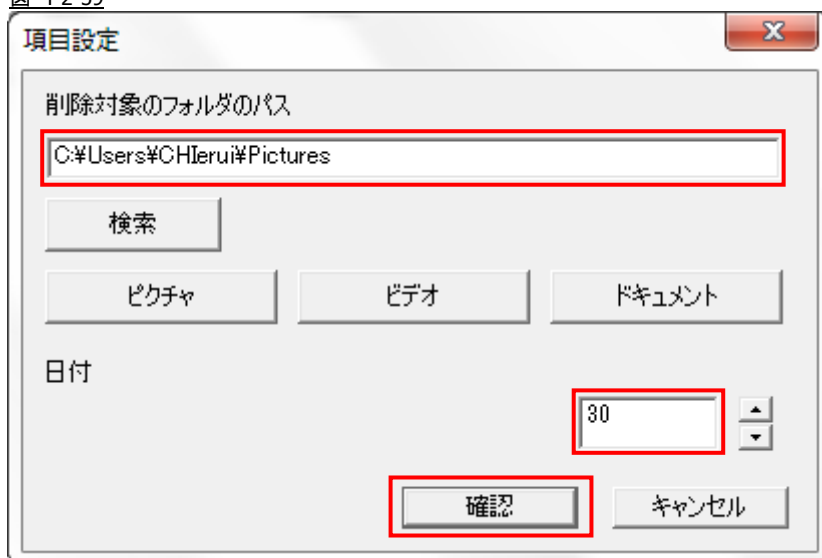
- 4) 編集する場合は、対象となるファイルパスを選択して、[編集]ボタンをクリックします。

図 4-2-58



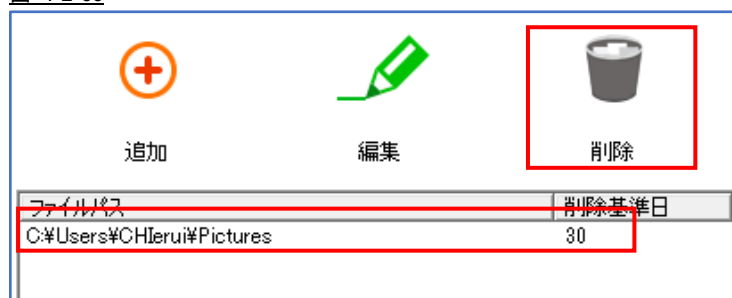
- 5) 項目設定画面が表示されます。削除対象のフォルダパスと削除を実施する経過日数を入力し、[確定]ボタンをクリックします。

図 4-2-59



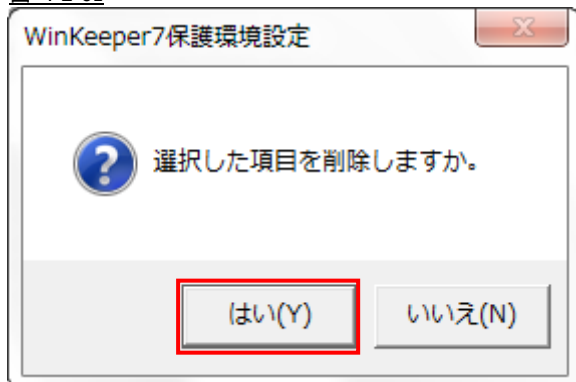
- 6) 削除する場合は、対象となるファイルパスを選択して、[削除]ボタンをクリックします。

図 4-2-60



- 7) 確認メッセージが表示されるので、[はい]をクリックします。

図 4-2-61



システム制限の設定

■ 設定前の注意事項

システム制限機能の設定は、利用者に触れさせたくない設定関連項目(レジストリやコントロールパネルなど)を起動できないように制限する機能です。制限を実施すると、該当モジュールの起動時に WinKeeper によって警告画面が表示されます。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[制限機能]-[システム制限]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-62

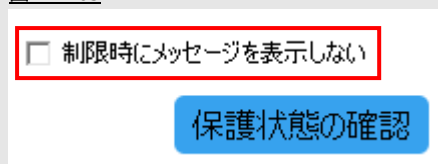


表 4-2-1

項 目	説 明	初期設定
レジストリエディタ	レジストリエディタの起動を禁止します。	禁止
コントロールパネル	コントロールパネルの起動を禁止します。	禁止
ネットワーク	ネットワークのプロパティの起動を禁止します。	禁止
システムのプロパティ	システムのプロパティの起動を禁止します。	禁止
画面のプロパティ	画面のプロパティの起動を禁止します。	禁止
インターネットオプション	インターネットオプションの起動を禁止します。	許可
Windows タスクマネージャ	Windows タスクマネージャの起動を禁止します。	許可
Windows 設定	Windows 設定の起動を禁止します。	禁止
アクションセンター	アクションセンターの通知を禁止します。	禁止
USB ドライブ使用	USB ドライブの使用を禁止します。	許可

- 該当機能の起動時に WinKeeper によって表示される警告画面は、[制限時にメッセージを表示しない]のチェックボックスより、表示の有無を設定できます。

図 4-2-63



- Windows 設定が禁止時に、Windows 設定を開くとタスクバーにアイコンが残ることがあります。
- USB ドライブ使用が禁止の場合、USB メモリ、USB ハードディスクのみ使用が制限され、他 USB デバイスは制限できません。

- 2) リストから機能を選択して、[許可]または[禁止]を選択します。

図 4-2-64 許可状態



図 4-2-65 禁止状態



表 4-2-2

項 目	説 明
許可	ユーザーによる機能の使用を許可します。
禁止	ユーザーによる機能の使用を制限します。

通信制御の設定

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[制限機能]-[通信制御]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-66

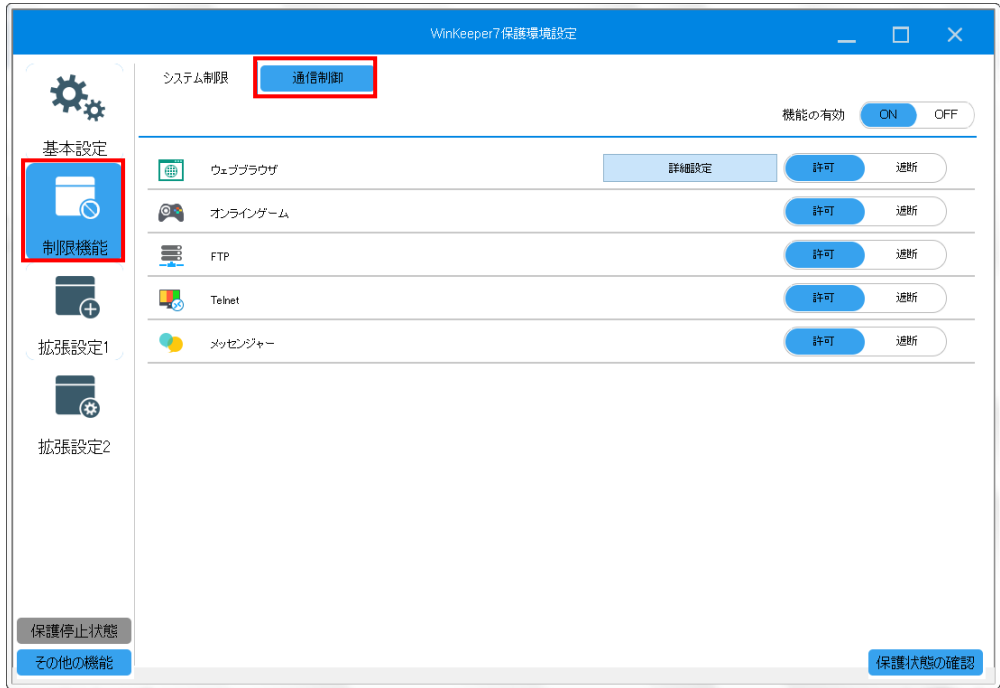


表 4-2-3

項 目	説 明
ウェブブラウザ	ブラウザの動作を制限できます。[詳細設定]では、遮断時には開ける URL をホワイトリスト形式で、許可時には開けない URL をブラックリスト形式で登録できます。 (“P. 80 ウェブブラウザの詳細設定” 参照)
オンラインゲーム	オンラインゲームの使用を制限できます。 ※ウェブブラウザの[遮断]を行った場合、強制的に[遮断]になります。
FTP	FTP 通信を制限できます。
Telnet	Telnet 通信を制限できます。
メッセージャー	メッセージャーの使用を制限できます。

- 2) [許可]または[遮断]したい項目を変更します。

■ ウェブブラウザの詳細設定

ウェブブラウザの詳細設定は、例外リストに URL を登録することで、特定の URL に対して利用者からの接続を許可または、遮断する機能です。

1) WinKeeper メニューから[制限機能]-[通信制御]-[詳細設定]をクリックする例外リスト画面が表示されます。

図 4-2-67

・ウェブブラウザが許可の場合

図 4-2-68

・ウェブブラウザが遮断の場合

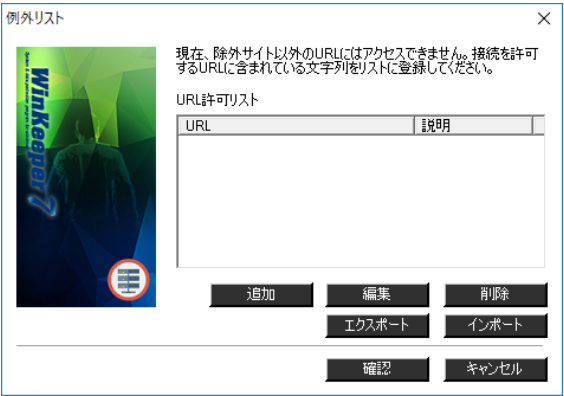
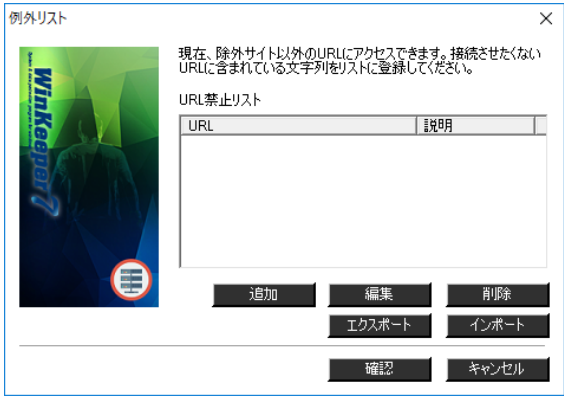


表 4-2-4

項 目	説 明
追加	・ウェブブラウザが許可の場合 接続を禁止したい URL を登録できます。 ・ウェブブラウザが禁止の場合 接続を許可したい URL を登録できます。
編集	登録されている URL を編集できます。
削除	登録されている URL を削除できます。
エクスポート	例外リストをエクスポートできます。
インポート	例外リストをインポートできます。

2) 設定完了後、「確認」をクリックします。

● この機能は保護実行中に有効です。

Wi-Fi 接続制限

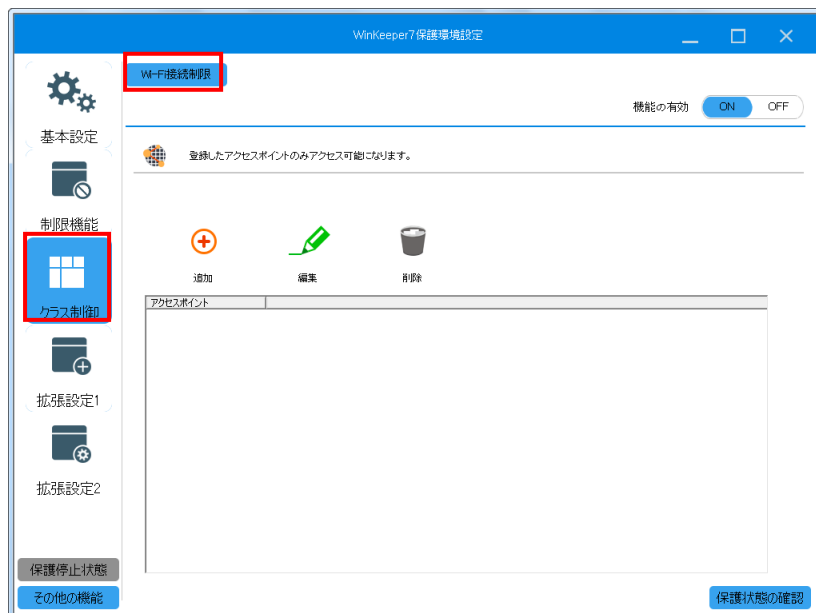
無線 LAN を接続する際、指定した SSID にのみ接続させることができます。

- この機能は保護実行中に有効です。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[クラス制御]-[Wi-Fi 接続制限]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-69



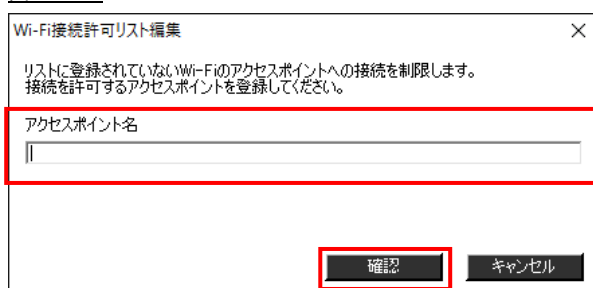
- 2) [追加]ボタンをクリックします。

図 4-2-70



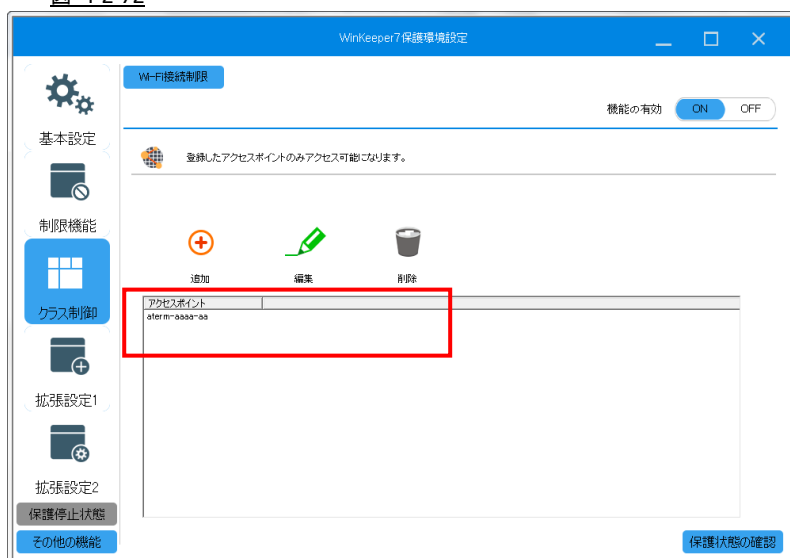
- 3) [Wi-Fi 接続許可リスト編集]画面で、(アクセスポイント名 (SSID)) を入力して[確認]ボタンを押します。

図 4-2-71



- 4) ファンクションビューに追加されます。

図 4-2-72



- 登録されている SSID 以外の SSID に接続した場合、接続した数秒後に自動切断し、元の SSID に接続し直します。

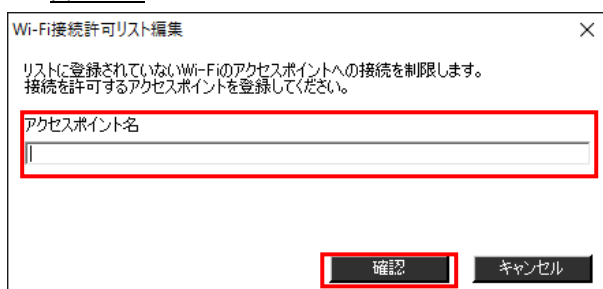
- 5) 編集する場合は、対象となる SSID を選択して[編集]ボタンをクリックします。

図 4-2-73



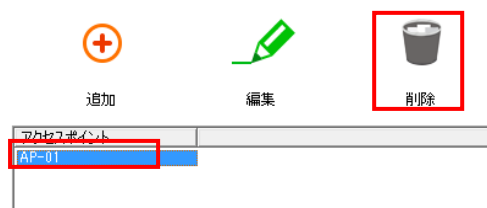
- 6) [Wi-Fi 接続許可リスト編集]画面で、(アクセスポイント名 (SSID)) を編集して[確認]ボタンを押します。

図 4-2-74



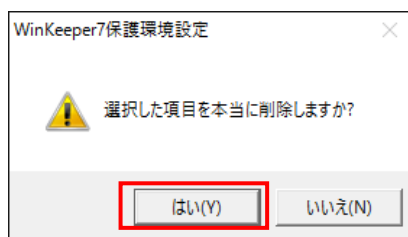
- 7) 削除する場合は、対象となる SSID を選択して[削除]ボタンをクリックします。

図 4-2-75



- 8) 確認メッセージが表示されるので、[はい]をクリックします。

図 4-2-76



Windows チューニングの設定 ※WinKeeper Client のみ

■ 設定前の注意事項

Windows チューニング機能は、デスクトップのプロパティ操作やタスクバー操作などに制限を加える機能です。各種機能にアクセスするための操作を無効にすることで、ユーザーのアクセスを防ぎます。

- この機能の各項目は設定後に再起動を必要とします。再起動をするまでは設定事項は反映されません。
- Windows 8.1 では 6~8 のみ、Windows 10 では 7、8 のみ利用可能です。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[拡張設定 1]- [Windows チューニング]を選択するとファンクションビューが切り替わります。
- 2) 画面右の[デスクトップアイコン制御]及び[スタートメニュー制御]から制限項目にチェックを入れます。
- 3) 画面右上の ON・OFF により機能の有効、無効を切り替えます。

図 4-2-77



表 4-2-5

[デスクトップアイコン制御]の場合

項 目	説 明
1. デスクトップのアイコンを全部隠す	デスクトップにアイコンが表示されなくなります。
2. 'Internet Explorer'を隠す	Internet Explorer のアイコンがデスクトップに表示されなくなります。
3. 'ネットワークコンピュータ'を隠す	ネットワークのアイコンがデスクトップに表示されなくなります。
4. 'ごみ箱'を隠す	ごみ箱のアイコンがデスクトップに表示されなくなります。
5. 'マイドキュメント'を隠す	マイドキュメントのアイコンがデスクトップに表示されなくなります。
6. 'デスクトップのプロパティ'を無効化	画面のプロパティを使用できなくなります。
7. タスクバーで右クリックを無効化	タスクバー上で右クリックを実行できなくなります。
8. タスクバーのツールバーを無効化	タスクバー上でツールバーを選択できなくなります。

表 4-2-6

[スタートメニュー制御]の場合

項 目	説 明
1. 'Windows Update'を隠す	Windows Update がスタートメニューに表示されなくなります。
2. 'お気に入り'を隠す	お気に入りがスタートメニューに表示されなくなります。
3. '最近使ったファイル'を隠す	最近使った項目がスタートメニューに表示されなくなります。
4. 'コントロールパネル'を隠す	コントロールパネルがスタートメニューに表示されなくなります。
5. 'ファイル名を指定して実行'を隠す	ファイル名を指定して実行がスタートメニューに表示されなくなります。
6. 'ログオフ'を隠す	ログオフがスタートメニューに表示されなくなります。
7. 'シャットダウン'を隠す	シャットダウンがスタートメニューに表示されなくなります。
8. '検索'を隠す	使用できません。
9. 'タスクバーとスタートメニュー'を隠す	タスクバーとスタートメニューが表示されなくなります。
10. 'フォルダオプション'を隠す	フォルダオプションが表示されなくなります。

- Windows の仕様により、完全にアクセスを遮断したり表示を非表示にしたりすることはできません。一部の機能を用いることでアクセスできる場合があります。

ディスククリーナーの設定

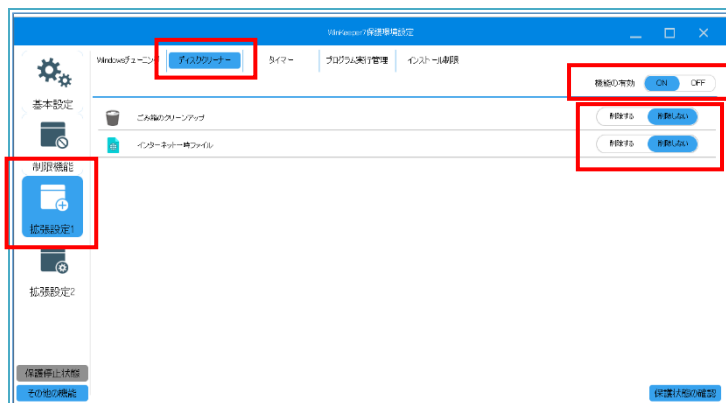
■ 設定前の注意事項

ディスククリーナー機能は、再起動毎に[ごみ箱]と[インターネット一時ファイル]のフォルダの中身を削除する機能です。
この機能をアクティブにしていると、再起動時に[ごみ箱]の中に置かれたファイル / フォルダとインターネット一時ファイル内にキャッシュされたファイルを自動的に削除します。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[拡張設定 1]-[ディスククリーナー]を選択するとファンクションビューが切り替わります。
- 2) 再起動時に各ファイルを削除する場合は[削除する]を選択します。
- 3) 画面右上の ON・OFF により機能の有効、無効を切り替えます。

図 4-2-78



- インターネット一時ファイルの削除対象ブラウザは Internet Explorer / Microsoft Edge になります。

タイマーのスケジュール設定 / 編集 / 削除

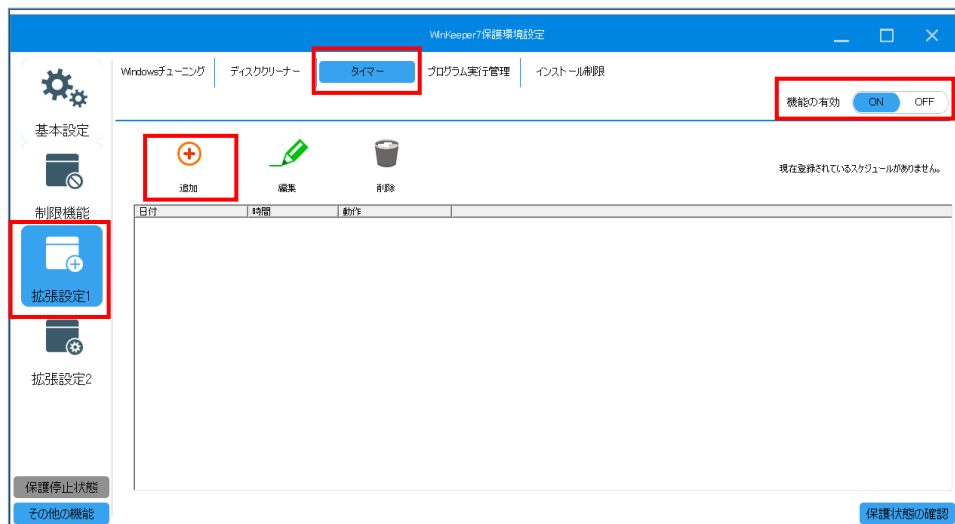
■ 設定前の注意事項

タイマー機能は、指定時刻もしくは起動後の指定時間経過時に電源管理や保護設定、メンテナンス関連のアクションを実行する機能です。シャットダウンや再起動、そして保護の実行や停止に加え、指定コマンドの実行やデフラグ、操作ロックなどの機能を選択できますので管理者が不在の環境でも自動的にメンテナンス処理を行うことができます。

■ スケジュールの作成手順

- 1) WinKeeper メニューから[拡張設定 1]-[タイマー]を選択するとファンクションビューが切り替わります。
[追加]をクリックします。

図 4-2-79



- 2) [スケジュール編集]画面が表示されます。
各項目を設定して、[確認]をクリックします。
- 3) 画面右上の ON・OFF により機能の有効、無効を切り替えます。

図 4-2-80

表 4-2-7

項 目	説 明	
タイマー設定	日時	<p>毎日 : 毎日タスクを実行します。</p> <p>指定された曜日 : 指定された曜日にタスクを実行します。</p> <p>指定された日 : 指定された日にタスクを実行します。</p> <p>毎月の指定された日 : 指定された日に毎月タスクを実行します。</p> <p>使わない : このタスクは実行しません。</p>
	時間	<p>システム時間 : 指定した時刻にタスクを実行します。</p> <p>システム起動の後 : システム起動から経過した指定時間後に実行します。</p>
動作	<p>ファイル実行 : 実行するファイルのパスを入力し、ファイルを実行します。</p> <p>コンピュータ再起動 : PC を再起動します。(電源管理)</p> <p>コンピュータ終了 : PC をシャットダウンします。(電源管理)</p> <p>WinKeeper 保護実行 : WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の保護を開始します。(WinKeeper 保護設定)</p> <p>WinKeeper 保護停止 : WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の保護を停止します。(WinKeeper 保護設定)</p> <p>WinKeeper 終了 : WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の保護を終了します。(WinKeeper 保護設定)</p> <p>管理者メッセージ : 入力したメッセージを表示します。(入力文字数: 全角 105 半角 210 文字以内)</p> <p>画面ロック : WinKeeper Client / WinKeeper TB Client をロックします。(動作制限)</p> <p>画面ロック解除 : WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のロックを解除します。(動作制限)</p> <p>ディスクデフラグ : パラメータに入力されたハードディスクをデフラグします。(メンテナンス)</p> <p>コマンドプロンプト実行 : 指定したコマンドを実行します。</p> <p>フォルダ内部削除 : フォルダの内部を削除して、フォルダの内容を初期化します。</p>	

設定したスケジュールがファンクションビューに表示されます。

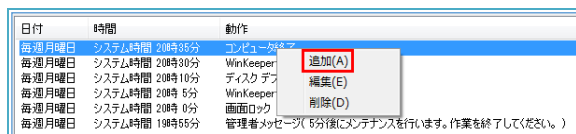
図 4-2-81

日付	時間	動作
毎週月曜日	システム時間 11時55分	管理者メッセージ(1200からメンテナンスを開始します。作業を終了してください)
毎週月曜日	システム時間 12時 0分	画面ロック
毎週月曜日	システム時間 12時 5分	ファイル実行(C:\AntiVirusSoftware\Update.exe)
毎週月曜日	システム時間 12時 15分	ディスク デフラグ(defrag.exe c:\ /1)
毎週月曜日	システム時間 12時55分	画面ロック解除
毎週月曜日	システム時間 12時56分	コンピュータ終了

■ 作成したタスクを複製して利用する場合

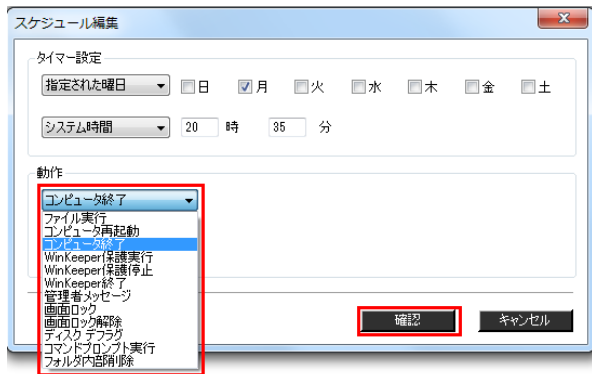
- 1) 作成済みのタスクを選択して右クリックし、表示されるメニューから[追加]を選択します。

図 4-2-82



- 2) 再度[スケジュール編集]画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

図 4-2-83



■ 作成したタスクを編集する場合

- 1) 以下のいずれかの方法で、作成したスケジュールタスクの編集画面を表示します。

- I. 編集を行う既存スケジュールを選択し、画面上部の[編集]をクリックする方法
- II. 編集を行う既存スケジュールを選択し、右クリックで表示されるメニューから[編集]をクリックする方法
- III. 既存のスケジュールをダブルクリックする方法

- 2) [スケジュール編集]画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

■ 作成したタスクを削除する場合

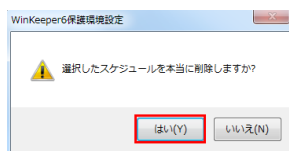
- 1) 以下のいずれかの方法で、作成したスケジュールタスクを削除します。

- I. 削除を行う既存のスケジュールを選択し、画面上部の[削除]をクリックする方法
- II. 削除を行う既存のスケジュールを選択し、右クリックで表示されるメニューから[削除]を選択する方法

- 2) 削除の確認画面が表示されます。

既存のスケジュールを削除する場合は、[はい]をクリックします。

図 4-2-84



- 同一日時・時刻に複数の動作は設定できません。

■ タイマーの設定例

月曜日の昼休み(12:00~13:00)に開放スペースの PC のメンテナンスを行う場合

それぞれのタスクを作成後、[確認]をクリックして作成したスケジュールタスクを登録します。

図 4-2-85

日付	時間	動作
毎週月曜日	システム時間 11時55分	管理者メッセージ(12:00からメンテナンスを開始します。作業を終了してください。)
毎週月曜日	システム時間 12時 0分	画面ロック
毎週月曜日	システム時間 12時 5分	ファイル実行(C:\%AntiVirusSoftware%\Update.exe)
毎週月曜日	システム時間 12時15分	ディスク デフラグ(defrag.exe c:\ /f)
毎週月曜日	システム時間 12時55分	画面ロック解除
毎週月曜日	システム時間 12時56分	コンピュータ終了

① 警告メッセージ表示(ユーザへの警告表示)

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 11:55]

動作 : [管理者メッセージ / 12:00 からメンテナンスを開始します。作業を終了してください。]

② 画面ロック(ユーザーに触れさせないで処理をするため)

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12:00]

動作 : [画面ロック]

③ コマンドラインによるワクチンソフトのアップデートを行う

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12 : 05]

動作 : [ファイル実行 / C:\%AntiVirusSoftware%\Update.exe]

● コマンドラインによるアップデートなどは、各製品のメーカーにお問い合わせください。

④ C ドライブのデフラグ処理(40 分以内に終わることを想定)

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12 : 15]

動作 : [ディスクデフラグ / defrag.exe C: /f]

⑤ 画面ロックの解除(デフラグが終了する時間を想定してロック解除)

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12 : 55]

動作 : [画面ロック解除]

⑥ コンピュータの終了

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12 : 56]

動作 : [コンピュータ終了]

プログラム実行管理の追加と削除

■ 設定前の注意事項

プログラム実行管理機能は、起動させたくないプログラムを登録して動作制限をしたり、運用目的に沿って使われるプログラム以外の全てのアプリケーションを禁止したりといった起動制限設定ができます。

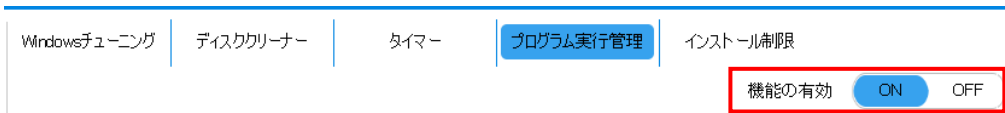
.exe や .com といった、主にタスクマネージャのアプリケーションタブに表示される項目が起動制限対象です。

なお、Windows ストアアプリは、管理対象外となります。

■ プログラム実行管理機能の有効・無効について

画面右上の ON・OFF により機能の有効、無効を切り替えることができます。

図 4-2-86



■ プログラムの追加

- WinKeeper によるプログラムの実行制限は非常に有効な機能である反面、慎重な対応が必要になります。環境情報を把握し、制限をかけることで運用に支障が無いように確認しながら設定してください。

- 1) WinKeeper メニューから[拡張設定 1]-[プログラムの管理]を選択するとファンクションビューが切り替わります。

図 4-2-87

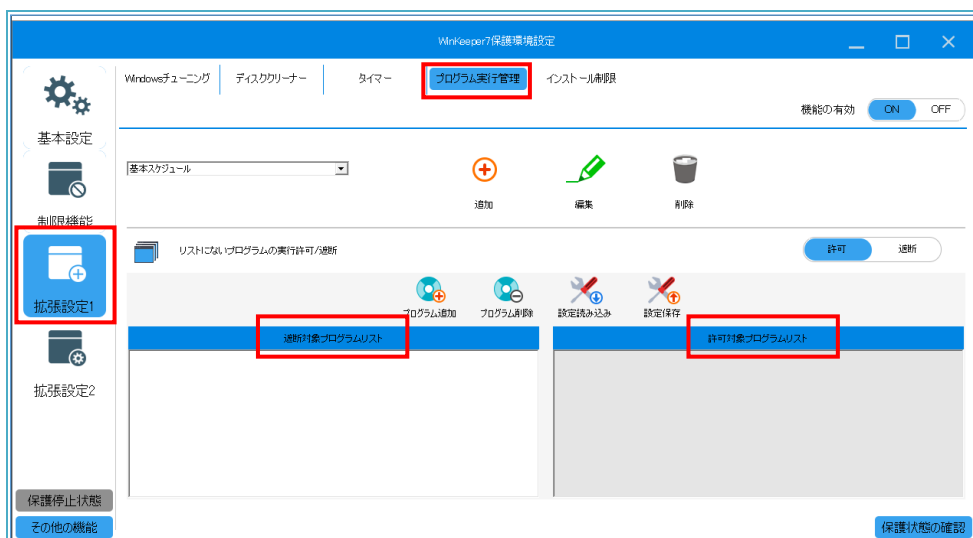


表 4-2-8

項 目	説 明
遮断対象プログラムリスト	登録したプログラムだけを実行禁止にします。 他のプログラムは影響を受けません。
許可対象プログラムリスト	スタートメニュー上にあるプログラムを禁止し、登録したプログラムだけを実行可能にします。 他の.EXE /. COM の主要プログラムは WinKeeper で制限されます。

- Windows のシステムに関連するアプリケーションやプログラム、特定の理由で制限対象から外されているアプリケーションが存在するため全てのプログラムを制限対象にすることはできません。

- 2) ファンクションビューのリストにないプログラムの実行許可/禁止から、[プログラム追加]をクリックします。

図 4-2-88



画面上部の[プログラム追加]をクリックすると[プログラム追加]画面が表示されます。

プログラム追加ダイアログにはプログラムリストとフォルダリストの2つの設定画面があり、タブで切り替えられます。

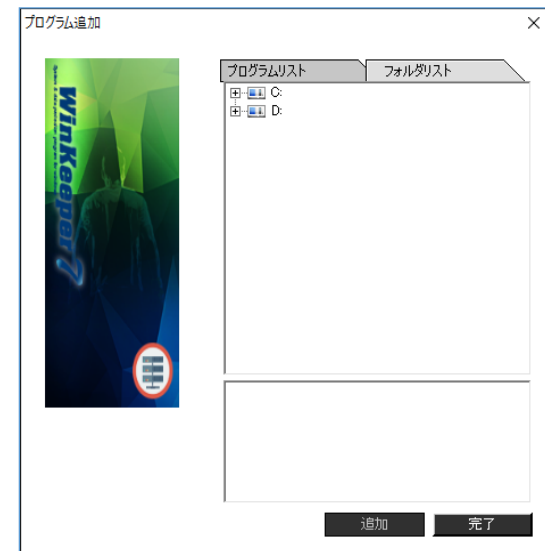
プログラムリスト : Windows スタートメニューと同じリスト形式で表示されます。

フォルダリスト : Windows エクスプローラと同じリスト形式で表示されます。

図 4-2-89 プログラムリスト



図 4-2-90 フォルダリスト



3) プログラムを追加します。

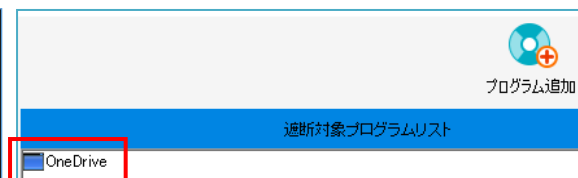
I. プログラムリストから追加する場合

フォルダツリーを開きプログラム選択後、[追加]またはプログラムのアイコンをダブルクリックするとファンクションビューに登録されます。

図 4-2-91

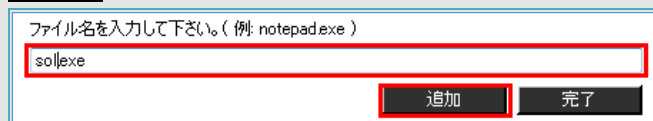


図 4-2-92



- [ファイル名入力] 欄に直接制限したいファイル名を入力し、[追加]をクリックすることでも登録できます。

図 4-2-93



II. フォルダリストから追加する場合

フォルダツリーを開きフォルダ選択後、下部ウィンドウに表示されるプログラム名を選択します。

[追加]またはプログラムのアイコンをダブルクリックするとファンクションビューに登録されます。

図 4-2-94

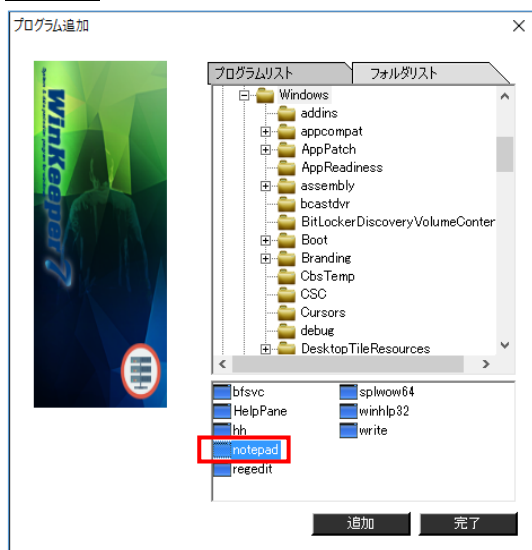
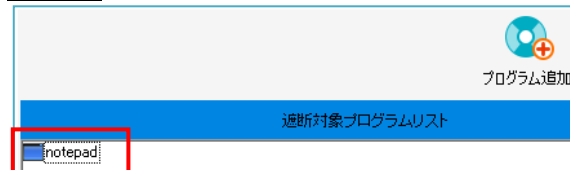


図 4-2-95



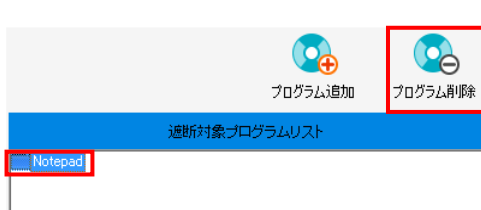
- 4) 登録後、[完了]またはプログラム追加画面右上の[×]をクリックしてプログラム追加画面を閉じます。

■ プログラムの削除

- 1) 登録したプログラムを削除する場合は、削除するプログラムアイコンを選択して以下のいずれかの方法で削除します。

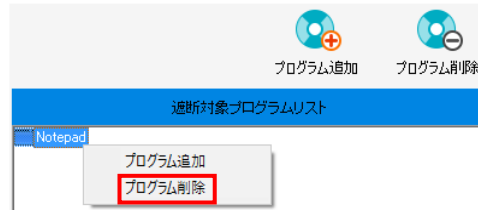
I. 画面上部の[プログラム削除]アイコンをクリックする方法

図 4-2-96



II. 右クリックで表示されるメニューから[削除]を選択する方法

図 4-2-97



- 2) プログラムが削除されます。

■ 設定読み込み

他の WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のプログラム登録情報の設定ファイルをコピーしたい場合は、[設定読み込み]をクリックして PST ファイルを選択します。

図 4-2-98



■ 設定保存

プログラム登録情報を保存したい場合は[設定保存]をクリックし、設定情報ファイル(PST ファイル)として保存することができます。

図 4-2-99



■ スケジュールの追加と編集

スケジュールを登録して、プログラム起動制限機能を実行することができます。

- 1) [追加]をクリックすると、スケジュール入力画面が表示されます。

図 4-2-100



図 4-2-101



- 2) プログラム起動制限を行いたいスケジュールを設定し、[確認]をクリックします。
- 3) 登録したスケジュールの編集を行う場合は[編集]を、削除したい場合は[削除]をクリックしてください。

インストール制限の設定

■ 設定前の注意事項

インストール制限機能は、特定のインストーラによるインストール行為を禁止、また ActiveX を制限します。
[アプリケーションインストール]で制限されるインストーラは、Microsoft Installer、Install Shield、IEExpress の 3 種類です。
また、[ActiveX 制限]は ActiveX のインストールを制限するもので、すでに ActiveX がインストールされた環境では使用できません。ActiveX を利用したプログラムがある場合は保護停止中に ActiveX をアンインストールしてからご利用ください。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[拡張設定 1]- [インストール制限]を選択するとファンクションビューが切り替わります。

図 4-2-102

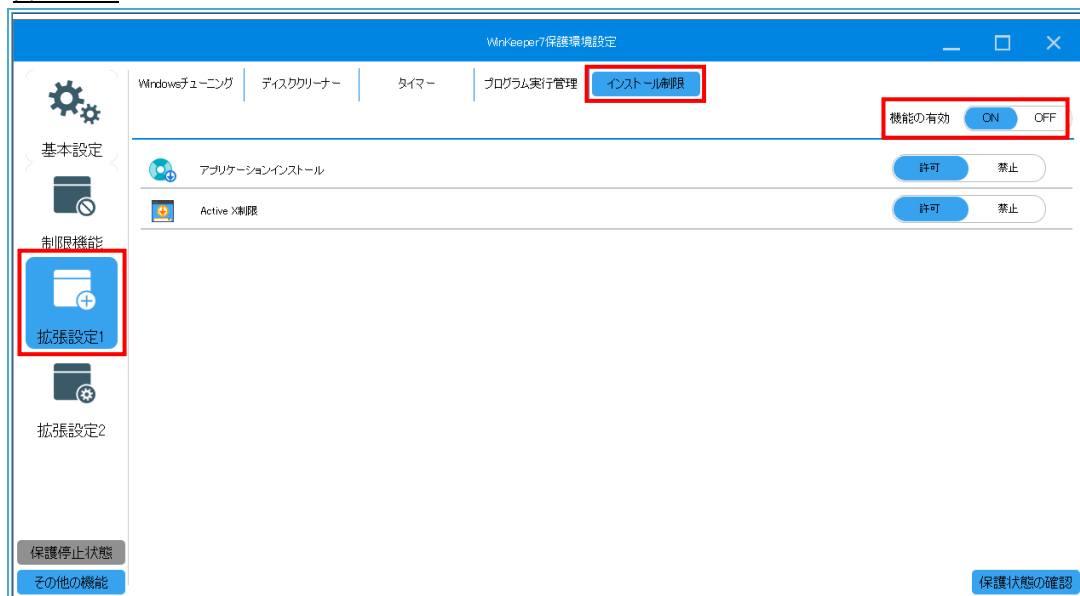


表 4-2-9

項 目	説 明
アプリケーションインストール	特定のインストーラモジュールによるインストールを禁止します。
ActiveX 制限	ActiveX のインストールを禁止します。

- 2) インストール制限や ActiveX の制限を行わない場合は[許可]を選択し、制限を行う場合は[禁止]を選択します。

図 4-2-103



図 4-2-104



表 4-2-10

項 目	説 明
許可	ユーザーによるアプリケーションのインストールや ActiveX のインストールを許可します。
禁止	ユーザーによるアプリケーションのインストールや ActiveX のインストールを禁止します。

- 3) 画面右上の ON・OFF により機能の有効、無効を切り替えます。

危険プログラム管理の設定

危険プログラムは ini ファイルで実行を制限したい実行ファイル名を記述して設定します。このリストをクライアントに送信することによって、クライアントはこのリストにある実行ファイルを起動できなくなります。このファイルで指定された危険プログラムが[危険プログラム管理]をクリックすると表示されます。

- プログラム実行管理機能を 無効にした場合、危険プログラム管理機能も動作しくなくなります。

保護設定スケジュールの設定

■ 設定前の注意事項

保護設定スケジュールは、保護設定の内容を指定した時間により変更する機能です。保護設定を複数持ち、時間にしたがって、保護の内容が自動で適用されます。

■ 設定手順

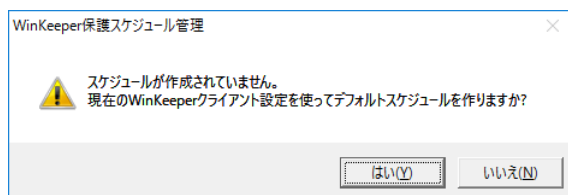
- 1) WinKeeper メニューから[拡張設定 2]- [保護設定スケジュール]をクリックします。

図 4-2-105



- 2) スケジュールが 1 つもない場合にデフォルトスケジュールを作成するか確認メッセージが表示されます。
[OK]をクリックします。

図 4-2-106



- 3) [保護スケジュール管理]画面が表示されます。[追加]をクリックします。

図 4-2-107



- 4) [スケジュール入力]画面が表示されます。各項目を設定して、[確認]をクリックします。

図 4-2-108

表 4-2-11

項 目		説 明
日	日時	毎日 : 毎日タスクを実行します。 指定された曜日 : 指定された曜日にタスクを実行します。 指定された日 : 指定された日にタスクを実行します。 毎月 : 指定された日に毎月タスクを実行します。 使わない : このタスクは実行しません。
	時間	0 時 0 分～23 時 59 分の範囲でスケジュールの有効な時間帯を入力します。
説明	スケジュールに対する説明を入力します。	
設定ファイル	適用される環境設定の設定ファイルを指定します。	

- 5) スケジュールを適用する場合は、[WinKeeper クライアント保護設定のスケジュール設定をシステムに適用する]をチェックし、画面右下の[保存]をクリックします。

図 4-2-109

■ 作成したスケジュールを編集する場合

- 1) 編集を行う既存スケジュールを選択し、画面上部の[編集]をクリックします。
- 2) [スケジュール入力] 画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

■ 作成したスケジュールを削除する場合

- 1) 削除を行う既存のスケジュールを選択し、画面上部の[削除]をクリックします。
- 2) 削除の確認画面が表示されます。

既存のスケジュールを削除する場合は、[はい]をクリックします。

図 4-2-110

- 同一日時・時刻に複数のスケジュールが登録されている場合、先に登録されているスケジュールで動作します。

4-3.保護状態の選択

保護実行 / 保護停止 / 保護終了 / 保護再実行

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の機能設定完了後、保護状態を変更して保護を開始します。

■ WinKeeper Client コンソール画面から保護状態の変更

- 1) 画面右下の[保護状態の確認]をクリックします。

図 4-3-1

保護状態の確認

- 2) 保護状態選択画面が表示されます。

保護状態を選択して、[確認]をクリックします。

図 4-3-2

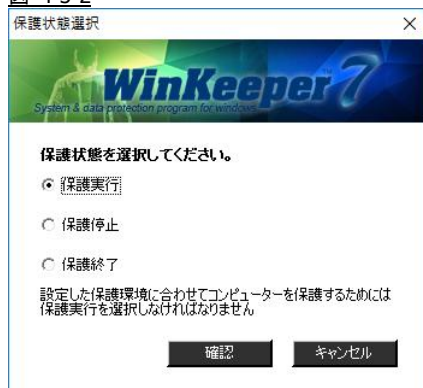


表 4-3-1

保護状態	動作
保護実行	設定情報を保存し、設定に従って保護を開始します。保護開始時点のファイル配置などを記憶し、再起動時に復元します。再起動は発生しませんが、一部の機能は設定を反映するために再起動が必要です。
保護停止	設定情報を保存し、保護を停止して再起動します。再起動後に保護開始時点のステータスに戻ります。保護停止状態の時に保護停止を選択した場合は再起動しません。
保護終了	設定情報を保存し、保護を終了して再起動します。保護終了状態で WinKeeper を起動するにはコントロールパネル上のアイコンをダブルクリックして起動します。サービスが停止するため、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server と通信できなくなります。

- 利用シーンで壁紙の変更したまま保護解除すると、保護解除後も利用シーンで変更した壁紙が反映されたままとなりますので、利用シーンで壁紙の変更を行っている場合、利用シーンのクリア後に保護の解除を実施して下さい。

- 3) 選択した状態に応じてダイアログが表示されます。

再起動を伴う場合はシステム再起動の画面が表示されます。[再起動]をクリックしてシステムの再起動を行います。

図 4-3-3



- 4) WinKeeper の設定情報が反映され、保護実行を選択した場合は PC が保護されるようになります。

■ WinKeeper アイコンから保護状態の変更

WinKeeper アイコンを右クリックし、表示されるメニューから[保護実行] / [保護停止] / [終了] / [保護再実行]を選択します。

("P.50 WinKeeper アイコンメニュー" 参照)

4-4.その他の機能

設定情報の保存とコピー

ネットワーク内に複数の WinKeeper Client / WinKeeper TB Client がインストールされている場合、1 台の PC で WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定を行います。

設定後その設定情報をファイルに書き出し、他の WinKeeper Client / WinKeeper TB Client がインストールされた PC にコピーして保護環境を統一します。この手順は、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server や WinKeeper Pro が無い場合のコピー方法です。WinKeeper Server / WinKeeper TB Server がある場合、この方法をスキップして頂いても結構ですが、環境の変更が頻繁で保護設定を何度も変更したりネットワーク内のグループ単位でそれぞれ異なる保護設定を施したりする場合は、この方法でファイルを書き出して設定情報の管理をすることをお勧めします。

環境保存

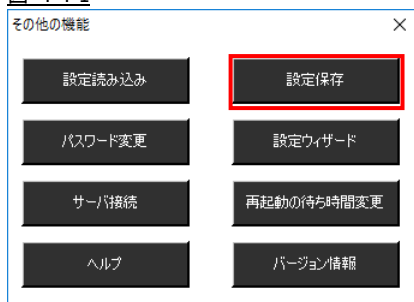
■ 保護情報の保存

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定を確定後、現在の設定情報を保存します。

設定情報の保存によって保護のステータス(保護状態、問題解決情報など)を含んだ設定情報ファイルを保存することができます。

- 1) [その他の機能]から、[設定保存]をクリックします。

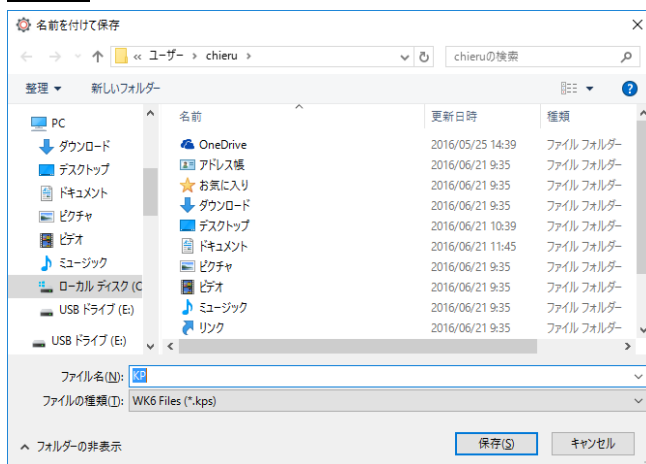
図 4-4-1



- 2) [名前を付けて保存]画面が表示されます。

保存先のフォルダを選択後、ファイル名を入力して[保存]をクリックします。

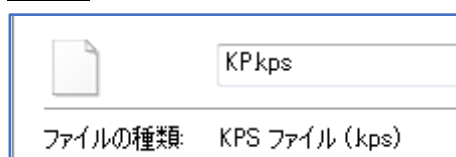
図 4-4-2



- ファイルの個別 / 世代別管理を行う場合は、ファイル名に[グループ名]や[作成日時]をつけて保存することをお勧めします。

- 3) 設定保存ファイル(.kps)が作成されたことを確認します。

図 4-4-3



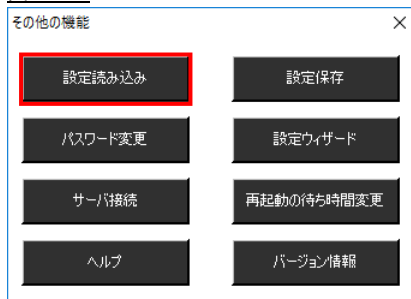
環境読込

■ 保護情報のコピー

保存した設定情報ファイルを使って設定情報を他の WinKeeper Client / WinKeeper TB Client にコピーすることができます。
設定情報のコピーによって、保護のステータス(保護状態、問題解決情報など)を含むすべての設定情報を継承することができます。

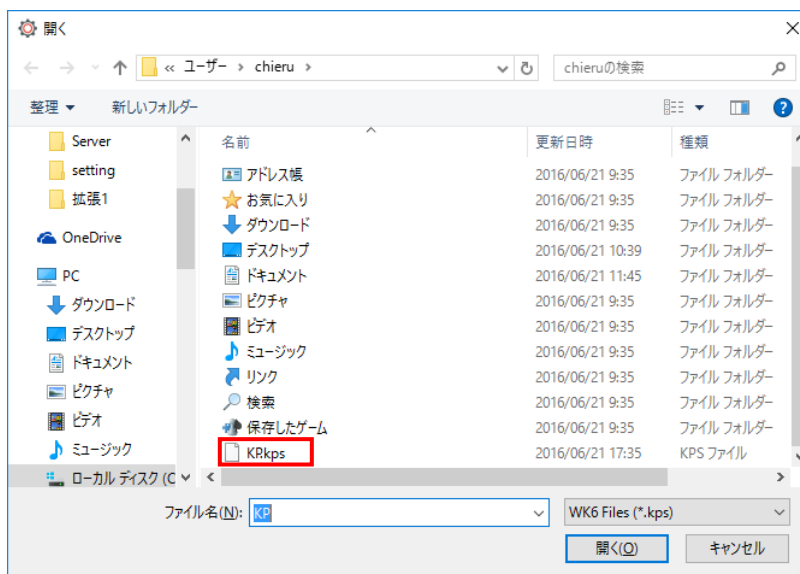
- 1) コピーしたい WinKeeper Client コンソールの[その他の機能]から、[保護開始]を選択、[環境設定読込]をクリックします。

図 4-4-4



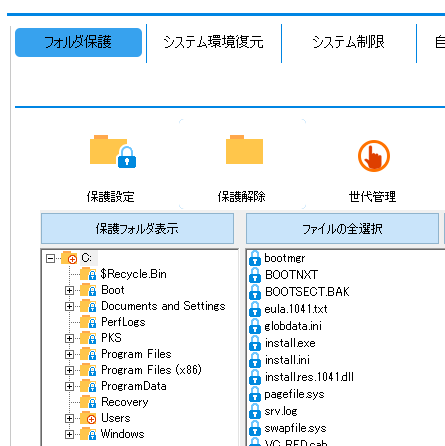
- 2) [開く]画面で、コピー元の設定保存ファイル(.KPS)を選択して[開く]をクリックします。

図 4-4-5



- 3) コンソールから設定情報がコピーされたことを確認します。

図 4-4-6



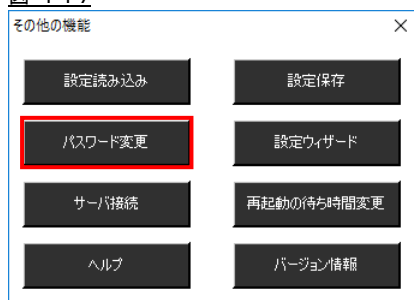
パスワード変更

■ パスワード変更

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の各種動作を行う際に求められるパスワードを変更できます。

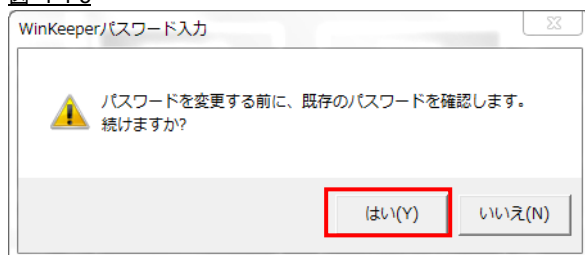
- 1) WinKeeper Client コンソールの[その他の機能]から、[パスワード変更]をクリックします。

図 4-4-7



- 2) [はい]をクリックします。

図 4-4-8



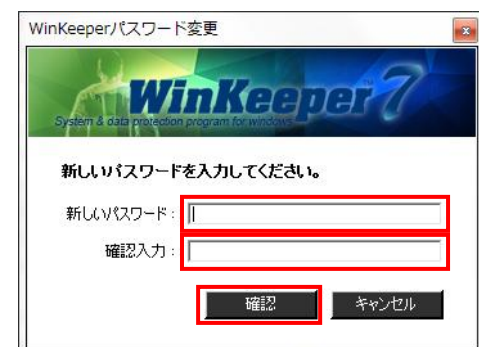
- 3) 現在のパスワードを入力し、[確認]をクリックします。

図 4-4-9



- 4) 新しいパスワードを入力し、[確認]をクリックします。

図 4-4-10



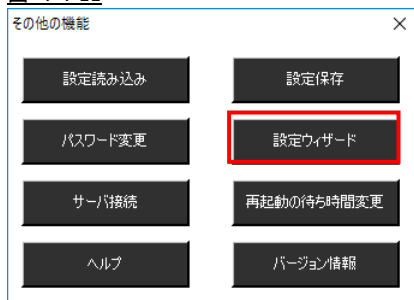
設定ウィザード

■ 設定ウィザードの実行

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の基本的な設定をウィザードより実行します。

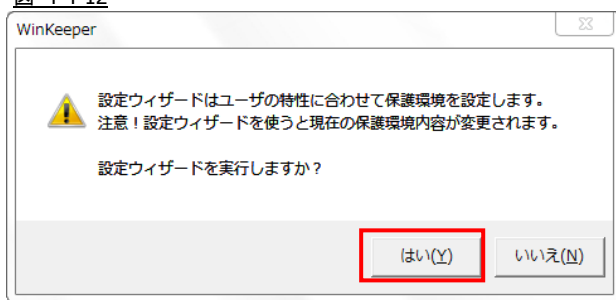
- 1) WinKeeper Client コンソールの[その他の機能]から、[設定ウィザード]をクリックします。

図 4-4-11



- 2) [はい]をクリックします。

図 4-4-12



- 3) 設定ウィザードの案内に従い、設定を行います。("P.29 設定ウィザード" 参照)

サーバ接続

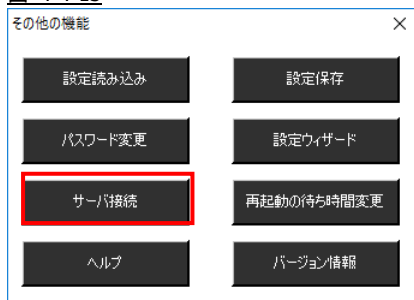
■ サーバ接続の設定

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client が接続する WinKeeper Server / WinKeeper TB Server を設定します。

- WinKeeper TB Client から WinKeeper Server には接続できません。
- WinKeeper Client / WinKeeper TB Client と同一 PC 内の WinKeeper Server / WinKeeper TB Server には接続できません。

- 1) WinKeeper Client コンソールの[その他の機能]から、[サーバ接続]をクリックします。

図 4-4-13



- 2) "P.51 サーバ接続の設定" を実施します。

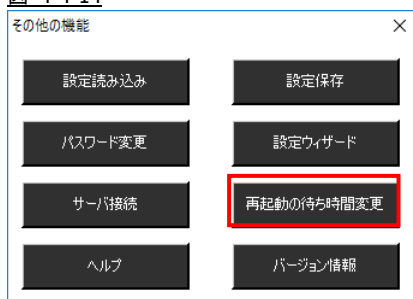
再起動の待ち時間変更

■ 再起動の待ち時間変更

設定の反映などで WinKeeper より再起動を求められた際に、再起動が実施されるまでの待機時間を設定します。

- 1) WinKeeper Client コンソールの[その他の機能]から、[再起動の待ち時間変更]をクリックします。

図 4-4-14



- 2) 待機時間(1~9999 秒)を入力し、[確認]をクリックします。

図 4-4-15



ヘルプ

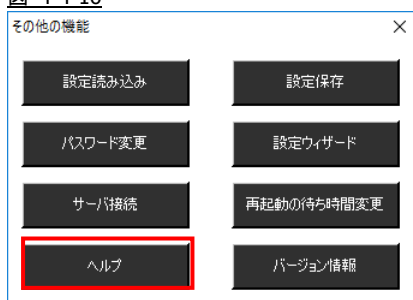
■ ヘルプの表示

本製品のマニュアルを表示します。

- マニュアルの表示には、Adobe Reader が必要です。

- 1) WinKeeper Client コンソールの[その他の機能]から、[ヘルプ]をクリックします。

図 4-4-16



- 2) Adobe Reader が起動し、マニュアルが表示されます。

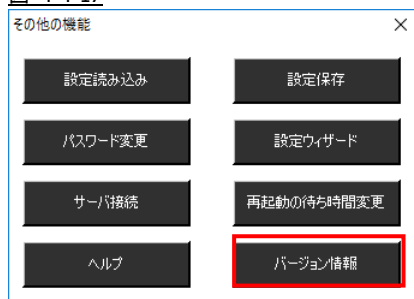
バージョン情報

■ バージョン情報の表示

本製品のバージョンやライセンス情報を表示します。

- 1) WinKeeper Client コンソールの[その他の機能]から、[バージョン情報]をクリックします。

図 4-4-17



- 3) 表示された画面より、バージョンやライセンス情報を確認します。

図 4-4-18





5.WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の 設定

ここでは WinKeeper Server / WinKeeper TB Server を使った管理について説明します。

5-1. WinKeeper Server / WinKeeper TB Serverの設定

運用上の注意点

- WinKeeper Server / WinKeeper TB Server はネットワーク内の WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定・管理を支援する統合管理ツールです。
- WinKeeper Server / WinKeeper TB Server から WinKeeper Client / WinKeeper TB Client を管理するには、ネットワーク内で名前解決ができる環境である必要があります。
名前解決ができない環境では WinKeeper Client / WinKeeper TB Client との通信や管理が行えません。
- 自動ログオン機能を使用するにあたって、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server が常時起動できない環境の場合は、クライアントの自動ログオン機能をご利用ください。
- WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の保護が[終了状態]の場合、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server からは電源投入 (PowerON)以外の管理ができなくなります。
WinKeeper Client / WinKeeper TB Client を終了してサービスを停止しなくてはならない事態を除き保護は[停止状態]で作業してください。
- リモートコントロール機能で複数の PC に同時に接続される場合、多大なリソース消費が発生して Windows がフリーズするなどの現象が起こる可能性があります。リソースを確認し、適した台数でご使用ください。

コンソールの起動と終了

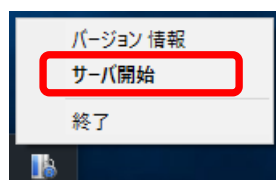
■ 起動

- 以下のいずれかの方法で、コンソールを起動します。

I. WinKeeper Server / WinKeeper TB Server アイコンから起動する方法

タスクトレイ上の WinKeeper Server / WinKeeper TB Server アイコンをクリックまたは WinKeeper Server / WinKeeper TB Server アイコンを右クリックして表示されるメニューから[サーバ開始]を選択します。

図 5-1-1



II. コントロールパネルから起動する方法

コントロールパネルを開き[WinKeeper Server]アイコンをクリックします。

図 5-1-2



III. スタートメニューから起動する方法

[スタート] → [プログラム](すべてのプログラム) → [WinKeeper] → [WinKeeper Server]を選択します。

図 5-1-3



- WinKeeper Server が終了している状態で、タスクトレイに WinKeeper Server アイコンが表示されない。その場合は、[コントロールパネルから起動する方法]または[スタートメニューから起動する方法]でコンソールを起動してください。

- 2) パスワード入力画面が表示されます。
パスワードを入力して[確認]をクリックします。
図 5-1-4



パスワードを入力してください。

パスワード:

- パスワードは WinKeeper Server / WinKeeper TB Server をインストール時に設定したパスワードです。
("P.36 WinKeeper のパスワード設定画面が表示されます。" 参照)

- 3) コンソール画面が起動します。
図 5-1-5

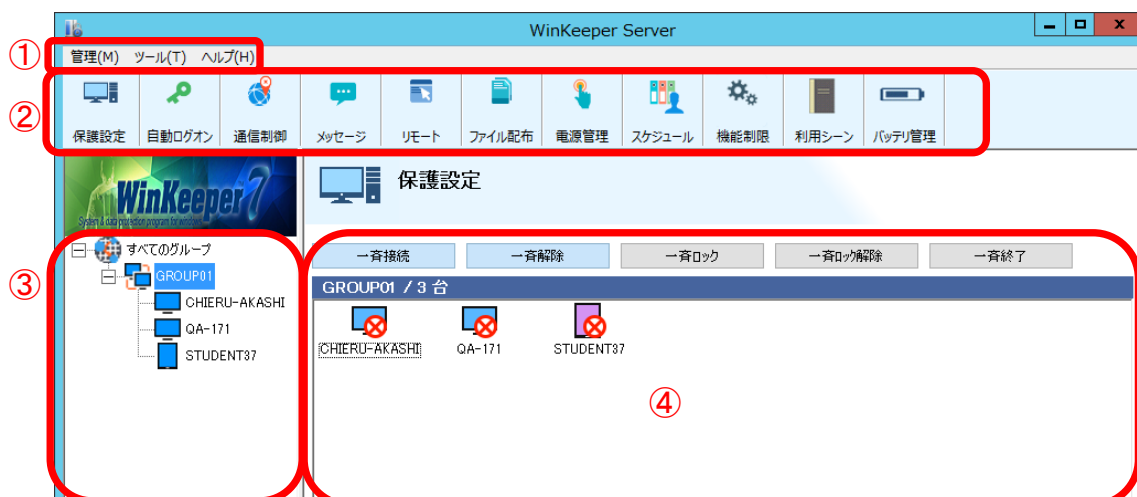


■ 終了

コンソールの終了は、画面右上の[×]をクリックまたはメニューバーの[管理] → [終了]を選択して終了します。

画面説明

図 5-1-6



■ ① メニューバー

コンソールの終了やパスワード、バージョン情報といった基本設定の変更 / 確認ボタンが入っています。

表 5-1-1

メニュー	説明	
管理	終了	WinKeeper Server / WinKeeper TB Server を終了します。
ツール	サーバパスワード変更	WinKeeper Server / WinKeeper TB Server のログインパスワード変更
	ライセンスキー変更	WinKeeper Server / WinKeeper TB Server のライセンスキー変更
	アップデート	接続している WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のバージョン確認や Client のバージョンアップを行います。
ヘルプ	ヘルプ	マニュアルを表示します。
	バージョン情報	バージョン情報の確認

■ ② 機能設定ボタン

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の保護状態やログオンを含む電源管理、そしてリモートでのメッセージ送信やコマンド配信といった統合管理やメンテナンスの機能ボタンが配置されています。

WinKeeper Server のコンソール上から各ボタンをクリックすることで設定する機能を選択できます。

ボタンをクリックすると、各機能の設定画面(クラスエリアやダイアログ、ウィザードなど)を呼出します。

表 5-1-2

機能	項目	説明
基本機能	保護設定	接続している PC の保護と制限に関する機能をコンソール上から実行できます。 ("P.110 PC の保護設定" 参照)
	自動ログオン	接続している PC のネットワーク内で使用するユーザアカウント情報を登録し、全員を共通アカウントでログオンさせたり個別アカウントを設定して自動ログオンさせたりすることができます。("P.117 自動ログオンの設定" 参照)
	通信制御	PC の通信制御機能の設定状況を確認し、状況に応じて通信の許可と禁止を変更することができます。("P.121 通信制御の設定" 参照)
	リモート	コンソールから PC をリモート操作する機能です。("P.123 PC のリモートコントロール" 参照) ※リモートコントロールは WinKeeper Server / WinKeeper TB Server をインストールした PC と WinKeeper Client / WinKeeper TB Client をインストールした PC の双方にリモートコントロールモジュールがインストールされている必要があります。
	電源管理	スケジュールを設定してクライアント側の PC の電源を Power on / シャットダウン / 再起動することができます。("P.129 PC の電源管理" 参照)
	機能制限	クライアント PC で使用する OS 機能を制限することができます。 ("P.138 機能制限" 参照)
	利用シーン	利用環境に応じた設定パターンを作成し、個別又は複数の端末に対して設定パターンを適用する機能です。("P.140 利用シーンの設定" 参照)
	バッテリー管理	バッテリー残量の把握とバッテリー残量に応じたメッセージの表示を行います。 ("P.149 バッテリー管理の設定" 参照)
拡張機能 1	メッセージ	選択した PC に対してメッセージを送信したり、リモートからコマンドを実行したりする機能です。("P.122 管理者メッセージとコマンド実行の送信" 参照)
	ファイル配布	コンソールから PC の任意のフォルダにファイルを配布することができます。また、配布したファイルを実行することもできます。("P.125 ファイル配布の設定" 参照)
拡張機能 2	危険リスト	このリストは ini ファイルで実行を制限したい実行ファイル名を記述し、クライアントに送付することによって、クライアントはこのリストにある実行ファイルを起動できなくなります。("P.130 危険リスト配信" 参照)

	スケジュール	保護設定の内容を指定した時間により変更することができます。 ("P.132 保護設定スケジュールの設定" 参照)
--	--------	---

■ ③ グループリスト

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している PC が表示されます。("P. 108WinKeeper グループリスト(グルーピング)"参照)

機能ボタン選択時にグループリスト上からグループを選択すると、マネージメントエリアに所属 PC が表示され、機能設定の対象となります。またグルーピングは自由に設定できますのでグループ単位 / PC 単位で柔軟な管理ができます。

■ ④ マネージメントエリア

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server に接続している PC に対する機能設定を行うスペースです。

機能ボタンを選択することにより、マネージメントエリアの表示が切替わります。(ダイアログで表示されるものもあります)

5-2. WinKeeper Server / WinKeeper TB Serverの機能設定

WinKeeper グループリスト(グルーピング)

WinKeeper Server / WinKeeper TB Server の WinKeeper グループリストから実際のネットワーク環境や WinKeeper の管理に適したグループを設定し、PC 群をグルーピングすることができます。グルーピング完了後、各機能の設定を行います。

■ グループの作成

- 1) WinKeeper グループリストから[すべてのグループ]を右クリックし、[グループ作成]をクリックします。

図 5-2-1



- 2) [新規グループの追加]画面が表示されます。

グループ名を入力し、[確認]をクリックしてグループを追加します。

図 5-2-2

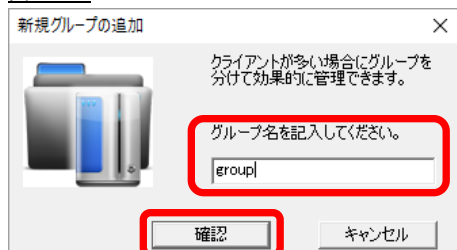


表 5-2-1

グループ名入力文字制限
全角 / 半角 26 文字

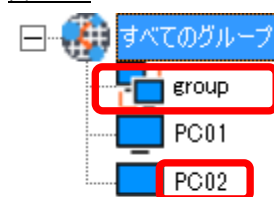
- "1),2)" を繰り返し、管理に必要な数のグループを作成してください。

- 3) WinKeeper グループリストに作成したグループが表示されます。

以下のいずれかの方法で PC をグループに登録します。

- I. グループリストからクライアントアイコンを選択し、作成したグループ上にドラッグアンドドロップする方法

図 5-2-3



II. 新規作成したグループアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[クライアントの追加]をクリックする方法

クライアントを追加する画面が表示されます。

左側のリストからクライアントを選択して、[>>]をクリックして登録します。

図 5-2-4

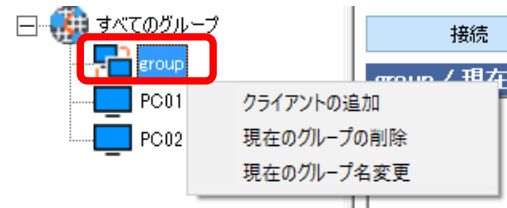
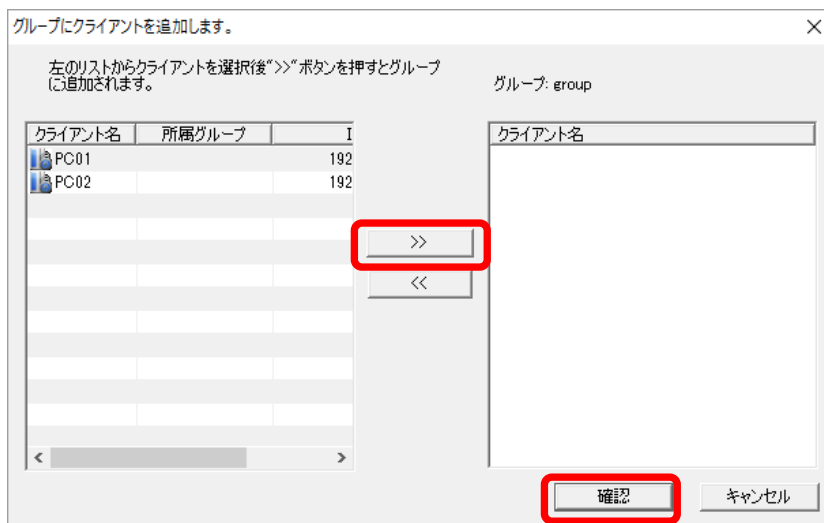


図 5-2-5



"3)" の手順を繰り返し、PC を各グループに振り分けます。

■ グループリストの削除

作成したグループを選択し、右クリックで表示されるメニューから[現在のグループの削除]を選択すると削除の確認画面が表示されます。[はい]をクリックしてグループを削除します。

図 5-2-6

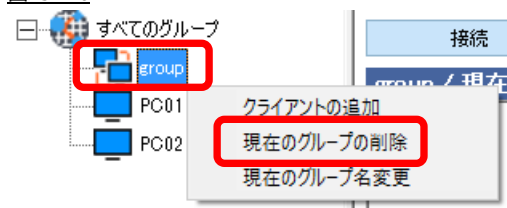
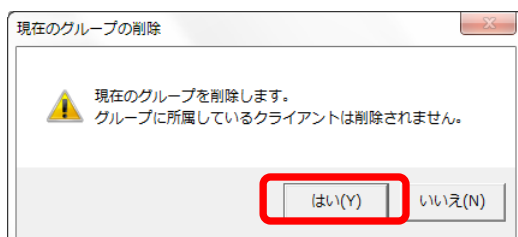


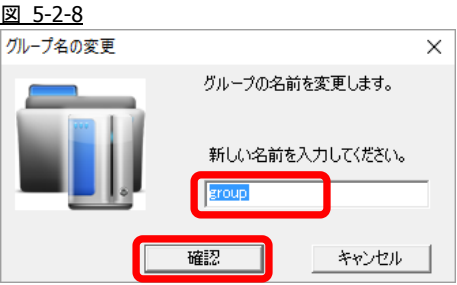
図 5-2-7



- 削除対象のグループに所属している PC は、[すべてのグループ]に移動します。

■ グループ名の編集

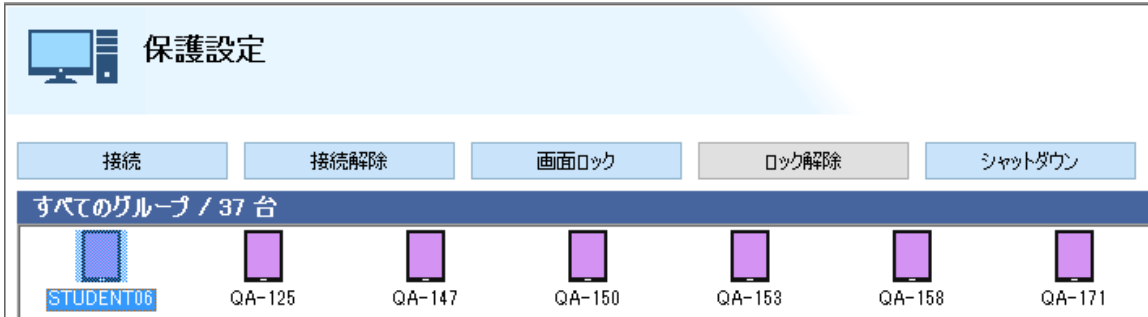
作成したグループを選択し、右クリックで表示されるメニューから[現在のグループ名変更]を選択するとグループ名の変更画面が表示されます。グループ名を変更して[確認]をクリックします。



PC の保護設定

保護設定では接続している PC の保護と制限に関する機能をコンソール上から実行できます。

図 5-2-9



■ 単一操作

表 5-2-2

項 目	説 明
接続	WinKeeper Client / WinKeeper TB Client がインストールされている PC でサーバ接続の設定を行っている場合、マネージメントエリアに PC が表示され、接続することができます。
接続解除	PC との接続を解除します。
画面ロック	PC の画面をロックして操作できない状態にします。
ロック解除	PC の画面ロック状態を解除します。
シャットダウン	PC をシャットダウンします。

■ PC 選択時の右クリックでできる操作

表 5-2-3

アイコンの状態	PC 選択時の右クリックメニューと説明
接続  	環境設定 : 選択した PC のコンソールを呼び出します。 ("P.112 WinKeeper Client のコンソール起動" 参照) 保護実行 / 保護停止 / 保護再実行 : 選択した PC の保護状態を変更します。 パスワード変更 : 選択した PC のパスワードを変更します。 接続解除 : 選択した PC との通信を遮断します。 保護設定内容コピー : 選択した PC の保護ステータスをコピーします。 ("P.113 保護設定のコピーと適用" 参照) コピーした保護内容の適用 : 選択した PC の保護情報をコピーした設定情報に書き換えます。 ("P.113 保護設定のコピーと適用" 参照) 保護設定内容をファイルへ保存 : .dzp 形式のファイルで設定情報を保存します。 保護されている保護設定内容の適用 : .dzp 形式のファイルより設定情報を読み込みます。 画面ロック / 画面ロック解除 : 選択した PC の画面をロックして操作できない状態にし、ロック中の場合はロック状態を解除します。(※1)
ロック  	再起動 : 選択した PC を再起動します。 ログオフ : 選択した PC をログオフします。 シャットダウン : 選択した PC をシャットダウンします。 リモートコントロール : 選択した PC をリモート操作します。(※2) ("P.123 PC のリモートコントロール" 参照) スタート画面表示 : 選択した PC のスタート画面を表示します。(※3)
接続解除  	接続 : 選択した PC を WinKeeper Server / WinKeeper TB Server へ接続させます。 リストから削除 : 選択した PC の登録を解除してリストから削除します。 PowerON : 選択した PC の電源を投入します。(※4)(※5)
ログオフ  	再起動 : 選択した PC を再起動します。 シャットダウン : 選択した PC をシャットダウンします。 クライアントログオン : 選択した PC にログオン情報を送信してリモートログオンします。

- ※1 PC 側でロックの解除を行う場合は[Esc]キーを押下します。パスワードの入力画面が表示されますので、WinKeeper Client / WinKeeper TB Client のパスワードを入力し、[確認]をクリックします。
パスワードを 3 回間違えた場合、再度パスワード入力ができるのは、60 秒後になります。
- ※2 WinKeeper Server / WinKeeper TB Server と WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の双方にリモート接続モジュールが必要です。
- ※3 Windows 7 では使用できません。
- ※4 PowerON は PC のネットワークカードが WakeOnLAN に対応している必要があります。
- ※5 Windows 8.1 / 10 で PowerON を使用する場合、OS の「高速スタートアップを有効にする（推奨）」を無効にしてください。

■ 一斉操作

図 5-2-10

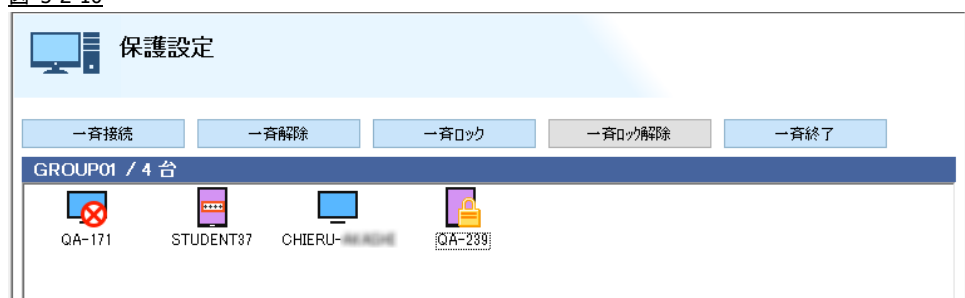







表 5-2-4

項 目	説 明
一斉接続	表示されている全 PC との通信接続を開始します。
一斉解除	表示されている全 PC との通信接続を解除します。
一斉ロック	表示されている全 PC の画面をロックして操作できない状態にします。
一斉ロック解除	表示されている全 PC の画面ロック状態を解除します。
一斉終了	表示されている全 PC をシャットダウンします。

■ マネージメントエリアで、右クリックした場合に表示されるメニュー

表 5-2-5

アイコンの状態	PC 未選択時の右クリックメニューと説明
接続 	一斉保護実行 / 一斉保護停止 / 一斉保護再実行 : 全 PC の保護状態を変更します。
保護 	全パスワード変更 : 全 PC のパスワードを変更します。 一斉接続 / 一斉接続解除 : 全 PC との通信を開始 / 遮断します。 コピーした保護内容の一斉適用 : 全 PC の設定をコピーした設定情報で書き換えます。
ロック 	一斉画面ロック / 一斉画面ロック解除 : 全 PC の画面をロックして操作できない状態にし、ロック中の場合は PC のロック状態を解除します。
接続解除 	一斉再起動 : 全 PC を再起動します。 一斉ログオフ / 一斉パソコンログオン : 全 PC をログオフします。ログオフ状態の場合は全 PC にログオン情報を送信してリモートログオンします。
ログオフ 	一斉シャットダウン : 全 PC をシャットダウンします。 一斉 PowerON : 全 PC の電源を投入します。
	スタート画面表示 : 全 PC のスタート画面を表示します。
	表示 : エリア内の表示をリスト表示とアイコン表示に切り替えます。
	アイコン整列 : [クライアント名]、[OS]、[IP アドレス]、[最終更新]で表示順序をソートします。

- Windows 8.1 / 10 で一斉 PowerON を使用する場合、OS の「高速スタートアップを有効にする（推奨）」を無効にしてください。
- Windows 8.1 / 10 で画面ロック実行中に再起動した場合、画面ロックは解除されます。
- [スタート画面表示]は、Windows 8.1 / 10 のみ表示されます。

WinKeeper Client のコンソール起動

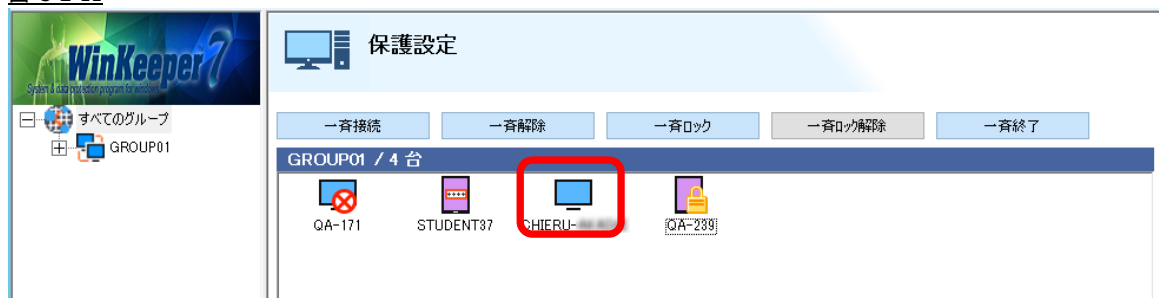
WinKeeper Server のコンソール上から、WinKeeper Client のコンソール画面をリモートで呼出して、設定することができます。

■ リモートコンソールの起動

- 1) WinKeeper Server コンソールを起動します。("P.104 コンソールの起動と終了" 参照)
- 2) [保護設定]をクリックし、マネージメントエリアにクライアントアイコンが表示されているか確認します。
以下のいずれかの方法でリモートコンソールを起動します。

I. 接続しているクライアントアイコンをダブルクリックする方法

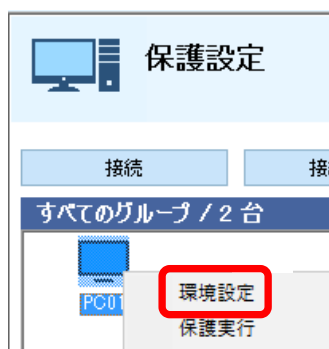
図 5-2-11



- クライアントアイコンが表示されていない場合、WinKeeper Client / WinKeeper TB Client で設定した[サーバ接続]の IP アドレスが間違っている可能性があります。再度 IP アドレスを確認して WinKeeper Client / WinKeeper TB Client で[サーバ接続]を実行してください。

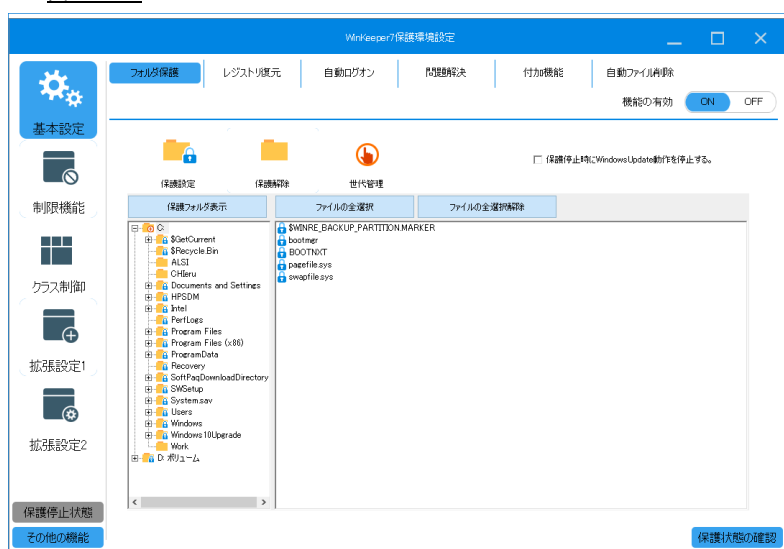
II. 接続しているクライアントアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[環境設定]を選択する方法

図 5-2-12



- 3) リモートコンソールが起動します。

図 5-2-13



保護設定のコピーと適用

- この手順は、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server から設定をコピーする手順です。

ネットワーク内に複数の PC がある場合、1 台の PC に WinKeeper Client / WinKeeper TB Client の設定をし、その設定情報を他の PC へコピーして保護環境を統一します。

設定情報の保存によって保護のステータス(保護状態、問題解決情報など)を含んだ設定情報ファイルを保存することができます。

■ 保護設定内容のコピーと適用

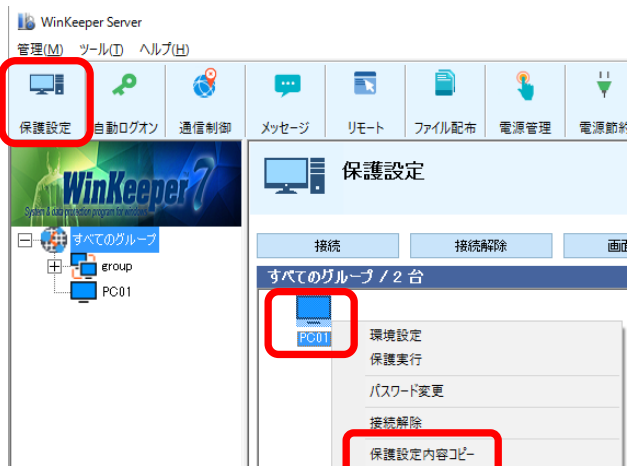
- WinKeeper Client / WinKeeper TB Client で PC の保護設定が確定した後にいきます。複数の設定情報が保存できます。

- 1) WinKeeper Client / WinKeeper TB Client で PC の保護設定終了後、WinKeeper Server コンソールを起動します。("P.104 コンソールの起動と終了" 参照)

- 2) [保護設定]をクリックします。

設定モデルとなる PC を選択し、右クリックで表示されるメニューから[保護設定内容コピー]を選択します。

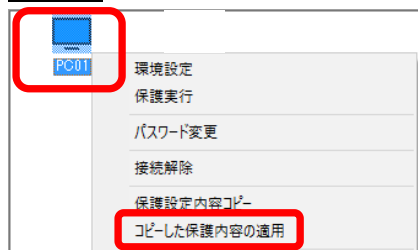
図 5-2-14



- 3) コピーした保護設定の内容を他の PC に適用させます。

設定を反映させる PC 群を選択し、右クリックで表示されるメニューから[コピーした保護内容の適用]をクリックします。

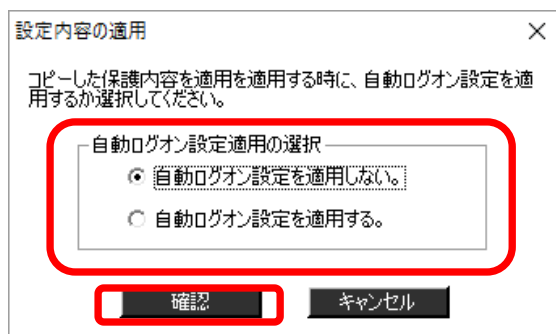
図 5-2-15



- 4) [設定内容の適用]画面が表示され、自動ログオン設定を適用するかを選択します。

適用しない場合は、[自動ログオン設定を適用しない]を選び、[確認]をクリックします。

図 5-2-16



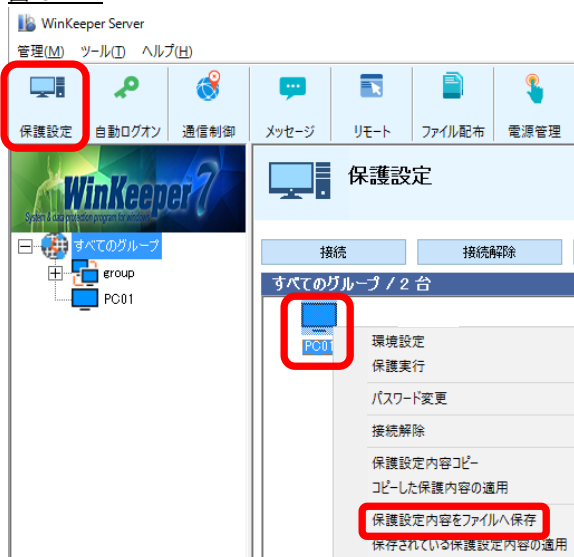
■ 保護設定内容の複数保存

- 1) WinKeeper Client / WinKeeper TB Client で PC の保護設定終了後、WinKeeper Server コンソールを起動します。("P.104 コンソールの起動と終了" 参照)

- 2) [保護設定]をクリックします。

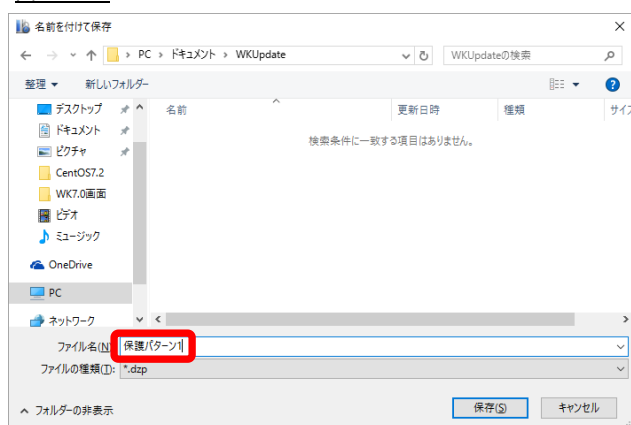
設定モデルとなる PC を選択し、右クリックで表示されるメニューから[保護設定内容をファイルへ保存]を選択します。

図 5-2-17



- 3) 保護設定内容に任意の名前をつけて[保存]をクリックします。

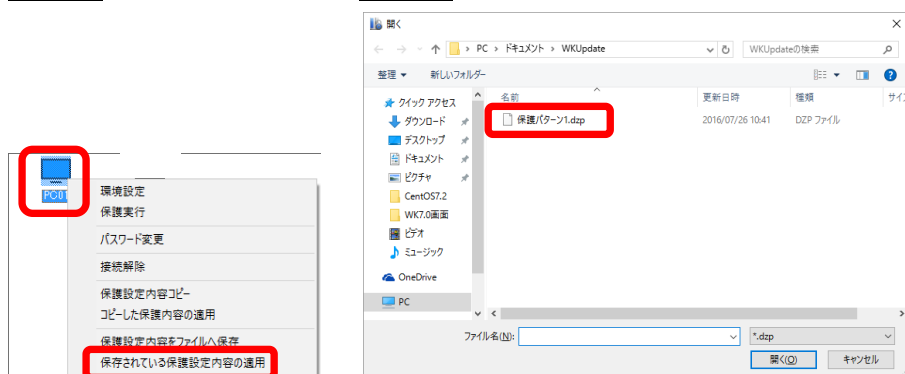
図 5-2-18



- 4) 保存した保護設定内容を他の PC に適用させます。

設定を反映させる PC 群を選択し、右クリックで表示されるメニューから[保存されている保護設定内容の適用]をクリックします。

図 5-2-19



- 5) 適用する保護設定内容を選択し、[開く]をクリックします。

ジョブ予約の設定

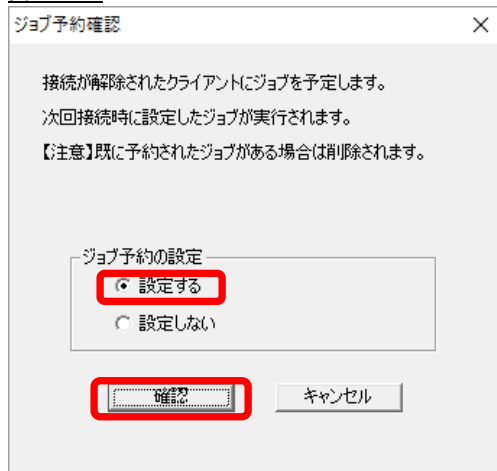
WinKeeper Server / WinKeeper TB Server から複数の PC を操作する際、機能実行時に未接続の PC に対してジョブを予約することができます。予約したジョブは未接続の PC が次回接続した際に実行されます。ここでは「P.113 保護設定のコピーと適用」で説明した保護設定内容の

コピーを例にして、ジョブ予約の設定方法を説明します。

■ 未接続の PC にジョブを予約する

- 1) 設定モデルとなる PC を右クリックし、[保護設定内容コピー]を選択します。（「P. 113 保護設定のコピーと適用」を参照）
- 2) WinKeeper Server コンソールで、未接続の PC 群を選択するか、ファンクションビュー上で右クリックし、[コピーした保護内容の適用]をクリックします。（「P.113 保護設定のコピーと適用」を参照）
- 3) ジョブ予約確認のダイアログが表示されます。未接続の Client に設定の適用を予約する場合はジョブ予約の設定欄で [設定する] が選択されていることを確認して、[確認]をクリックします。

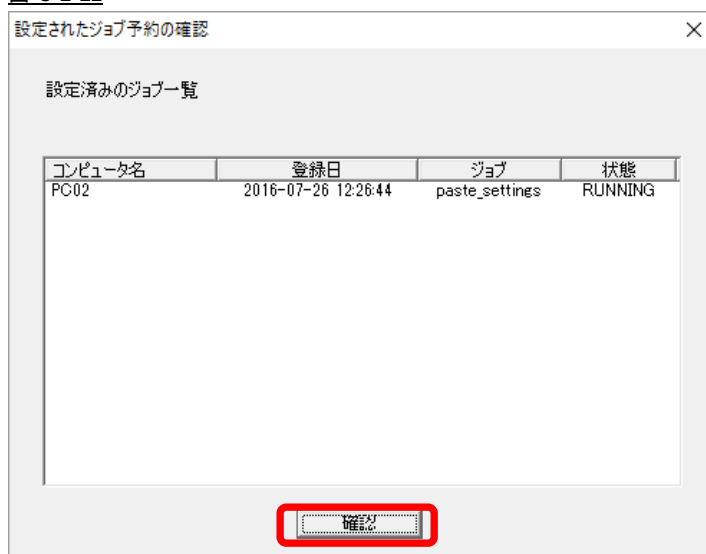
図 5-2-21



- 1 台の PC に対しては、1 つのジョブしか予約できません。すでにジョブが予約されている場合、新たなジョブを予約すると前回予約したジョブ予約は削除されます。
- すでに予約しているジョブを削除したくない場合は、ジョブ予約の設定欄で [設定しない] を選択してください。
- ジョブ予約の場合、自動ログオンの設定は適用できません。

- 4) 設定済みのジョブ予約の一覧が表示されますので、設定内容を確認して [確認] をクリックします。

図 5-2-22



- ここでは保護設定の適用（コピー）を例に説明しましたが、ほかにも「保護実行」「保護停止」「ロック画面変更」「アップ

デート」についても同様の手順でジョブを予約することができます。

自動ログオンの設定

自動ログオン機能では、ネットワーク内で使用するユーザアカウント情報を登録し、全員を共通アカウントでログオンさせたり個別アカウントを設定して自動ログオンすることができます。

■ アカウントの登録

1) WinKeeper グループリストから[すべてのグループ]を選択し、[自動ログオン設定]をクリックします。

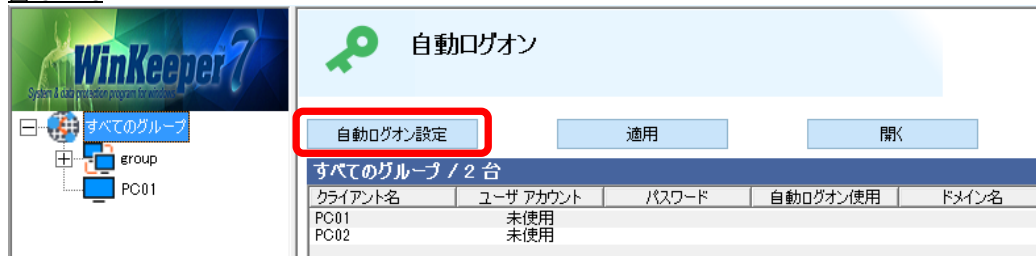
I. 全 PC に対してアカウント情報を登録する場合

PC を選択していない状態で[自動ログオン設定]をクリックします。

II. 個別にアカウント情報を登録する場合

PC を選択した状態で[自動ログオン設定]をクリックします。

図 5-2-23

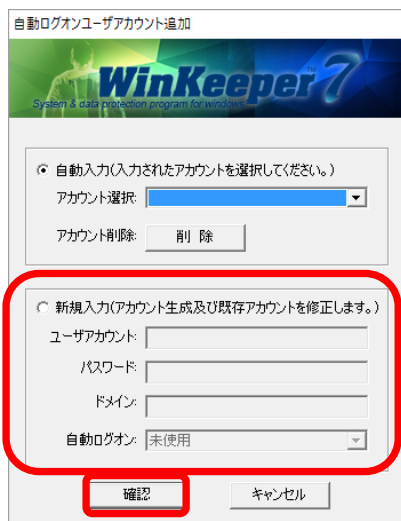


2) 自動ログオンユーザアカウント追加画面が表示されます。

[新規入力]を選択後、各項目を入力して[確認]をクリックします。

図 5-2-24

表 5-2-6



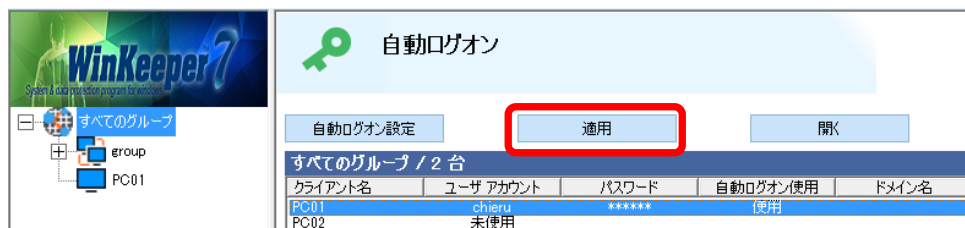
項 目	説 明
ユーザアカウント	ユーザアカウントを入力します。
パスワード	ユーザーのパスワードを入力します。
ドメイン	ドメインログオンをする場合は、ドメインを入力します。
自動ログオン	未使用 : PC に自動ログオンしない 使用 : PC に自動ログオンする

- 自動入力のアカウント選択プルダウンメニューで何も表示されない場合は新規入力でアカウントを追加し、アカウント情報の登録を行います。
- プルダウンメニュー内には共通アカウントと個別アカウントが同時に表示されます。個別アカウントを登録していない場合は、共通アカウントのみが表示されます。

3) [適用]をクリックします。

アカウント情報が登録されます。アカウントを複数登録する場合はこの手順を繰り返してください。

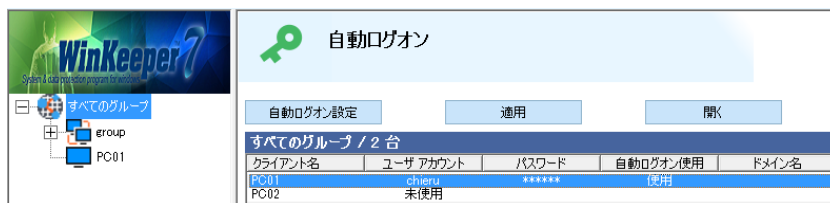
図 5-2-25



■ アカウントの選択

- 1) ログオンに使用するアカウント情報を選択します。

図 5-2-26

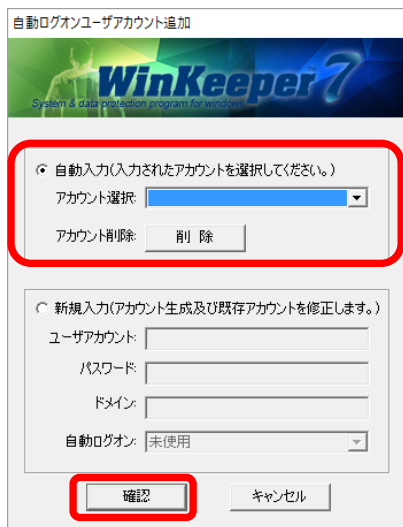


- 2) 自動ログオンユーザアカウント追加画面が表示されます。

[自動入力]を選択後、アカウントを選択して[確認]をクリックします。

図 5-2-27

表 5-2-7

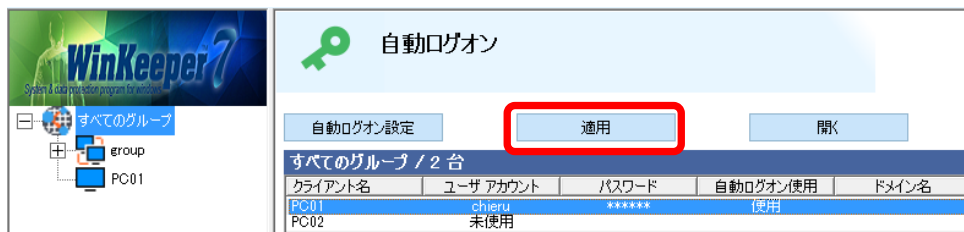


項 目	説 明
アカウント選択	新規入力で追加されたアカウント情報がプルダウンリストで表示されます。
アカウント削除	アカウント選択で選択されたアカウントを削除します。

- 3) [適用]をクリックします。

自動ログオンを使用にしている場合は、選択したログインアカウントで自動ログオンします。

図 5-2-28



- [適用]をクリックしないと設定は有効になりません。

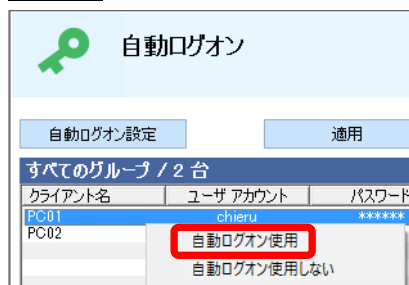
■ 自動ログオン使用

設定を行ったユーザアカウントとパスワードで自動ログオンを行う場合は、[自動ログオン使用]が "使用" に設定されている必要があります。

"未使用"になっている場合は"未使用"をクリックすると"使用"に変更されます。

その他に右クリックで表示されるメニューから"自動ログオン使用"を選択して変更することもできます。

図 5-2-29



■ 登録アカウントの削除

- 1) 削除するログインアカウントを選択してから[自動ログオン設定]をクリックします。

I. 全 PC 共通のログインアカウントを削除する場合

PC を選択しない状態で[自動ログオン設定]をクリックします。

II. 個別のログインアカウントを削除する場合

PC を選択した状態で[自動ログオン設定]をクリックします。

- 2) [自動入力]を選択して[アカウント選択]プルダウンメニューからアカウント情報を選択し、[削除]をクリックするとアカウント削除の確認画面が表示されます。[はい]をクリックします。

図 5-2-30

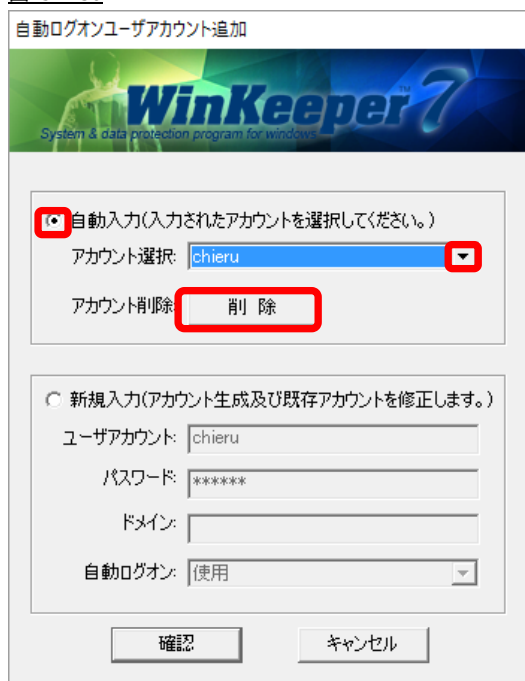
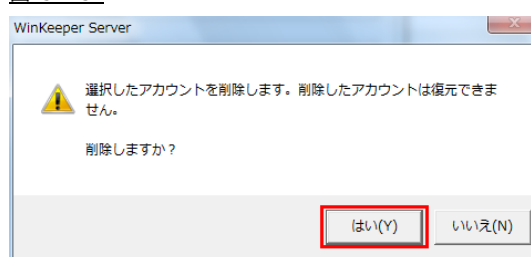


図 5-2-31



- プルダウンメニュー内には共通アカウントと個別アカウントが同時に表示されます。
- 一度削除したアカウント情報は、キャンセルをクリックしても復元されません。
- 特定の PC 上から[共通アカウント]を削除すると、共通アカウント設定が解除されて個別アカウント情報に変更されます。(一括では削除できなくなります)

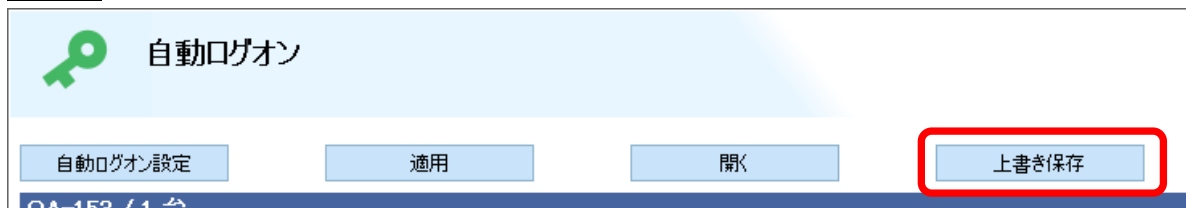
- 3) 自動ログオンユーザアカウント追加画面の[キャンセル]をクリックして、自動ログオンユーザアカウント追加のダイアログを閉じます。

■ 登録アカウントの保存

自動ログオンユーザアカウント追加で、追加したアカウントリスト情報を書き出して保存することができます。

- 1) 自動ログオンユーザアカウント追加後、[上書き保存]をクリックします。

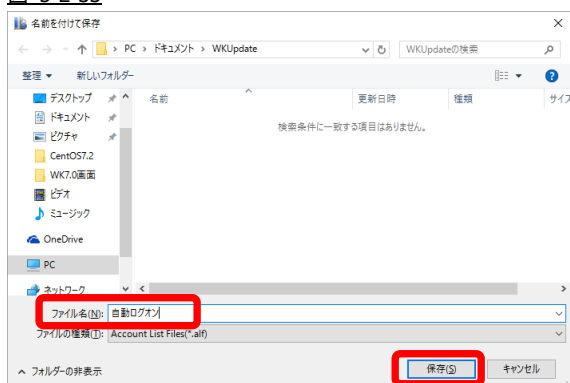
図 5-2-32



- 2) 名前を付けて保存画面が表示されます。

アカウントリストファイル(~.alf)にリスト情報を書き出して保存します。

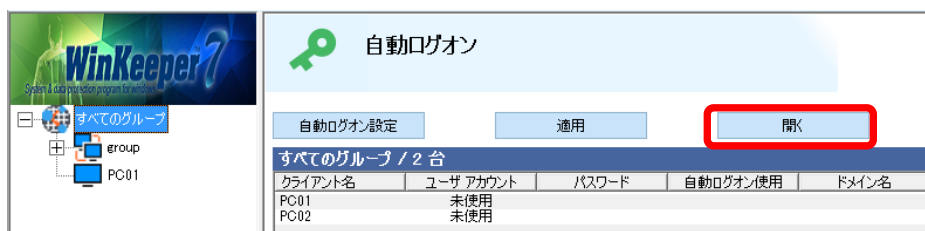
図 5-2-33



■ 登録アカウントを開く

- 1) 保存したアカウントリストを読み込む時は[開く]をクリックします。

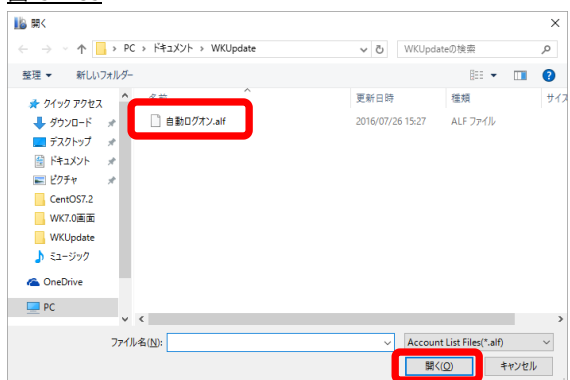
図 5-2-34



- 2) ファイルを開く画面が表示されます。

アカウントリストファイルを選択し、[開く]をクリックするとリスト情報が読み込まれます。

図 5-2-35



通信制御の設定

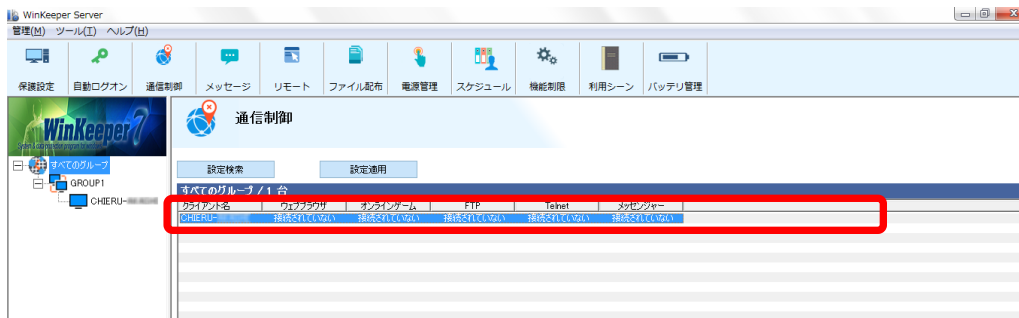
■ 通信制御状況の確認と変更

- 通信制御を使用するには、クライアントに通信制御用モジュールをインストールする必要があります。
(P.40 通信制御機能のインストール参照)
- WinKeeper TB Server では、利用できません。
- メッセンジャー許可 / 遮断では、Skype、Line、Kakaotalk のデスクトップアプリのみ制御可能です。

■ 通信制御状況の確認

[通信制御]をクリックすると、自動的にネットワーク内の PC と通信して通信制御状況を表示します。

図 5-2-36



- [設定検索]をクリックすると再度 PC と通信して再表示します。

■ 通信制御状況の変更

- 1) [設定検索]をクリックして PC の通信制御設定状況を確認します。
- 2) 以下のいずれかの方法でメニューを表示させ変更します。

I. 単一の PC を変更する場合

変更したい PC 上で右クリックして表示されるメニューから切り替えたい内容を選択します。

表 5-2-8

項 目	説 明
ウェブブラウザ許可 / 遮断	ブラウザでのアクセス制限機能を許可または禁止します。
オンラインゲーム許可 / 遮断	特定のオンラインゲームサイトへの接続制限機能を許可または禁止します。
FTP 許可 / 遮断	FTP 用ポート(20、21 etc.)の制限機能を許可または禁止します。
Telnet 許可 / 遮断	Telnet 用ポート(23)の制限機能を許可または禁止します。
メッセンジャー許可 / 遮断	特定のメッセンジャーソフトの接続制限機能を許可または禁止します。

- 直接リストをクリックして変更することもできます。

II. すべての PC を変更する場合

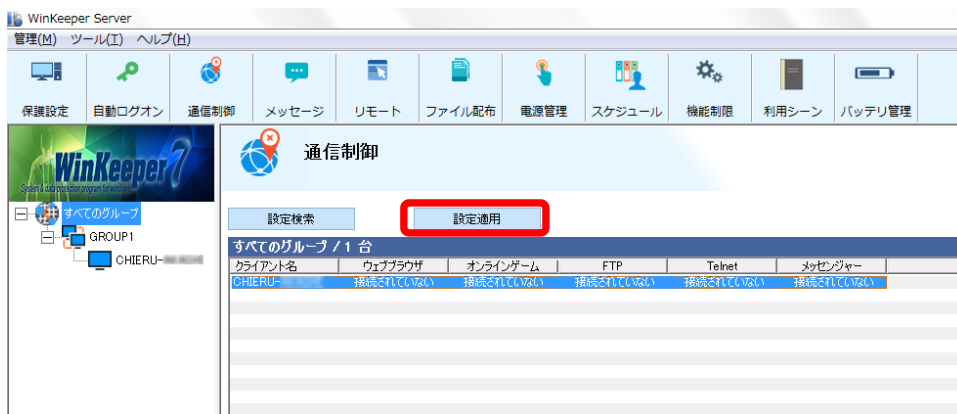
余白部分で右クリックして表示されるメニューから切り替えたい内容を選択します。

表 5-2-9

項 目	説 明
すべてのウェブブラウザ許可 / 遮断	ウェブ通信用ポート(80、8080 etc.)の制限機能を許可または禁止します。
すべてのオンラインゲーム許可 / 遮断	特定のオンラインゲームサイトへの接続制限機能を許可または禁止します。
すべての FTP 許可 / 遮断	FTP 用ポート(20、21 etc.)の制限機能を許可または禁止します。
すべての Telnet 許可 / 遮断	Telnet 用ポート(23)の制限機能を許可または禁止します。
すべてのメッセンジャー許可 / 遮断	特定のメッセンジャーソフトの接続制限機能を許可または禁止します。

- 3) [設定適用]をクリックして変更内容を確定します。

図 5-2-37

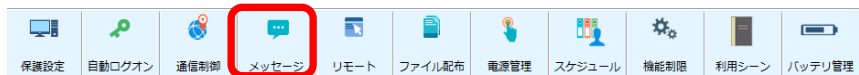


管理者メッセージとコマンド実行の送信

■ 管理者メッセージの送信

- 1) 画面上部の[メッセージ]をクリックします。

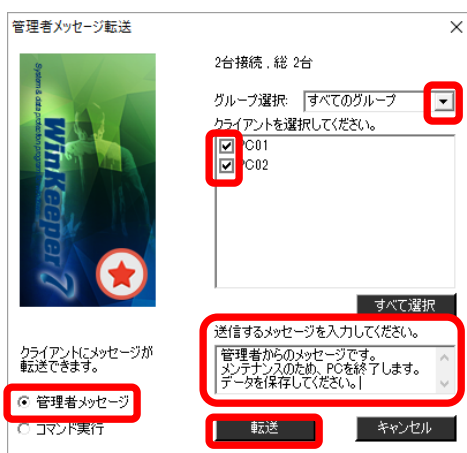
図 5-2-38



- 2) [管理者メッセージ転送]画面が表示されます。
グループ選択から対象グループを選択して PC を選択します。

[管理者メッセージ]を選択し、送信するメッセージを入力して[転送]をクリックします。

図 5-2-39



- 全員に送る時は[すべて選択]をクリックします。

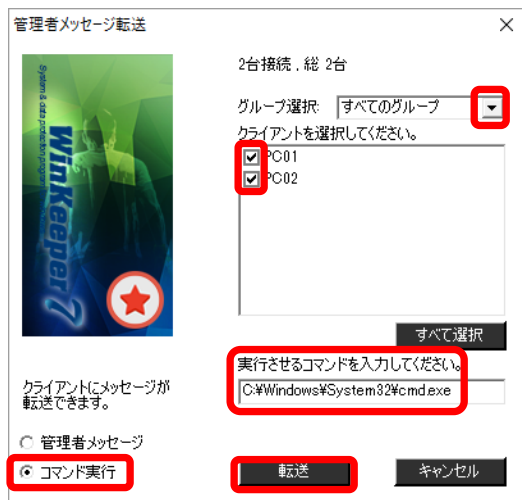
- 3) 選択された PC の画面上に入力したメッセージが表示されます。

■ コマンド実行の送信

- 1) 画面上部の[メッセージ]をクリックすると、[管理者メッセージ転送]画面が表示されます。
- 2) グループ選択から対象グループを選択して PC を選択します。

[コマンド実行]を選択し、PC 上で実行するコマンドを入力して[転送]をクリックします。

図 5-2-40



- 全員に送る時は[すべて選択]をクリックします。

- 3) 選択された PC 上で入力したコマンドが実行されます。

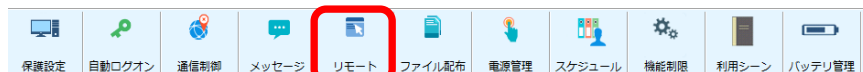
PC のリモートコントロール

■ リモート操作

- リモートコントロールは、WinKeeper Server / WinKeeper TB Server と WinKeeper Client / WinKeeper TB Client をインストールした PC の双方にリモートコントロールモジュールがインストールされている必要があります。インストール時にリモートコントロールモジュールをインストールしたことを確認してください。

- 1) [リモート]をクリックします。

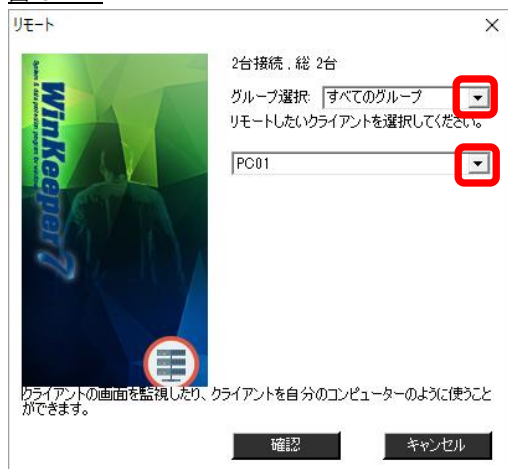
図 5-2-41



- 2) [リモート]画面が表示されます。

グループ選択で対象グループを選択し、コントロール対象のクライアントをチェックして[確認]をクリックします。

図 5-2-42



- 3) 選択した PC の画面が別のウィンドウで開きます。

■ リモート操作する場合

キーボードの F10 ボタンを押下すると、リモートコントロールオプション画面が表示されます。[リモートコントロールを使う] にチェックを入れて[確認]をクリックするとリモート操作ができます。

図 5-2-43

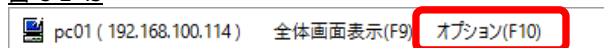
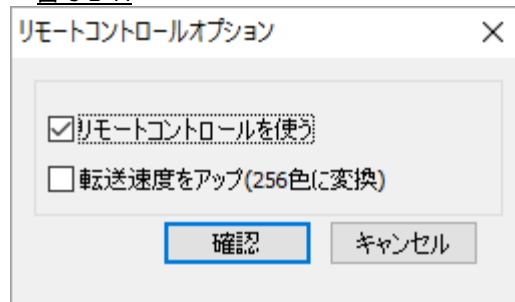
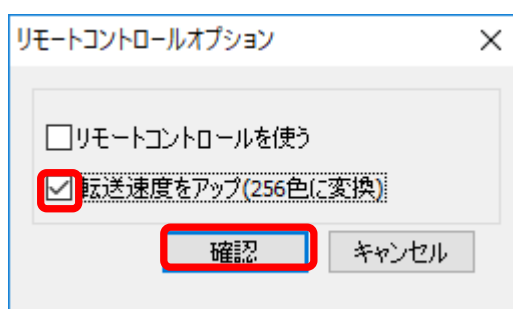


図 5-2-44



- 転送速度を早くしたい場合、リモートコントロールオプション画面の[転送速度をアップ]にチェックを入れます。

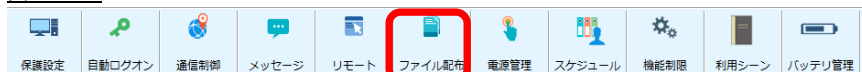
図 5-2-45



ファイル配布の設定

- 1) [ファイル配布]をクリックします。

図 5-2-46



- 2) [ファイル配布ウィザード]が起動します。

グループの選択から対象グループを選択し、PC を選択して[次へ]をクリックします。

図 5-2-47



- 全員に送る時は[すべて選択]をクリックします。

- 3) ファイル選択から[ファイル追加]をクリックし、送付するファイルを選択して[次へ]をクリックします。

図 5-2-48



- ファイルは最大 10 個まで複数個選択が可能です。

- 4) ファイル配布後、PC 上で実行するファイルにチェックを入れて[次へ]をクリックします。

図 5-2-49



- 5) 配布ディレクトリを選択して、[次へ]をクリックします。

図 5-2-50



- 6) 送付ファイルを配信形式にする[ファイル変換]が行われます。

完了後、[スタート]をクリックします。

図 5-2-51



- 7) 配信状態が表示されます。

転送結果を確認して、[完了]をクリックします。

図 5-2-52

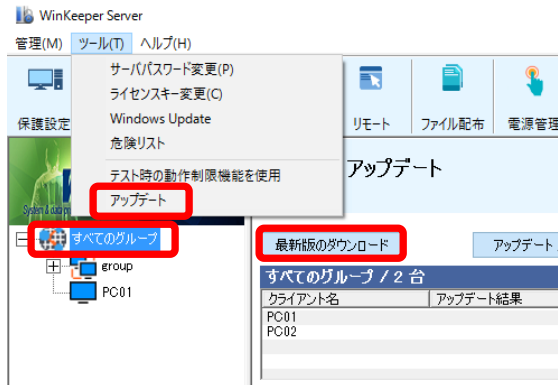


アップデートによるパッチファイルの配信

- 配信対象の PC が保護実行中の場合は、自動的に保護停止状態になり、アップデートを実行します。
- 機能を使う前にテクニカルサイトからアップデートファイルをダウンロードしておきます。

1) [アップデート]をクリックして[最新版のダウンロード]をクリックします。

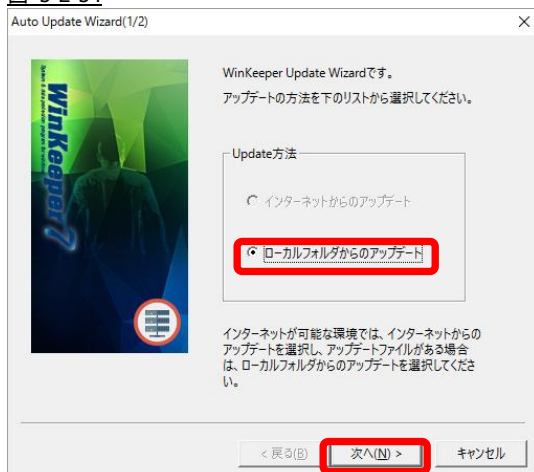
図 5-2-53



2) Auto Update Wizard 画面が表示されます。

[ローカルフォルダからのアップデート]を選択して[次へ]をクリックします。

図 5-2-54

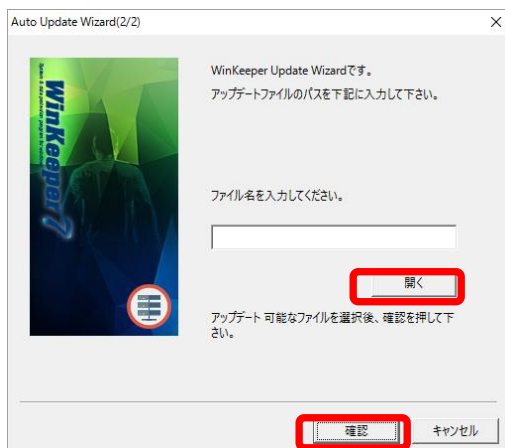


3) ローカルアップデートフォルダ選択画面が表示されます。

[開く]をクリックしてダウンロードしたアップデートファイルを選択します。

[確認]をクリックするとアップデートファイルが WinKeeper Server / WinKeeper TB Server 上に取り込まれます。

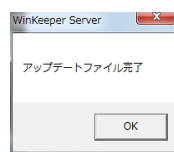
図 5-2-55



- 4) マネージメントエリアにアップデート完了画面が表示されます。

[OK]をクリックして画面を閉じるとコンソール上からアップデート準備状況が確認できます。

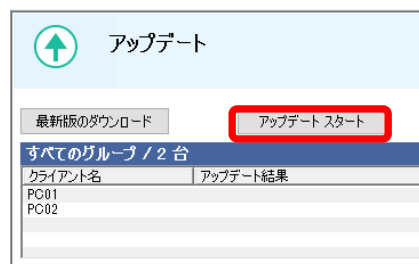
図 5-2-56



- 5) [アップデートスタート]をクリックします。

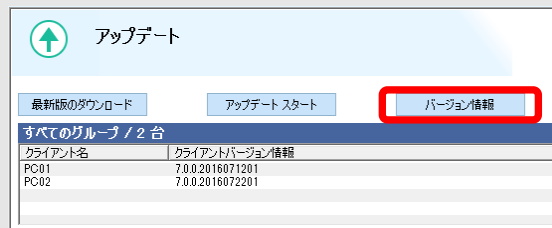
自動的に取り込まれたアップデートファイルがグループ内の PC に配信されます。

図 5-2-57



- アップデートファイルが配信された PC ではパッチ適用後、自動的に再起動しますので PC 再起動後に[バージョン情報]をクリックしてアップデート結果を確認します。

図 5-2-58



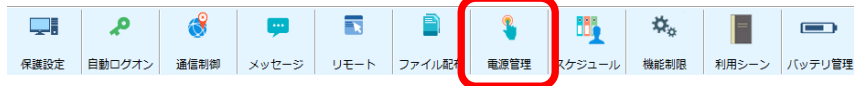
- アップデートの結果を[Excel]でファイルに書き出すこともできます。(コンピュータ名と WinKeeper Client バージョン)

PC の電源管理

■ 電源管理の設定

- 1) [電源管理]をクリックします。

図 5-2-59



- 2) [電源管理]画面が表示されます。

図 5-2-60



この画面には以下のボタンがあります。

表 5-2-10

項 目	説 明
追加	スケジュールを追加するための編集画面が表示されます。
編集	スケジュールを編集します。
削除	スケジュールを削除します。

[追加]をクリックすると[スケジュール編集]画面が表示されます。以下の項目を指定できます。

図 5-2-61



- グループ選択：電源管理スケジュールを使用したいグループを指定します。
- タイマー設定：[毎日]（毎日タスクを実行）、[指定された曜日]（指定された曜日にタスクを実行）、[指定された日]（指定された日にタスクを実行）、[使用しない]（このタスクを実行しない）を指定します。
- システム時間 / サーバシステム起動後：指定時間を入力します。

- 動作：実行する動作を指定します。[Power ON]、[コンピュータ再起動]、[コンピュータ終了]があります。

入力が完了したら[確認]をクリックしてください。設定を変更したい場合は[編集]をクリックしてください。設定を削除したい場合は[削除]をクリックしてください。

- 電源管理スケジュールを動作させるためにはスケジュールされている時間にサーバがログオンしている必要があります。
- 再起動 / 終了のスケジュールを動作させるためには WinKeeper Server / WinKeeper TB Server と WinKeeper Client / WinKeeper TB Client PC が接続状態である必要があります。

危険リスト配信

危険リストは、プログラムの実行を制限するためのリストです。このリストは ini ファイルで実行を制限したい実行ファイル名を記述し、クライアントに送付することによって、クライアントはこのリストにある実行ファイルを起動できなくなります。

■ 危険プログラムリストの作成

- 1) 任意の ini ファイルを作成し、以下の形式で追加したい実行ファイルを記述します。

[PROGRAM_LIST]

0=Notepad.exe

1=C:\WINNT\system32\calc.exe

2=WordPad.exe

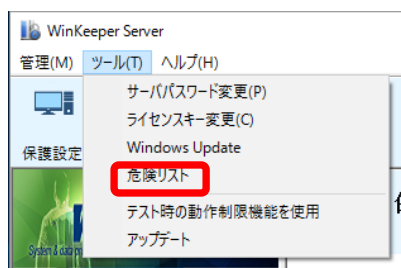
3=MSPaint.exe

4=.....

(ファイル名だけ入力、あるいは全体フォルダ名込みで入力可能。大小文字区分しません)

- 2) [危険リスト]をクリックします。

図 5-2-62



- 3) [危険リスト]パネルが表示されます。グループ、クライアント PC、ファイル名を指定します。

図 5-2-63

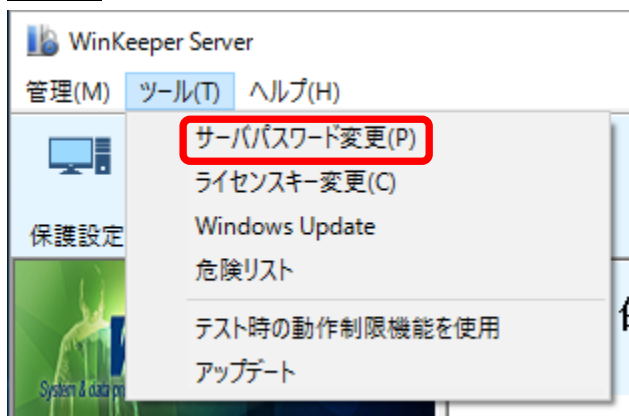


- 4) [転送]をクリックして、作成したファイルをクライアント PC に送付します。
全員に送る時は[すべて選択]をクリックします。

パスワードの変更

- 1) [パスワード]をクリックします。

図 5-2-64



- 2) [WinKeeper パスワード変更]画面が表示されます。
新しいパスワードを入力して[確認]をクリックします。

図 5-2-65



セキュリティのことを考慮し、WinKeeper Client / WinKeeper TB Client と同一のパスワードにしないようにしてください。

保護設定スケジュールの設定

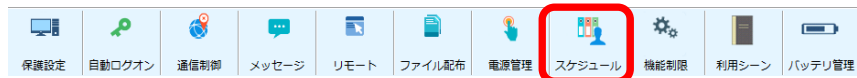
■ 設定前の注意事項

保護設定スケジュールは、保護設定の内容を指定した時間により変更する機能です。保護設定を複数持ち、時間にしたがって、保護内容が自動で適用されます。

■ 設定手順

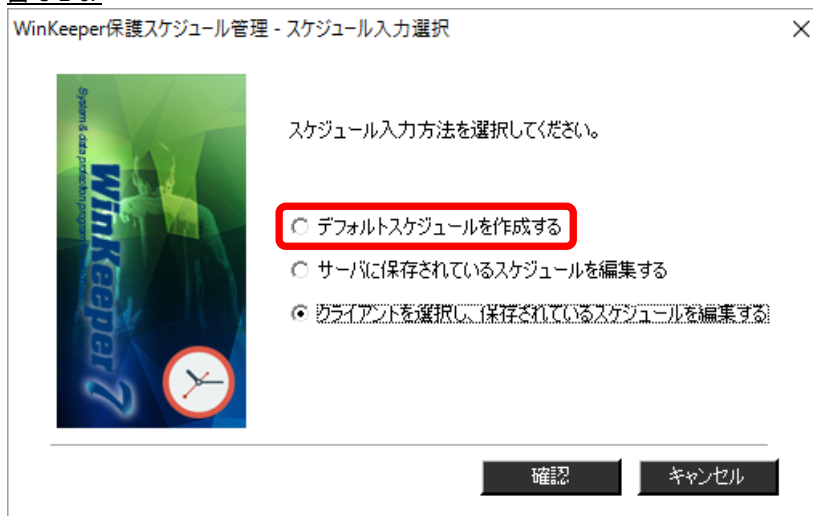
- 1) [スケジュール]をクリックします。

図 5-2-66



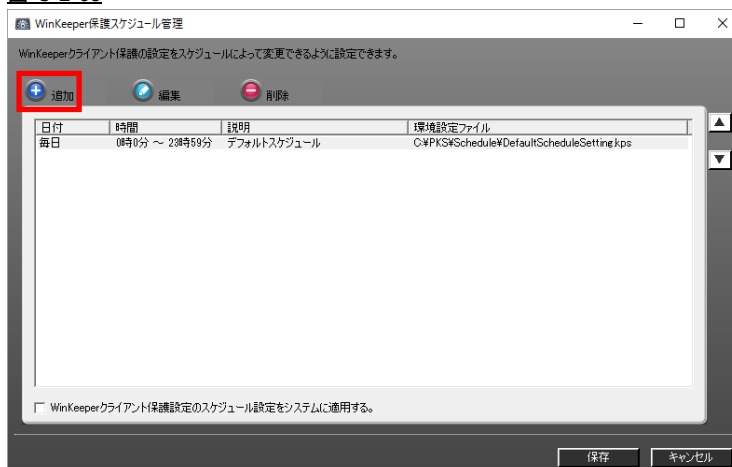
- 2) [スケジュール入力選択]画面が表示されます。スケジュールの入力方法を選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-67



- 3) [デフォルトスケジュールを作成する]を選択し、スケジュールが1つもない場合にデフォルトスケジュールの設定ファイルに使われる設定ファイルを選択するようにメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。
- 4) 設定ファイルの選択画面が表示されます。選択して[開く]をクリックします。
- 5) [保護スケジュール管理]画面が表示されます。[追加]をクリックします。

図 5-2-68



- 6) [スケジュール入力]画面が表示されます。
各項目を設定して、[確認]をクリックします。

図 5-2-69

図 5-2-70

図 5-2-71

図 5-2-72

表 5-2-11

項 目		説 明
日	日時	毎日 : 毎日タスクを実行します。 指定された曜日 : 指定された曜日にタスクを実行します。 指定された日 : 指定された日にタスクを実行します。 毎月 : 指定された日に毎月タスクを実行します。 使わない : このタスクは実行しません。
曜日		指定された曜日を選択した時、曜日を指定します。
期間		指定された日を選択した時、日付の開始と終了を指定します。
日にち		毎月の指定された日を選択した時、日にちを指定します。
説明		スケジュールに対する説明を入力します。
設定ファイル		適用される環境設定の設定ファイルを指定します。

- 7) スケジュールを適用する場合は、[WinKeeper クライアント保護設定のスケジュール設定をシステムに適用する]をチェックし、画面右下の[保存]をクリックします。

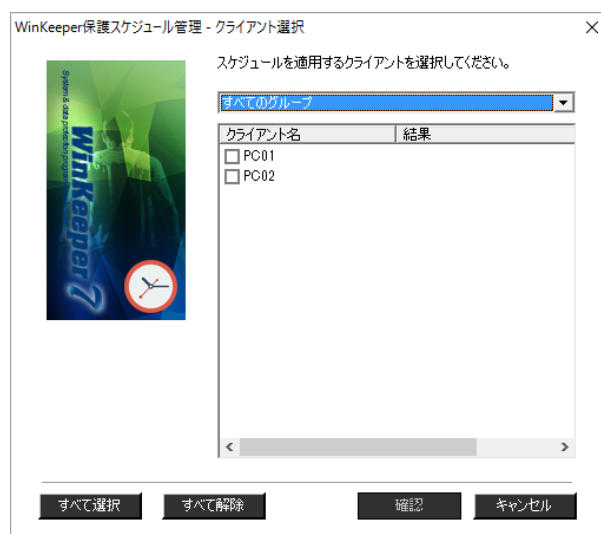
図 5-2-73

- 8) [スケジュール設定を保存してプログラムを終了しますか?] という確認メッセージが表示されます。
[はい]をクリックします。

図 5-2-74

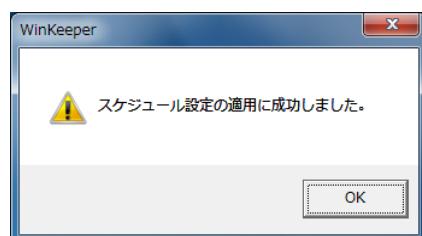
- 9) [クライアント選択]画面が表示されます。スケジュールを適用するクライアントを選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-75



- 10) [スケジュール設定の適用に成功しました]のメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。

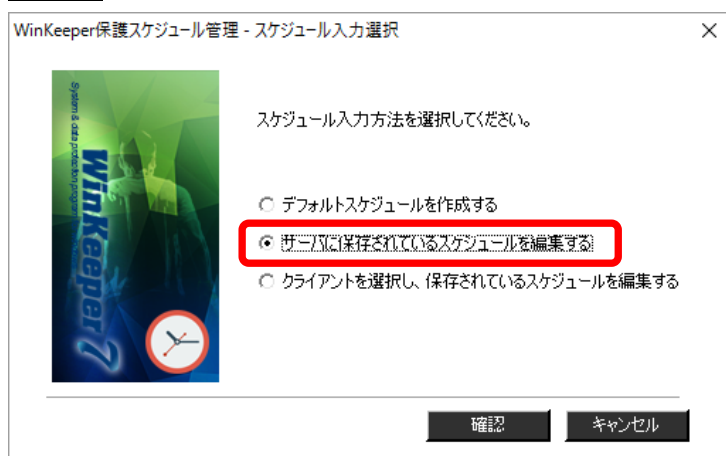
図 5-2-76



■ サーバに保存されているスケジュールを編集する

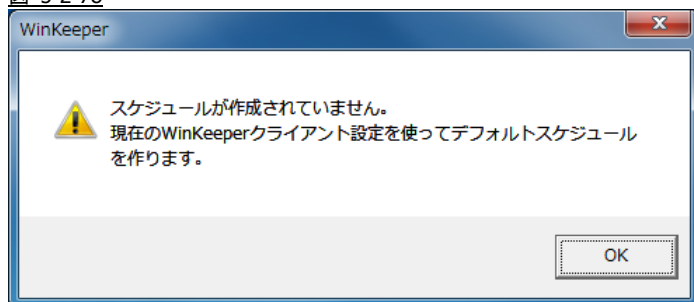
- 1) [サーバに保存されているスケジュールを編集する]を選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-77



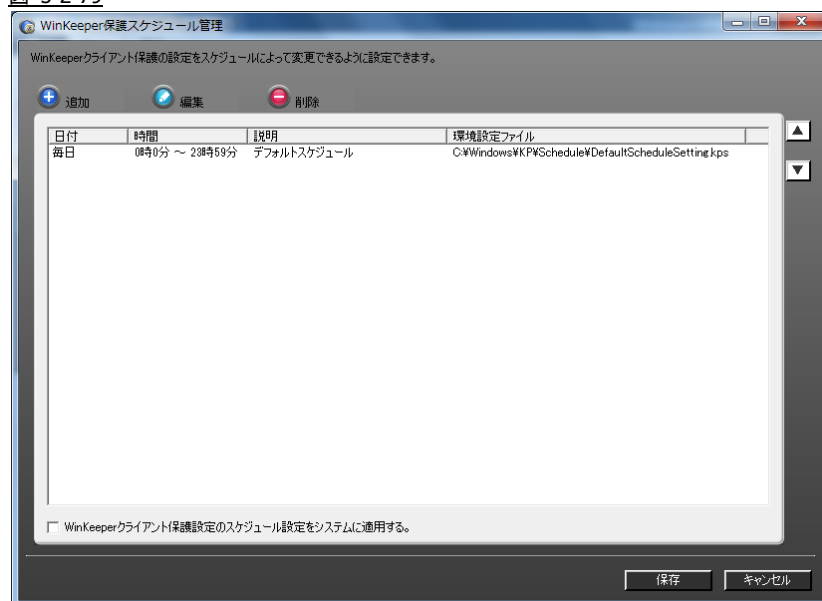
- 2) スケジュールが1つも無い場合に WinKeeper クライアント設定を使ってデフォルトスケジュールスケジュールを作成するメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。

図 5-2-78



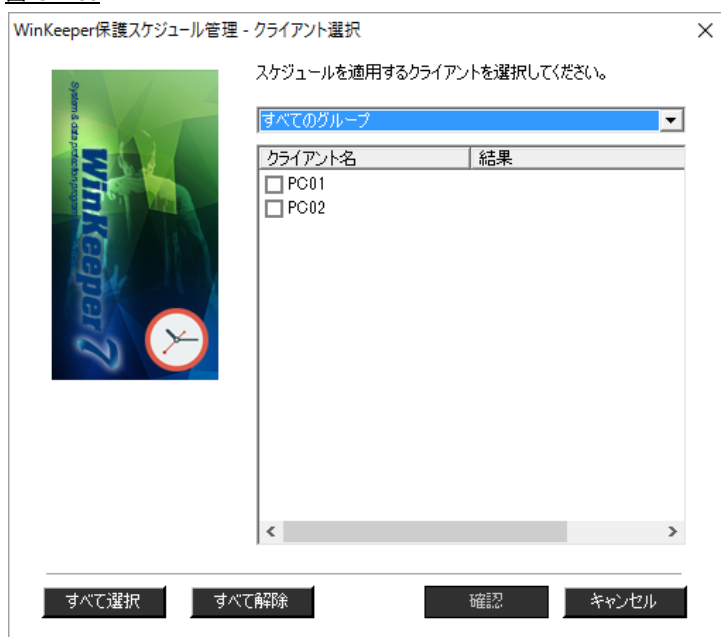
- 3) [WinKeeper 保護スケジュール管理]画面が表示されます。スケジュールの「追加」、「編集」、「削除」を行います。

図 5-2-79



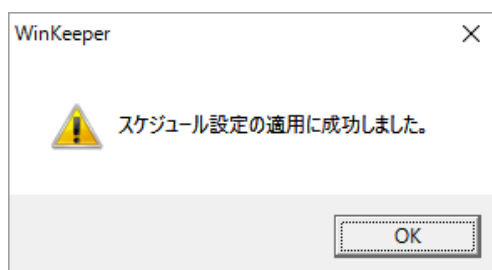
- 4) スケジュールの「追加」、「編集」、「削除」を行い、[保存]をクリックすると。クライアント選択の画面が表示されます。
スケジュールを適用するクライアントを選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-80



- 5) スケジュール設定の適用した結果の画面が表示されます。[OK]をクリックします。

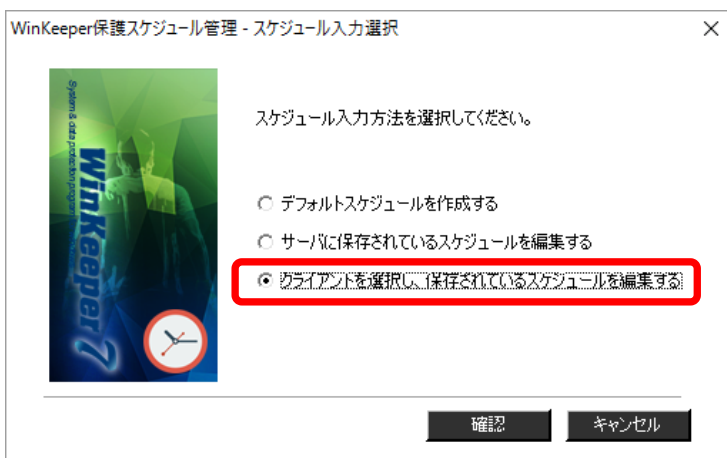
図 5-2-81



■ クライアントを選択し、保存されているスケジュールを編集する

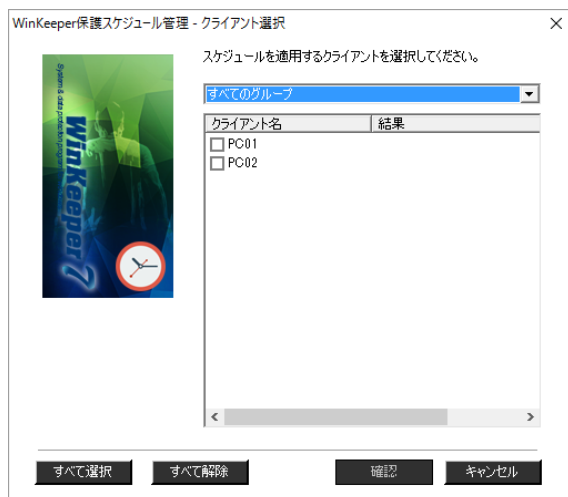
- 1) [クライアントを選択し、保存されているスケジュールを編集する]を選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-82



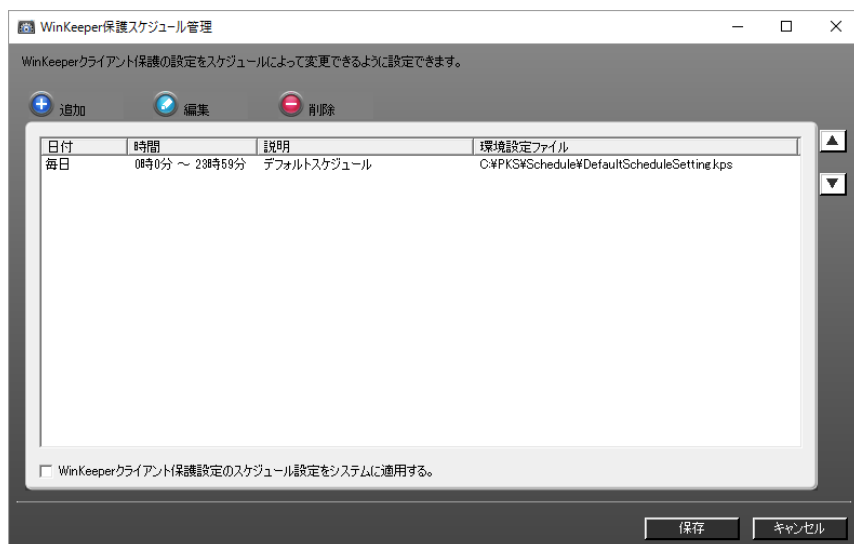
- 2) [クライアント選択]画面が表示されます。クライアントを選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-83



- 3) [WinKeeper 保護スケジュール管理]画面が表示されます。スケジュールの「追加」、「編集」、「削除」を行います。

図 5-2-84



■ 作成したスケジュールを編集する場合

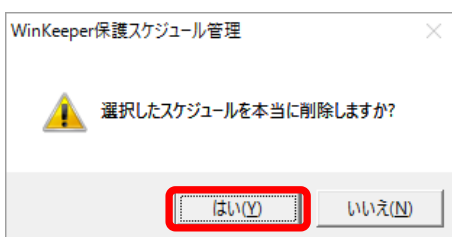
- 1) 編集を行う既存スケジュールを選択し、「WinKeeper 保護スケジュール管理」画面上部の[編集]をクリックします。
- 2) [スケジュール入力] 画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

■ 作成したスケジュールを削除する場合

- 1) 削除を行う既存のスケジュールを選択し、「WinKeeper 保護スケジュール管理」画面上部の[削除]をクリックします。
- 2) 削除の確認画面が表示されます。

既存のスケジュールを削除する場合は、[はい]をクリックします。

図 5-2-85



- 同一日時・時刻に複数のスケジュールが登録されている場合、先に登録されているスケジュールで動作します。

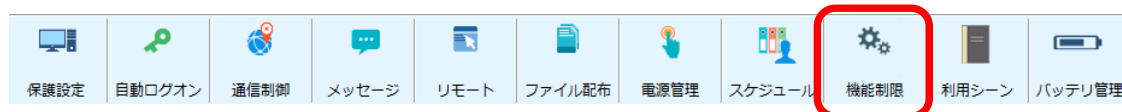
機能制限

クライアント PC で使用する OS 機能を制限することができます。

■ 設定手順

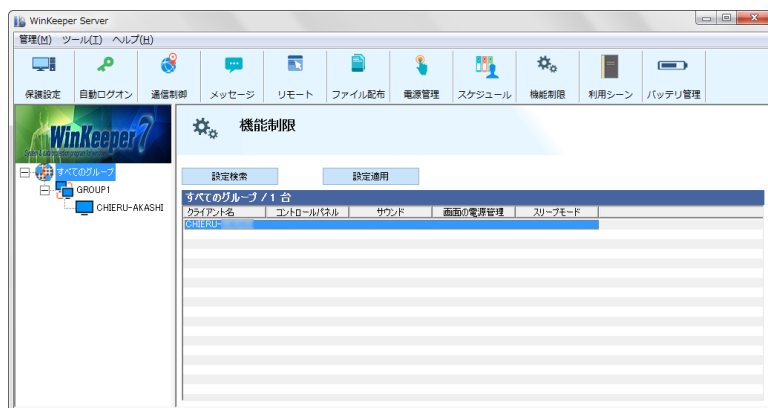
- 1) [機能制限]をクリックします。

図 5-2-86



- 2) [機能制限]画面が表示されます。

図 5-2-87



- 3) 許可 / 禁止部分ををクリックすると、状態が変わります。制限したい内容に設定をします。

図 5-2-88

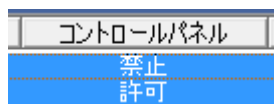
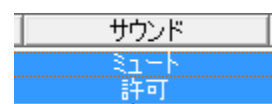
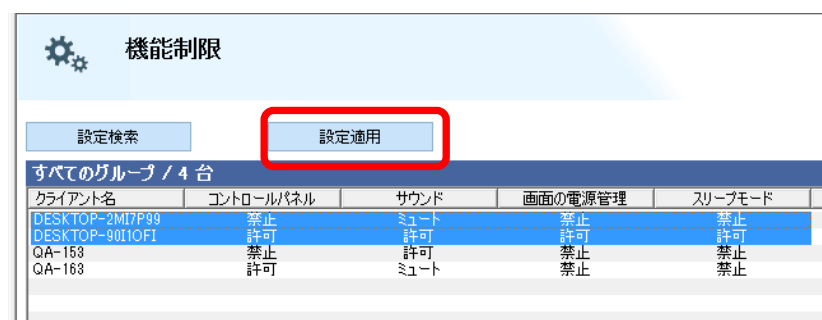


図 5-2-89



- 4) 制限したい PC を選んで、設定適用ボタンをクリックします。

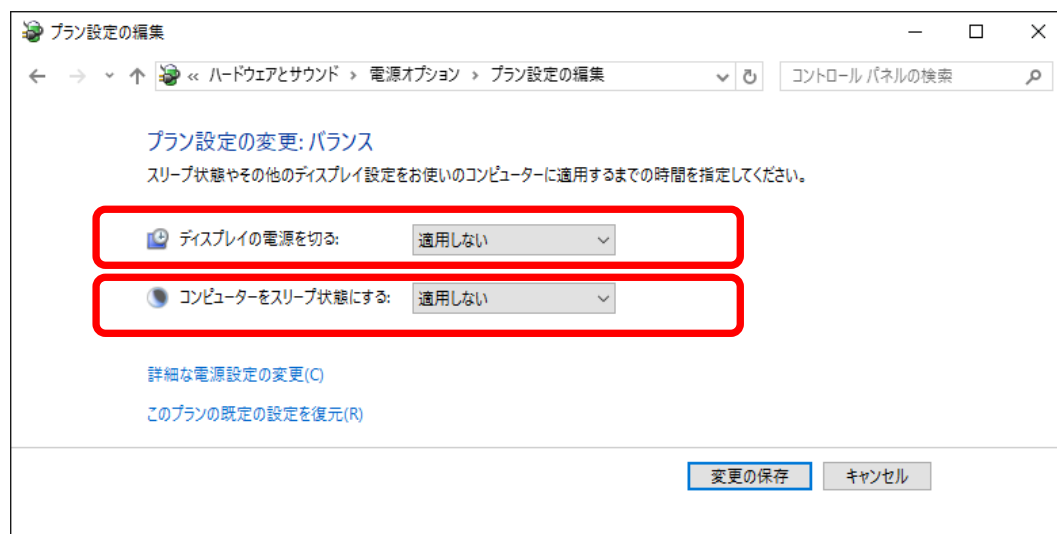
図 5-2-90



- 5) クライアント側で適用されていることを確認します。

画面の電源管理とスリープモードの禁止の状態

図 5-2-91



- コントロールパネルの[禁止]は、保護実行時のみ有効となります。
- 機能制限を利用した場合、電源オプションの設定は復元されません。
- 画面の電源管理を[許可]とした場合、[ディスプレイの電源を切る]が2時間となります。
- スリープモードを[許可]とした場合、[コンピューターをスリープ状態にする]が2時間となります。

利用シーンの設定 ※WinKeeper TB Server, WinKeeper TB Client のみ

タブレット向けの環境を利用シーンに応じて一斉に切り替えます。様々な用途に最適な環境を用意することで、それぞれの学習に集中させることができます。

■ 利用シーンの設定

- 1) [利用シーン]をクリックします。

(WinKeeper TB Client の場合はタスクトレイより[利用シーンの切り換え]をクリックします。)

図 5-2-92 WinKeeper TB Server の場合

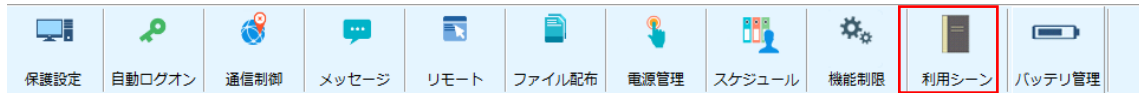
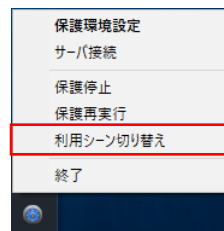
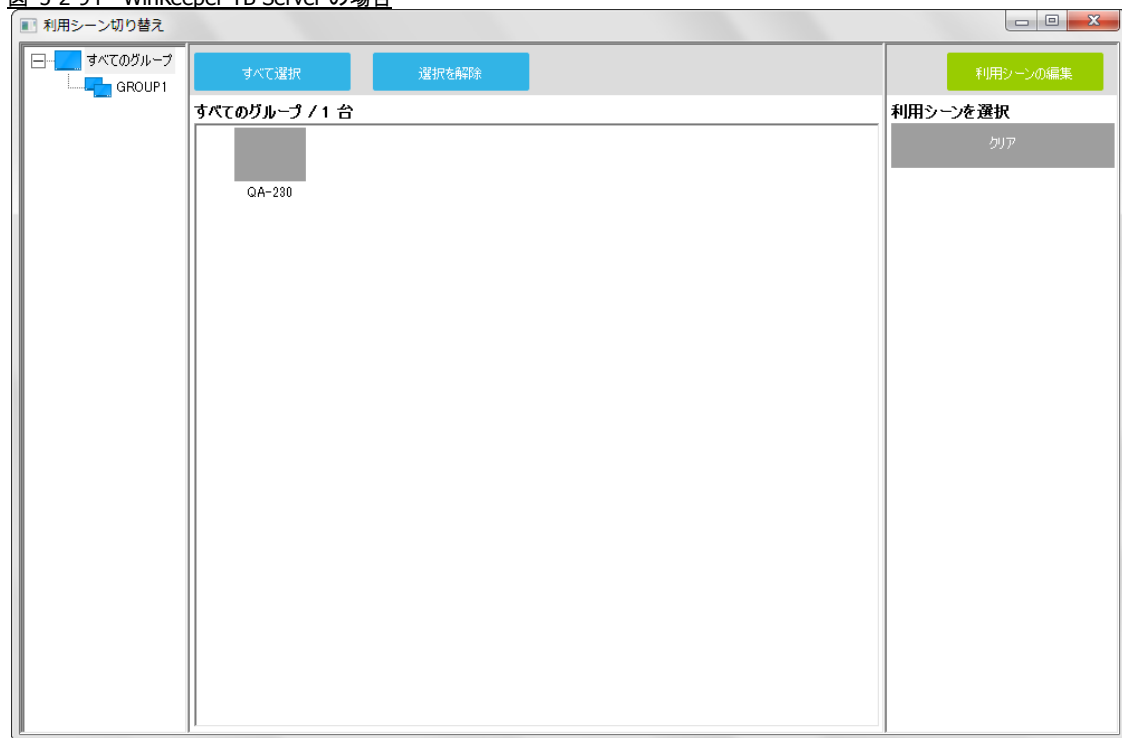


図 5-2-93 WinKeeper TB Client の場合



- 2) [利用シーン切り替え]画面が表示されます。

図 5-2-94 WinKeeper TB Server の場合



この画面には以下のボタンがあります。

表 5-2-12

項 目	説 明
すべて選択	表示されている端末をすべて選択します。
選択を解除	表示されている端末の選択を解除します。
利用シーンの編集	利用シーン設定編集画面が表示されます。
クリア	選択されている端末の利用シーンを無効化します。

- クライアントアイコンをダブルクリックすると 1～250 までの番号を設定でき、その番号順でソートされます。

図 5-2-95 WinKeeper TB Client の場合

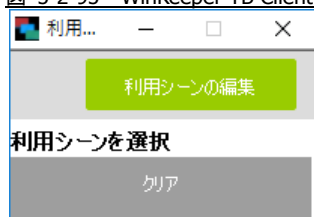


表 5-2-13

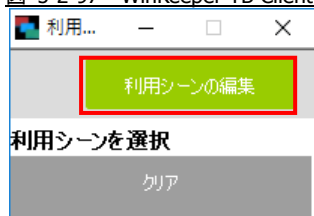
項 目	説 明
利用シーンの編集	利用シーン設定編集画面が表示されます。
クリア	選択されている端末の利用シーンを無効化します。

- 3) [利用シーンの編集]をクリックします。

図 5-2-96 WinKeeper TB Sever の場合



図 5-2-97 WinKeeper TB Client の場合



- 4) [利用シーン設定編集]画面が表示されます。[追加]ボタンをクリックします。

図 5-2-98



5) [利用シーン設定の編集]画面が表示されます

図 5-2-99

この画面には以下の項目があります。

表 5-2-14

項 目		説 明
設定名称	利用シーンの名前を入力します。	
説明	利用シーンに対する説明を入力します。	
表示アイコン	利用シーンを表現する色を選択します。	
設定	デスクトップ設定	デスクトップに表示する壁紙やアイコンを設定します。
	メッセージ設定	デスクトップに表示するメッセージを表示します。
	利用プログラム制限	プログラムの利用可不可を設定します。
	USB デバイス接続管理	USB デバイスの利用を制限します。
	システム監視モード切替	画面ロックやアラームを発動させるシステムのポリシーを設定します。

6) デスクトップ設定の[詳細設定]をクリックすると、[デスクトップ設定]画面が表示されます。

図 5-2-100



この画面には以下の項目があります。

表 5-2-15

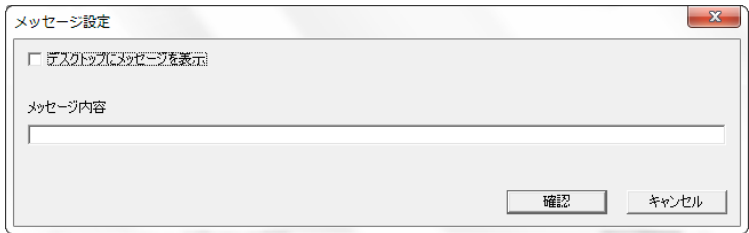
項 目	説 明
壁紙を変更する	[壁紙のファイルのパス]で指定された壁紙を表示します。
壁紙のファイルのパス	壁紙に利用するイメージファイルのパスを入力します。
検索	ダイアログが表示され、イメージファイルを選択できます。
追加	ショートカットを追加します。
編集	選択されたショートカットを編集します。
削除	選択されたショートカットを削除します。
確認	操作した内容を保存して、ウィンドウを閉じます。
キャンセル	操作した内容を破棄して、ウィンドウを閉じます。

- 壁紙を変更する場合、[壁紙のファイルのパス]で入力した場所に対象ファイルが各クライアントに保存されている必要があります。
- [追加]をクリックすると、ショートカットの設定を自動で行うか聞かれて、[はい]をクリックすると、選択したファイル名がショートカット名として反映されます。

7) メッセージ設定の[詳細設定]をクリックすると、[メッセージ設定]画面が表示されます。

[デスクトップにメッセージを表示]をチェックすると、[メッセージ内容]に入力した内容が表示されたウィンドウがクライアント PC の画面に常時表示されます。

図 5-2-101



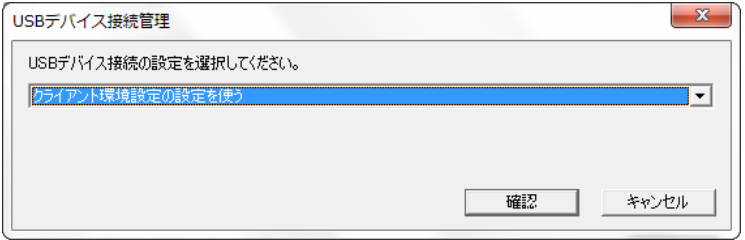
- 8) 利用プログラム制限の[詳細設定]をクリックすると、[利用プログラム設定]画面が表示されます。
 ホワイトリストまたはブラックリストを用いて、利用可能なプログラムを制限します。対象となるプログラムは exe 形式の
 ファイルを指定することで追加できます。

図 5-2-102



- 9) USB デバイス接続管理の[詳細設定]をクリックすると、[USB デバイス接続管理]画面が表示されます。

図 5-2-103



この画面では以下の選択肢を選択できます。

表 5-2-16

項 目	説 明
クライアント環境設定の設定を使う	クライアント側で設定した[USB ドライブ使用]の値を使用します。
USB デバイスの接続を制限しない	USB デバイスを利用できます。
USB デバイスの接続を制限する	USB デバイスを利用できません。

10) システム監視モード切替の[詳細設定]をクリックすると、[システム監視]画面が表示されます。

図 5-2-104

システム監視

ネットワーク監視ポリシー システム監視ポリシー アクション

☐ オフライン(ネットワーク接続がない)時はアクションを実行する。

☐ ネットワークの接続先を監視する。
(指定ゲートウェイ以外への接続を検知したらアクションを実行。アドレスは最大30個まで指定可能。カンマで区切る)

無線LAN固有

☐ 指定の無線LANの圏外ではアクションを実行する。
0 時間、指定のSSIDが検出できない状態が続いたらアクションを実行する。0の場合は即実行。

☒ 指定のSSID以外への接続を検出した場合、接続を切断する。

指定のSSID

SSIDは最大10個まで指定可能。複数場合は半角カンマで区切る。

☐ ネットワークの接続状態を一定時間監視する。
(0 日 1 時間以上接続がなければアクションを実行。)

疎通確認先 接続間隔 10 分

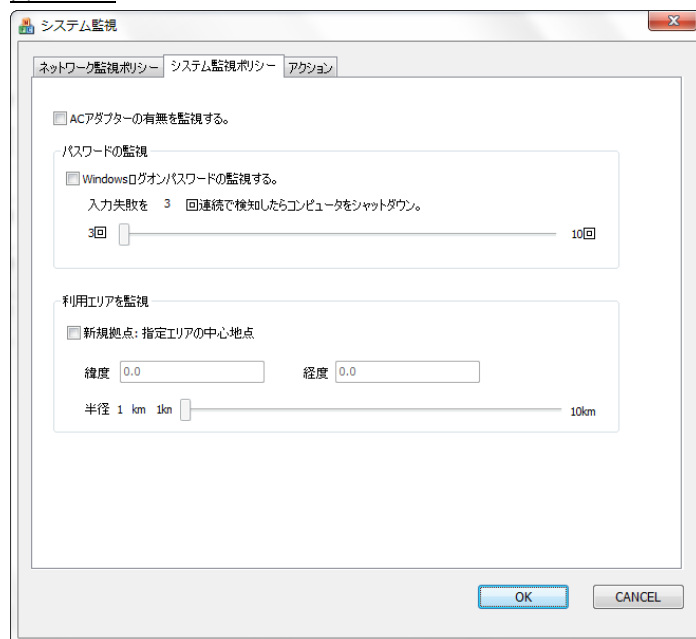
OK CANCEL

[ネットワーク管理ポリシー]タブの画面では以下の項目があります。

表 5-2-17

項 目	説 明
オフライン時はアクションを実行する	端末がオフラインになると、[アクション]タブの内容を実行します。
ネットワーク接続先を監視する	指定ゲートウェイ以外に接続すると、[アクション]タブの内容を実行します。
指定の無線 LAN の圏外ではアクションを実行する	指定の SSID と一定時間接続できない状況が発生すると、[アクション]タブの内容を実行します。
指定の SSID 以外への接続を検出した場合、接続を切断する	指定の SSID 以外への接続を検出した場合、検出した SSID への接続を切断します。
ネットワークの接続状態を一定時間監視する	疎通確認先の IP アドレスと一定期間疎通が確認できない場合、[アクション]タブの内容を実行します。

図 5-2-105



[システム監視ポリシー]タブの画面では以下の項目があります。

表 5-2-18

項 目	説 明
AC アダプタの有無を監視する	端末が AC アダプタを認識できない場合、[アクション]タブの内容を実行します。
Windows ログインパスワードの監視する	ログインに指定した回数失敗した場合、シャットダウンします。
新規拠点：指定エリアの中心地点	指定した緯度、経度を中心とし、指定した範囲を外れた場合、[アクション]タブの内容を実行します。

図 5-2-106

[アクション]タブの画面では以下の項目があります。

表 5-2-19

項 目	説 明
操作ロック中に表示されるメッセージ	操作ロック中に画面に表示される内容を入力します。
ロック実行時にアラームを起動する	操作ロック中にアラームを大音量で鳴らします。
ロック解除キー	操作ロックの解除キーを入力します。
ディスクの全消去(自動)	操作ロックの時間制限を設定します。設定した時間を超えた場合、ディスクの消去を行います。

- ディスクの全消去(自動)機能を利用する場合、以下のプログラムをインストールが必要となります。
<CD-ROM>WinKeeper TB¥Client¥ClientExtension¥setup.exe を実行してインストールを完了させてください。

- 11) 作成した利用シーンが画面右側に表示されるため、端末を選択した上で、適用したい利用シーンをクリックします。
 (WinKeeper TB Client の場合は適用したい利用シーンをクリックするだけで設定が適用されます。)

図 5-2-107 WinKeeper TB Server の場合

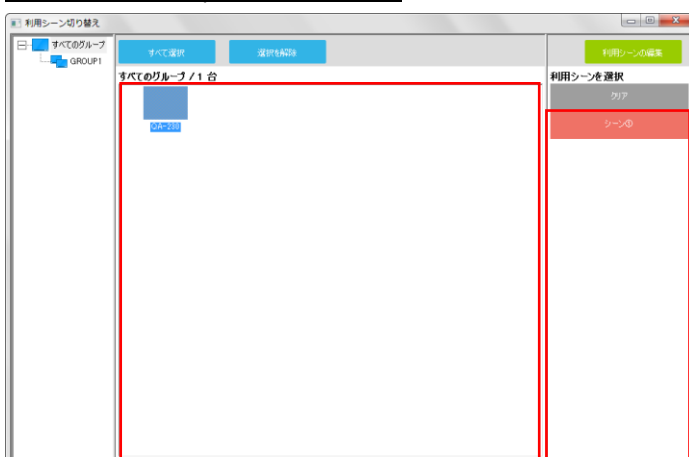


図 5-2-108 WinKeeper TB Client の場合



- WinKeeper TB Server から利用シーンを WinKeeper TB Client に適用した場合、選択した端末アイコンの色が利用シーンで適用した色になります。
 - WinKeeper TB Server から利用シーンを WinKeeper TB Client に適用した状態で、WinKeeper TB Client より利用シーンを切り換えた場合、端末アイコンは「？」で表示されます。利用シーンの色を端末アイコンに再度表示させたい場合は、WinKeeper TB Server から改めて利用シーンを適用する必要があります。
- また、WinKeeper TB Client 側で作成した利用シーンをご利用になる場合は、WinKeeper TB Server から利用シーンを WinKeeper TB Client に適用した場合、WinKeeper TB Server の設定内容が上書きされる為、ご注意ください。

図 5-2-109

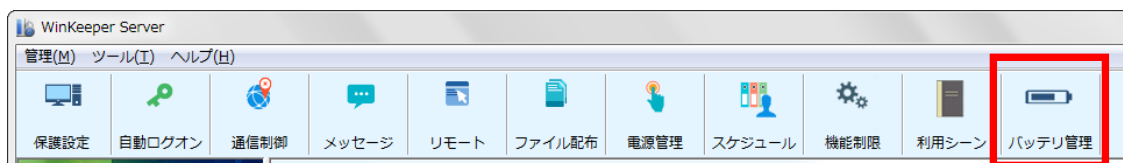


バッテリー管理の設定 ※WinKeeper TB Server のみ

バッテリー管理は、管理下にある WinKeeper TB Client 端末のバッテリー残量の把握とバッテリー残量に応じて、WinKeeper TB Client 端末にメッセージの表示を行います。

- 1) [バッテリー管理]をクリックします。

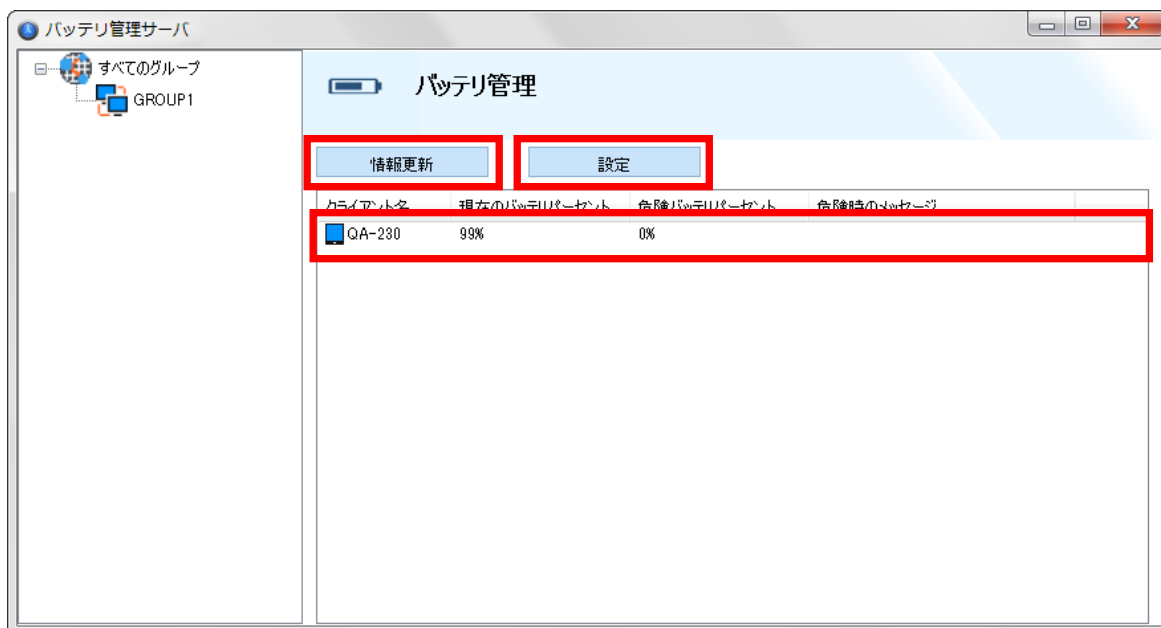
図 5-2-110



- 2) 操作する端末を選択し、[設定]をクリックします。

最新の情報を取得するには、[情報更新]をクリックします。

図 5-2-111

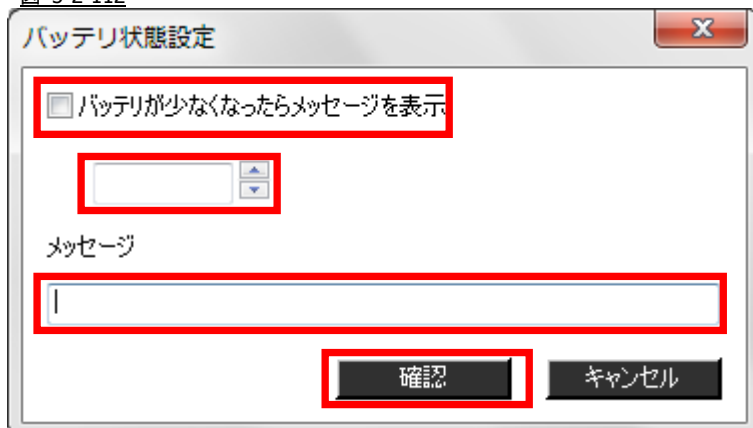


- 危険バッテリーパーセントを下回った端末は、赤字で表示されます。
- 端末未選択の場合、全台が対象となります。

- 3) 危険バッテリーパーセントを入力し、[確認]をクリックします。

[バッテリーが少なくなったらメッセージを表示]をチェックすると、危険バッテリーパーセントを下回った時、メッセージの内容が端末に表示されます。「バッテリー残量が少なくなったため、充電して下さい。」等のメッセージを表示することで、利用者に対して、タブレットの充電を促すことができます。

図 5-2-112



WinKeeper TB (利用シーン)アクションの解除方法について

WinKeeper TB 利用シーン機能利用におけるアクションの解除方法について説明します。

■ 発動したアクションの解除方法について

ポリシー違反により発動したアクションは、以下の3つの方法で解除することが可能です。

- ・ポリシー違反状態からの回復
- ・解除キーのパスワードを記述した解除設定ファイルをUSBメモリのルートドライブ直下へ配置し、アクションを発動しているデバイスに認識させる。
- ・WinKeeper TB Server へ接続できる環境下へ配置し、クリアを配信する。

■ 解除キーを保存したUSBメモリにて解除できない場合について

「WKTbv150 利用シーン機能注意事項」資料の制限事項にもありますが、デバイスの稼働状態等により、正常にロック画面が表示されない、もしくは逆に、完全にアクションが解除されない場合があります。

現時点では、以下のような動作を確認しておりますので、運用の際に本情報をご活用ください。

○アクション実行状態のデスクトップ画面

- ・青いロック画面が正常に表示される
- ・コマンドプロンプトのウィンドウが半分表示された状態でフリーズしたような状態となる

○アクション解除時のデスクトップ画面

- ・正常にロック等が解除され、ウィンドウ画面が操作できる
- ・黒やグレーの画面になり、キーボードやマウス操作の状態が不明である
→この時点でロックは解除されています。「Ctrl+Alt+Del」を一度実行し、デスクトップ画面を活性化させて下さい。

※解除後はOS再起動することで正常にご利用が可能となります。

※デバイスの種類により、外部キーボードをさして、操作を実行下さい。

WinKeeper v7.5 / WinKeeper TB v1.5 管理者マニュアル

2018 年 6 月

作成/発行/企画 チエル 株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー3F

※記載されている会社名および商品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

- ・ 本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容の一部、または全部を無断で転載、あるいは複製することを禁じます。
- ・ 本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一記載に誤りや不完全な点がありましたらご容赦ください。

サービスサポートについて

下記サポートセンターまでお問い合わせください。

CHieru チエル 株式会社

URL: <http://technical.chieru.co.jp/>

E-Mail: support@chieru.co.jp

TEL: 03-5781-8110

FAX: 03-6712-9461

CHieru チエル 株式会社

- 本 社／〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー3F
TEL: (03)6712-9721 FAX: (03)6712-9461
- 札幌営業所／〒060-0062 北海道札幌市中央区南 2 条西 9 丁目 1-2 サンケン札幌ビル 6F
TEL: (011)738-8133 FAX: (011)738-8134
- 仙台営業所／〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院 1-1-5 タカノボル第 25 ビル 4F
TEL: (022)217-2888 FAX: (022)206-5222
- 首都圏営業所／〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー3F
TEL: (03)6712-9471 FAX: (03)6712-9461
- 名古屋営業所／〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 3-21-25 清風ビル 2F
TEL: (052) 687-2225 FAX: (052) 687-2226
- 大阪営業所／〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 7-1-29 新大阪 SONE ビル 5F
TEL: (06)6838-3077 FAX: (06)4806-7056
- 福岡営業所／〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-10-12 J-MAX ビル 6F
TEL: (092) 483-1603 FAX: (092)483-1604
- 沖縄営業所／〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町 4-99-1 まるしんビル 1F
TEL: (098)886-1715 FAX: (098)886-1725

URL: <http://www.chieru.co.jp/>